

JAHIS

会誌

2024.8 **73** 号



目次

巻頭言	一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会 会長	長堀 泉	2
JAHISひろば	香川大学医学部附属病院 副病院長 医療情報部部长／教授・臨床研究支援センター長 一般社団法人日本医療情報学会 副代表理事	横井 英人	4
特集／トピックス	一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会 役員のご紹介		10
	事業推進部 ホスピタルショウ委員会報告		12
新任役員のご挨拶	副会長	高橋 秀明	14
	副会長	柿沼 良彦	16
	副会長	浅見 英徳	18
	副会長	成行 書史	20
	理事	長谷川 裕明	21
	監事	棟川 治樹	23
	監事	福田 隆	24
新任部会長のご挨拶・抱負	運営会議 議長	岩津 聖二	26
	標準化推進部会 部会長	湯澤 史佳	28
	医療システム部会 部会長	福岡 衡治	29
	保健福祉システム部会 部会長	斎藤 貴洋	31
	事業推進部 部長	植木 精司	33
部会から	2024年第14期定時社員総会&懇親会を開催しました	寺崎 貴宏	34
	医療DX実現に向けた標準化の推進活動	田中 宏明	37
	令和6年度調剤報酬改定の振り返り	宮島 毅	40
	「JAHISヘルスケアPKIを利用した医療文書に対する電子署名規格 Ver.3.0」の策定について	有馬 一閣	45
	「JAHIS看護データセット適用ガイド 看護行為編Ver.1.1」制定にあたって	汐崎 弘子 木戸 須美子	50
	IHE-PaLM会議に参加して	深川 一成	54
	自治体情報システムの標準化・共通化への対応について	川崎 英樹	58
	JAHIS教育コース オンデマンド化への取り組み	三田村 一治	62
表彰受賞者紹介			65
運営状況報告	運営会議状況報告／委員派遣ならびに講演、寄稿、取材等		80
新規会員紹介	株式会社エー・アンド・デイ／株式会社 日本HP／キンドリルジャパン株式会社／ 株式会社シーイーシー／株式会社ヨシダデンタルシステム／ NECソリューションイノベータ株式会社／株式会社アルメックス		93
ランクアップ会員紹介	株式会社ナイス		99
事務局新人紹介	事務局 事業推進担当部長	佐々木 元	100
	事業企画推進室 副室長	齋須 亨	102
編集後記			104

ご挨拶



一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会
会長

ながほり いずみ

長堀 泉

富士通Japan(株)
代表取締役社長

一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）会員の皆様におかれましては、平素よりJAHIS活動にご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年度よりJAHIS会長を務めさせていただくこととなりました富士通Japanの長堀でございます。

皆様ご存じのとおり、世界に先駆けて超高齢社会を迎えた日本では、少子高齢化や医療費の逼迫など、様々な課題が顕在化し生活に影を落としています。我々が貢献してきた保健医療福祉の分野でも、これらの課題を解決することが急務となっています。

政府では、データヘルス改革として、国民一人一人が健康情報を主体的に管理・活用し、医療従事者と連携しながら、予防・治療・介護を一体的に行うことで、健康寿命の延伸と医療費の適正化を図るデジタル社会を強力に推進されてきました。2024年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2024（骨太2024）」では、「医療DXの推進に関する工程表」に基づき、「全国医療情報プラットフォーム」を構築するほか、電子カルテの導入や電子カルテ情報の標準化、診療報酬改定DX、PHRの整備・普及を強力に進めるとあります。また同時に閣議決定された「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2024改訂版」では、その稼働時期が具体的に明記され、待ったなしの状況です。AIホスピタルの社会実装の推進や、医療機関等におけるサイバーセキュリティ対策の着実な実施、電子処方箋の全国的な普及拡大など、今後も医療DXが強力に推進されるものと考えております。

JAHISは、健康で豊かな国民生活を支える保健医療福祉情報システムの実現を目指して、「データ循環型社会の実現」をコンセプトに「2030ビジョン」を掲げ、その中で、健康・医療・介護分野のデータを蓄積・循環し利活用することで、データ提供者であり所有者でもある国民が利益を享受し、「健康で安心して暮らせる社会」を描き邁進してきましたが、これは政府が進める取組みと相まっていると考えております。JAHISは今年で設立30周年を迎えますが、Beyond2030と

いう新たな未来を目指して更なるビジョンを策定していきたいと考えております。

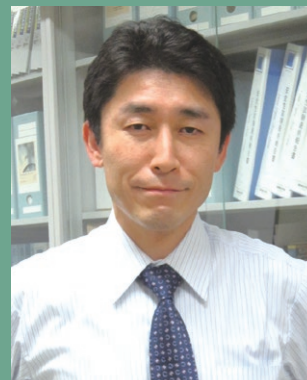
データヘルス改革・医療DXは単なるシステムの更新ではなく、国民一人一人が自分自身の診療データや健診結果などを主体的に管理し活用していくといった、データを起点とした考え方であり、その点では大きな転換期とも言えます。「データヘルス改革・医療DX」を成功させ、日本の社会課題解決の一助となれるよう、今後もコンプライアンスを遵守しつつ、各省庁、学会等の関係団体と連携しながら、共通基盤整備、標準化の推進など積極的な対応を行ってまいります。

皆様の一層のご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

私の趣味など

香川大学医学部附属病院 副病院長（研究担当）
医療情報部部长／教授・臨床研究支援センター長
一般社団法人日本医療情報学会 副代表理事（副理事長）

よこい ひでと
横井 英人



JAHISの皆様、こんにちは。香川大学の横井です。この挨拶も十分に板について、私は今年で香川に移って満20年になります。

私のことをご存じない方も多いと思いますので、最初に少し自己紹介をします。私は1996年、旧香川医科大学を卒業後、千葉大学の医療情報部に入ることになりましたが、当時の教授、里村先生の「まずは臨床を学んでこい」とのお言葉に従い、卒後はまず内科に出向し、消化器内科を中心に4年間、臨床に従事しました。その後、医療情報部に戻り、大学院生として、医療情報を学び始めました。里村教室最後の弟子と自認しています。千葉大学の電子カルテ運用開始に立ち会ってから、厚労省の薬事部門、現在の医薬品医療機器総合機構（PMDA）に出向後、母校で医療情報に人がいなくて困っている、とのことで香川に戻り、現在に至ります。

医療情報を志した理由については、話せば長くなるので別の機会にするとして、ここでは、三度の飯よりコンピュータが好きであったことと、学生時代に実習で動物実験をするのがいやだったので、いわゆるドライな研究をしたいと思ったこと、としておきます。他の先生のように、大々的に宣伝できるような趣味であるとか、こなれた話があるわけでもなく、さて何を書こうか、とずっと悩みました。今、人に話せるような趣味、といえばウォーキングぐらいです。今回はその話をさせて下さい。

1. ウォーキングについて

スマホを持ったあとの最大の変革は、よく歩くようになったことです。世界中どこでも道に迷うことがなくなりましたから。飛行機の関係で、少し時間に余裕があったりすると、都内では、数駅手前で降りて歩きます。よく言われるように、歩いていると電車や車では見過ごしてしまう沢山のものを見ることができます。私は時代劇が好きなので、江戸時代に〇〇藩邸だった場所、などというささやかな旧跡でも楽しく思えますし、もちろん隙間時間を運動に使えるのも魅力です。また東北震災の後に行われた様々なシミュレーションを見るに、道路を含めた交通インフラが麻痺することが想定され、頼りになるのは自分の足だと感じたことも始めた理由の一つです。

ここ数年は、だんだん歩く距離が長くなって、隙間時間の利用ではなくなって来ています。よく歩くルートは、羽田空港から陸地（たいてい蒲田駅周辺までの約10km）です。多くの方はご存じないと思いますが、羽田空港から「脱出」するのはいくつかコツがあります。三つあるターミナルのうち、国際線の第三ターミナルが一番出口に近く、比較的すぐに空港の外に出られますが、国内線からの道はまるで迷路みたいで、途中で歩道がなくなったりします。ちなみに（今でも変わっていないと思います

が）第二ターミナルの出口から道路に出ても羽田空港脱出はできませんので、第一ターミナルから出て、ネットなどでよく道順を調べて実施することをお勧めします。

初めて羽田で歩いたのは10年くらい前で、蒲田から空港を目指しました。第三ターミナルまでは問題なかったのですが、日本航空の整備場のあたりから怪しくなってきた、第一ターミナルまであと数百メートル、車道なら道一本でいけるところで歩道がなくなってしまいました。このあたりは多くの人が迷うところらしいです。同じ道の対岸の歩道であればそのまま行けたのですが、こちらの側からだとちょっと後戻りして陸橋を越えて対岸に渡る必要があるのです。自動車しか通れない道、横断歩道のないところを歩いてはねられたりすると格好悪いので、さてどうしたものか、と思って辺りを見回したら、少し離れたところにパトカーが停まっているのが見えました。歩み寄って、第一ターミナルに行きたいのだけれども道がなくなって困っている旨を伝えると、警察官は「ちょっとややこしいのですが、ここを戻って左に行って、そこから陸橋に乗って……」と確かにややこしい道順を教えてくださいました。言うとおりの陸橋を通过对岸に渡った先には、さっきのパトカーが……

「それで合ってます。後はこの先の階段を下って、下の道路に降りれば、第一ターミナルまでまっすぐ行けます。」と。（ややこしいから先回りして、教えてくれたのかな？）と思いながら、第一ターミナルまでの歩道に降り、もう目の前に第一ターミナルが、というタイミングで、後ろからパトカーが追い抜いていきました。多分、あのパトカーだったのだと思います。私が最後まで迷わずに行けるか確かめてくれたのでしょうか。私の道楽のために、警察官に20分以上にわたって尾行、いや先回り？させてしまいました。



オリンピックの帰り道（蒲田駅前～羽田空港）

Yahoo Mapは私が通る道とほぼ同じ道を表示してくれています。徒歩のルートを出してくれないマップもあるのでご注意を。オリンピックから帰るとき、ちょうど記念に写真を撮っていたので、それを貼り付けます。

ちなみに、羽田空港を徒歩で出入りしている人とは毎回何人かすれ違い、その出で立ちから察するに多くは空港関係者かと思います。でも、私のように歩こうとする旅行者もいるようで、恐らく警察の方々は「今日も、おっさんが一人迷っていたよ」と笑っておられたのでしょうか。

数年前に一度、「東京から飛行機で香川の自宅まで帰るプロジェクト」というのを実行しました。これは、電車やバスなど他の手段を使わず、飛行機「だけ」で家に帰る、という企画でした。蒲田のホテルを朝10時頃に出て、先ほどのルートを通して昼前に羽田空港に着き、飛行機で高松空港には15時頃に到着。そのあと高松市内の自宅まで歩きました。これが20kmぐらいあり、秋口の涼しい時期ではあったものの、東京に一泊した後の大きなショルダーバッグが、いつもであれば「ちょっと重いな」と思うくらいなのですが、ぐいぐいと肩に食い込んできて、交互にかけ直しながら家まで必死に歩きました。家に着いたのは20時過ぎで、その頃には多少脱水気味だったのか足元がふらついていました。スマホで少しでも近い道を探して、日が暮れた後、街路灯のない真っ暗な川の土手を歩いている時には「何でこんなことをしているのだろう」と自分に呆れていました。このプロジェクトでは一日の最長歩行距離も約30kmと更新されました。ちなみに、この手のトライ（香川ー東京）には他に、原チャリ（香川から神戸まではフェリーでしたが）で帰ってみた、とか、「青春18きっぷ」1枚で帰ってみた、などがあります。いずれも学生時代の話ですが。

2. 東京オリンピックの話

基本的には今回、ウォーキングつながりの話で行こうと思いますので、次は、2021年の東京オリンピックに参加したことを書きます。参加と言っても、もちろん選手ではありません。私は同大会のホッケー（アイスホッケーではなく陸上で行う方です）の競技会にボランティアとして参加しました。これまた経緯を書くと長くなりますので端折って書くと、私の高校の同期にホッケー競技団体の理事をしている医師がいて、その人に頼まれて1週間大会に参加したということです。

ボランティアの内容は、競技エリア・オリンピック関係者エリアに於ける医療活動でした。つまり我々の行う医療の対象は、選手と大会関係者のみで、観客は一応対象外となっていました。とは言っても、何か緊急事態が起きれば、我々が対処しなくてはならないことも起きるので、期間中、我々は観客席に異常がないか、時々見回ってはいました。でも観客の方々も気をつけておられたようで、熱中症などで問題が発生したことはありませんでした。我々は基本的に競技エリアの脇に待機し、負傷した選手が出たら、すぐに競技エリア外に搬出し、応急処置をすることになっていました。そのため、搬送担当者とチームを組み、頸椎損傷を負った人の担送を何度も練習しました。皆さん「そういうのってスポーツドクターがやるんじゃないの」と思われたでしょうが、この競技に関係するスポーツドクターは数名しか



医療ボランティアの服装：インカムを付けていますが、ほとんど使いませんでした。右はご存じPPE（個人用防護具）です。感染対策のため炎天下で着けさせられ（後に撤回）、ある一試合、試しにまな板大の氷板を抱いてねばりました。涼しくて快適でしたが、氷は1時間で溶けてしまいました。

おらず、その人達は責任者として詰めてはいるものの、コートサイドで待機する医者を外科だけでそろえることができなかったのが現状だったのだと思います。逆を言えば、専門家は待機しているので、私らが当座の応急処置をしている間に、その人らが駆けつけてくれる手はずにはなっていませんでした。

ボランティアなので報酬はゼロ、最初は交通費も出ないという説明でしたので、私は休暇を取り、実家がある東京に帰省がてら参加しようと思っていました。そのうち香川などの遠方からは航空機代が出ることになり、ホテルも準備されました。

さて、この時期は皆さんご存じのとおりコロナ禍ど真ん中でしたから、私自身、かなり気を遣いました。ちなみに会場では毎日スタッフに対して唾液によるPCR検査が行われていました。仮に1週間終わって香川に帰ってから発症でもすると、その後しばらく仕事ができなくなります。ですから（飛行機はしかたがないとして）電車などリスクの高そうな公共交通機関を使わずにこのミッションをクリアすることにしました。ここからやっとウォーキングの話です。私達は蒲田駅近くのビジネスホテルを用意されていたので、そこからホッケー場の会場である大井ホッケー競技場（大井競馬場の近く）まで、担当した1週間、毎日徒歩で往復しました。片道が約5.5kmでした。この時は毎日の歩数が2万前後でしたので、一日15kmは歩いていたと思います。7月の下旬、朝から暑い中、ひたすら歩いて、ホテルに帰っても大々的に飲みに出るわけに行かず、コンビニで酒と肴を買い、部屋で食べる毎日でした。

食べ物と言えば、報道にもありましたが食品などが大量に廃棄されていたのは事実です。医療ボランティアの数自体（コロナ禍だから病院から許可が出なかったといった理由も含め）予定より少なめであつたし、一般人のボランティアも同様でした。ただ、それだけが問題ではなくて、毎日搬入される数百食の食事は（毎回、同一の某業者からのもので）メニューが4, 5パターンしかないヘビーローテーションで、2日目か3日目には同じ物が出ていました。しかも一食の塩分が5-6gありました。（感染予防のためにPPEを着させられて）灼熱の露天のコートサイドで待機する我々、医療メンバーにはそれでよかったかも知れませんが、屋内にいる大会の運営スタッフらは、毎食自分で持参していました。私は約束した1週間いただけですが、彼らはその1, 2週間前から会場に出入りし準備していて、そのときからずっと、そのヘビロテだったようですから、食べる気をなくすのも当然です。どのような契約をしていたのでしょうか？その他にも運営上の問題は沢山ありましたが、とりあえず医療的には重症の患者はなく私のミッション期間は無事終わりました。熱中症患者用のアイスバス（氷水をはったミニプール）も用意されていましたが、私は一度も使うことはありませんでした。

期間中、毎日夕方、疲れた足を引きずって宿に帰る途中、おなかが空いて空いて仕方ありませんでした。約1時間歩いて、ホテル手前のコンビニで食べたいものを物色するときが、一日で一番幸せな時間でした。昔の人はきっと、こうやって夕食を楽しみに家路を急いだのだらうな、などと、傾く夕方の太陽を浴びながら歩いていると、なんとなくそういうスロースライフもいいな、と思ったりもしました。

最終日は、お約束の蒲田ー羽田ルートを歩ききって、香川に帰りました。1週間で100km以上は歩いた計算です。一応スポーツの祭典に参加したということで、健康には良かったと思います。



ホッケー場：試合の間に何度も水をまいていましたが、あっという間に乾いてしまいます。

3. 靴の話

私は約20年ホーキンス・トラベラーというカジュアルシューズを履いています。PMDAに通勤した時には、普通の革靴も何足か試してみたのですが、結局これに戻ってきました。凄く履き心地が良く、何キロ歩いても靴擦れができません。私の足の形に合って4Eと幅広なのも良いのだと思います。一応革靴（今私が履いているモデルは合成皮革に変わっていますが）ということで、公的な場でも許されると（自分では）思っています。少しずつモデルチェンジして、言いたいことはいろいろあるけれど、まさにこれが「枯れた」状態なのでしょう。他の靴に履き替えて、10km単位で歩いたときに「あ、違うな」となるのが怖いので、結局この靴を買うことになります。数千キロ歩くとインナーソールが擦れて穴が開いてしまうので、交換します。次にゴム底が減って薄くなり、そこにとどめの「尖った砂利」攻撃で底が貫通し、水が漏ってきた時点で買い換えになります。尖った砂利というのは、私の家と大学病院の間に（ここもよく歩くのですが）セメント工場があって、どうもその周辺に散らばっている砂利に尖っているのが多い感じがしていて、ここでやられている気がしています。



愛用のホーキンストラベラー
幅が4Eなのがポイント。

またオリンピックの話に戻りますが、オリンピックの会場内ではスタッフらは指定した服装の着用が義務づけられています。文字通り、頭の先から足の先までです。オフィシャルパートナーだかスポンサーがいますからね。帽子から、ポロシャツ、ジャージの下、靴下、靴まで支給されます。たった一日ボランティアをする人でももらえます（これはお得）。数ヶ月前にボランティア登録したとき、足のサイズまで、詳細にweb formに入れさせられていましたが、結局現地で「あなた足のサイズいくつですか？」といった具合で支給されました。きっとロジスティックにも色々想定外のことがあったのだと思います。

私は4Eのホーキンスに慣れていて、学生時代より少し小さいサイズで済んでいたし、家で履いているジョギングシューズも少し幅広で同じサイズでいけていたので、ホーキンスと同じ25.5cmをオーダーしたのですが、靴の幅がきつくて、一日履いてホテルに帰ったら、小指の内側に直径1cmくらいの血豆ができていました。

翌日、私の最初の医療行為は、自分の血豆を穿刺して血を抜き、表皮が剥がれないように固定・保護することでした。これがうまく着いてくれれば、翌日以降も歩き続けられるでしょうから。そんな処置をしていると、大会スタッフのお兄さんが「どうしたのですか？」と心配そうに見ているので、支給された靴の幅が狭すぎて、こんな目に遭っていると話をしたら、「まあ、少し大きめのサイズにした方が良かったのかも知れませんが、幅がきついとこんなことになってしまうのですね。よし、スポンサーの担当者に言っておきます！」と同情してくれる気のいい人でした。翌日「文句言っておきました！」と元気よく報告してくれたところまでは良かったのですが「そしたら担当者の言うことには、その靴は最近の日本人の足をきちんとリサーチして作った最新モデルなんですって！」と。おいおい、さりげなくディスってません？悪かったな、どうせ私は6.5等身だし、脚だって長くありません！しかし、足の形まで時代遅れと言われてかなりガクッと来ました。結局、期間中は会場までの往復11kmは自分

の履き慣れたジョギングシューズを使い、会場のそばで履き替える毎日でした。やっぱり、しっかり選んだ靴を履くのが大事ですね。

おわりに

さて、な—んも中身のない話を延々続けて来て、飽きてしまった方には申し訳ありません。ここらで少しだけ情報の話を。スマホとGPSのおかげでとにかく迷わなくなったのは申し上げたとおりです。私はジョギングするときには自分の走った道を確認できるようにアプリを動かします。走った正確な距離や時間がわかるのも魅力ですが、家の近くでも自分が通っていない道というのが意外にあるものだ気づかされるのも一興です。このようなデータはこれからライフログとしてビッグデータの一つになり、我々の解析対象になるのでしょうか。医療は病院の中で行われるように思いがちですが、患者さんは人生のほとんどを病院の外で過ごしています。そのデータが患者さんの健康状態に及ぼす影響は、ちょっとした薬などより遙かに大きいかも知れません。いわゆるSaMD（プログラム医療機器）による行動変容がエビデンスを作っていく未来には私自身も期待しています。

しかしその一方、スマホなどの端末の普及で、人と人のちょっとした触れ合いが減ったようにも思います。PMDA時代に、薬事の国際会議でブリュッセルに行ったとき、観光の時間ができたので、有名な小便小僧を見に街に出ました。その頃はスマホもタブレットもない時代でしたから、現地の地図を広げて、どっちに行けばいいのかな、と思案していました。英語が母国語の国ではないので、どうしようかとモジモジしていたら、老婦人が「どこに行きたいの？」と英語で声をかけてくれて、丁寧に教えてくれました。とても嬉しくて、何度もお礼を言ったら、「海外から来た人が道に迷っていたら助けるのが当然よ。帰ったらあなたもそのように助けてあげなさい。」と言われました。それを肝に銘じて、その当時は駅の切符売り場などで途方に暮れている外人が多かったですから（そりゃ、あの複雑な地下鉄路線図を見たら、誰でもそうなりますよね？）、そういう人を見るたびに「May I help you ?」と声をかけていました。日本にいと英語を話す機会は限られますから、その瞬間はそれなりに刺激的で楽しかったものです。

ところがスマホができてから、外人もあまり迷わなくなり、私が声をかけても「No, thank you.」と言われてしまうことが増えました。これからは標識に外国語を併記する必要すらない時代になるのでしょうか。また生成系AIは非常に整然とこちらの質問に答えてきます。人に聞くより効率的かも知れません。でもそういう方向に行きすぎれば、人のコミュニケーション能力は明らかに退化していくのではないのでしょうか？ウェブ会議では声の大きさなどが調節しにくく、細かいニュアンスが伝わりにくい気がします。人と人が直接話をするには意味があると思います。そのうち人間よりもロボットの方が、コミュニケーションがうまくなってしまうかも知れません。1982年に公開された映画「ブレードランナー」で描かれている人間とロボットとの軋轢は、「鉄腕アトム」など多くのSFロボット作品に共通するところがあるテーマです。そういうことがいつか起きるのだろう、と思っていましたが、意外に近い気がしてきました。シンギュラリティとは、コンピュータが進化するだけでなく、人間が退化するという事を含んでいるのではないかと感じています。皆さんはどう思われますか？

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会 役員のご紹介

2024年6月11日の第14期定時社員総会および臨時理事会で新たに就任、再任されました役員の皆様をご紹介します。

会 長 長堀 泉

富士通Japan(株)
代表取締役社長



副 会 長 高橋 秀明

ウィーメックス(株)
代表取締役社長



副 会 長 青木 千恵

(株)NTTデータ
執行役員
第四公共事業本部長



副 会 長 柿沼 良彦

キヤノンメディカルシステムズ(株)
ヘルスケアIT事業統括部
ヘルスケアIT開発センター 主席



副 会 長 浅見 英徳

日本電気(株)
医療ソリューション統括部長



副 会 長 先崎 心智

日本アイ・ビー・エム(株)
IBMコンサルティング事業本部
ヘルスケア・ライフサイエンスサービス 理事・パートナー



副 会 長 成行 書史

富士フイルム(株)
メディカルシステム事業部
ITソリューション部長



理 事 國光 宏昌

(株)EMシステムズ
代表取締役社長執行役員



理 事 竹村 幸治

コニカミノルタ(株)
ヘルスケア事業本部
HC-IT事業部 事業部長



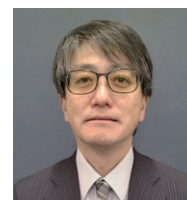
理 事 田中 啓一

日本事務器(株)
代表取締役社長 CEO



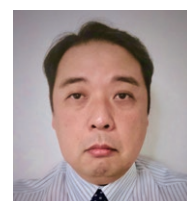
理 事 長谷川 裕明

(株)ファインデックス
取締役・コンサルティング部 部長



監 事 棟川 治樹

(株)医療情報システム
管理部 担当部長



監 事 福田 隆

三菱電機ITソリューションズ(株)
常務取締役
流通・ヘルスケア事業部長



副会長、理事、監事の順序は会社名の50音字による。

事業推進部 ホスピタルショウ委員会報告

1) 国際モダンホスピタルショウ2024の開催

国際モダンホスピタルショウ2024は、一般社団法人日本病院会、および一般社団法人日本経営協会（NOMA）主催のもと東京ビッグサイトにて開催されました。

出展社数はCOVID-19禍であった時期よりも増加し、盛大なものとなりました。時折雨も降る天候でしたが、来場者数も前年より増加しておりました。

テーマ 「健康・医療・福祉の新たなステージ ～DX推進による、確かな進化へ～」

開催期間/場所 2024年7月10日（水）～12日（金） 於 東京ビッグサイト東展示棟

出展社数 238社（共同出展社含む；総ブース数：185ブース）

来場者数 3日間合計；35,408名（2023年：32,919名）

オンライン開催 2024年6月3日（月）～7月31日（水）



モダンホスピタルショウ看板



開会セレモニー

2) JAHISブース出展対応

JAHISブース出展にあたっては、キャッチコピーである「データヘルス時代のDX推進を担う」をにかけて、出展検討会メンバーによる検討を重ね、タペストリー、パネル、配布資料等の準備を行い出展しました。出展目的である「JAHISの活動をアピールすること」「新規入会を促進すること」に関し、一定の効果を果たせたものと考えております。

JAHISブースにお越しいただいた会員の皆様には、壁面の会員一覧にブース来場を示す花型のシールを付けていただきました。結果80社以上もの会員様に足を運んでいただきました。2日目には長堀会長にもおいでいただき花型のシールを貼っていただきました。

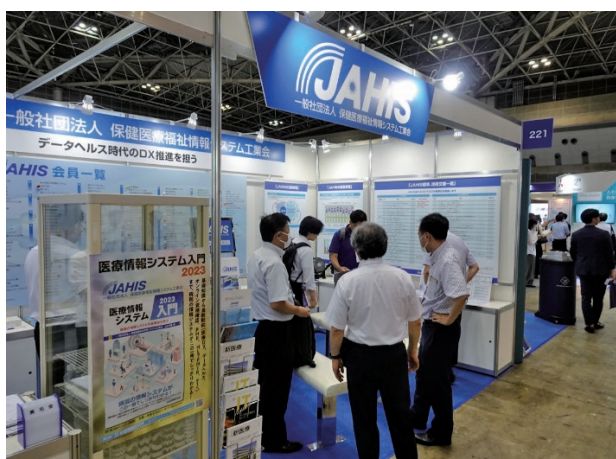
ノベルティに関しましては、今年でJAHIS創立30周年を迎えた年であり、それを記した扇子を準備し、冷たいミネラルウォーターと合わせて、来場者へ配布させていただき、PRを行いました。



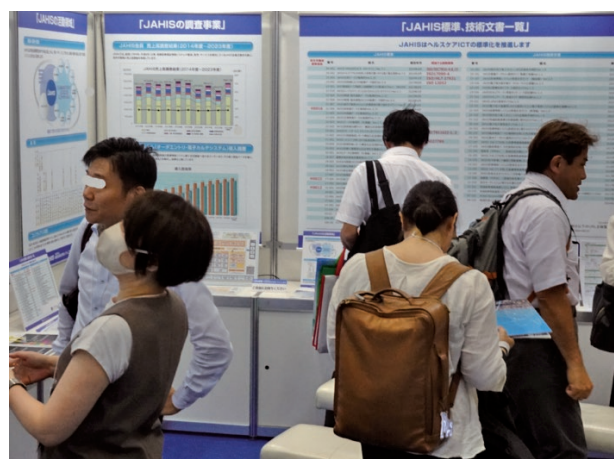
長堀JAHIS会長



JAHIS 30周年の扇子



JAHISブース



JAHISブース

3) JAHIS会員出展状況

会員様の出展状況といたしましては、わずかではありますが増加しており、各ブースにおきましても各社様工夫を凝らした展示でPRをなさっていました。

- ・会員出展社数：44社（2023年：43社）

4) 最後に

JAHISとしてのホスピタルショウに向けた企画・出展活動は、更に多くの方々にご認識、ご理解をいただける場であり、訴求活動を継続するための重要な取り組みであることと認識しています。引き続きJAHIS活動の認知度向上、プレゼンス向上に向けて尽力して参ります。

既に来年度は2025年7月18～20日の3日間にて、同じく東京ビッグサイトでの開催が予定されております。引き続きJAHISとしても出展を行い、「データヘルス改革・医療DX」の成功へ繋げていけるよう取り組んで参りますので、会員皆様のご理解、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

ご挨拶



副会長

たかはし ひであき

高橋 秀明

ウィーメックス(株)
代表取締役社長

一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（以下、JAHIS）会員の皆様、平素よりJAHISの活動にご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本格的な「人口減少時代」を迎えようとしている我が国においては、高齢者から若者まで全ての人が元気に活躍し続けられ、安心して暮らすことのできる社会を構築していくためにも、生産年齢人口の減少や増大し続ける医療費、疾病構造の変化、医療の質と安全の確保などの様々な課題を解決していかなければなりません。JAHISが担っている保健・医療・福祉のデジタル化は一層重要になっています。

2024年度は医療デジタル化にとって重要な年となります。マイナ保険証の利用促進と12月の健康保険証廃止。電子処方箋のさらなる展開。2025年度運用開始に向けた電子カルテ情報共有サービスの構築。2025年初頭のモデル事業向け標準型電子カルテα版の開発。これらの政策以外も含め、医療情報を取り巻く環境はまさに今、大きく変わろうとしています。

また、今年度の診療報酬・薬価・介護報酬のトリプル改定でもDXに関する評価が重点的に盛り込まれていることから、医療・福祉・介護の分野においてDXを強力に推し進めていくという国からの意思が伝わってきます。

このようなDX推進と共にサイバーセキュリティ対策も重要な課題となっています。あらゆる業界でセキュリティインシデントが増加する中、医療機関等も例外なく被害が報告されています。あらゆるステークホルダーが安心して情報を預け、取り扱えるよう、JAHISでも、病院、診療所、薬局、介護施設等を問わず、医療情報を扱う施設において、3省2ガイドライン（「医療システムの安全管理に関するガイドライン」、「医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン」）のさらなる順守、周知、支援などの徹底した活動が重要となります。

こうした活動はJAHISが2020年に発刊した「2030ビジョン」の中でコンセプトとしている「データ循環型社会の実現」を達成し、健康・医療・介護分野のデータを蓄積・循環し利活用することで、データ提供者である国民が利益を享受できる社会の構築には必要不可欠であり、JAHISが貢献できる範囲が今後益々拡大していくと考えております。

JAHISは、引き続き、各省庁、学会等の関係団体と連携を強化しながら活動を推進してまいります。皆様の一層のご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

ご挨拶



副会長

かきぬま よしひこ

柿沼 良彦

キヤノンメディカルシステムズ(株)
ヘルスケアIT事業統括部
ヘルスケアIT開発センター主席

この度、一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）の副会長に就任いたしました柿沼でございます。JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHIS活動へのご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

現在、日本社会が直面する課題の一つに少子高齢化による人口減少があります。就業者数が大きく減少する中、医療・福祉職種の人材は今後ますます必要とされることが推計されています。政府はこの医療需要の変化に対応するため、医療・福祉サービスの改革を行い、生産性向上を図ることで医療従事者の増加を抑制しようとしています。

この生産性向上のためには、医療・介護DXが欠かせません。それには「医療DX令和ビジョン2030」で示された「全国医療情報プラットフォーム」「電子カルテ情報の標準化等」「診療報酬改定DX」の実現が必須であり、これはJAHISが目指すデータ循環型社会に繋がる取り組みでもあります。

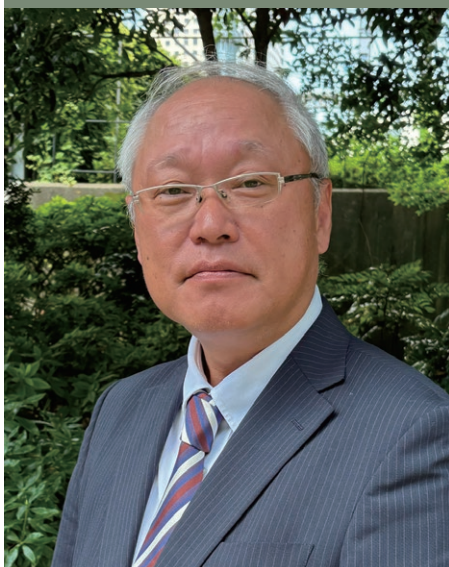
今年の診療報酬改定においても医療DXに関する加算の新設や電子カルテ情報共有サービスの活用が施設基準要件となり、介護報酬改定ではLIFE関連加算の要件見直しなど、医療・介護業務のデジタル化推進に向けた土台づくりが行われています。このような行政の対応に対して、JAHISとしても情報システムの相互運用性を確保するための標準化の推進、医療情報の効率的な利用と安全性向上のための活動をさらに強化し、医療・介護情報基盤の構築に取り組んでいく必要があります。

そして、全国医療情報プラットフォームの二次利用基盤を活用して診療・診断支援などのAIの研究開発や医療サービスの改善など、健康・医療・介護分野への活用を促進することにより医療と経済の発展に繋がっていくものと考えます。AI、ビッグデータ、IoTなどの先進技術を駆使し、電子カルテの普及促進を手始めに医療データの安全な共有と活用、AI診断の実現などを通じて、患者様に対するケアの質を向上させるとともに、医療従事者の負担軽減、生産性向上に取り組むことが不可欠です。

これらの課題に対して、JAHISがリーダーシップを発揮し、医療DXを推進することで、持続可能で質の高い医療・福祉提供体制の実現に貢献できると思います。

私はこれまで、医療情報システムの分野で30年以上にわたり活動してまいりました。その中で、医療現場における情報の重要性、そしてその適切な管理と活用がもたらす影響を実感してまいりました。今回の副会長就任にあたり、これまでの経験を活かし、JAHISの目指すビジョンの実現に向けて尽力してまいります。皆様のご協力とご支援を心よりお願い申し上げます。

ご挨拶



副会長

あさみ ひでのり

浅見 英徳

日本電気(株)

医療ソリューション統括部長

この度、一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（以下、JAHIS）副会長を拝命させていただくこととなりました浅見でございます。JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動にご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

早いもので、2024年も後半に入っておりますが、本年は経済に関するニュースを数多く目にしました。3月には日経平均株価が初めて40,000円を超え、4月には1990年以來の円安、7月には新札発行等、経済の動きを肌で感じた方も多いかと思います。

そのような中、世界に先駆けて超高齢社会を迎えている我が国では、「健康で安心して暮らせる社会」の実現に向けて、様々な課題と向き合う時が来ております。特にJAHISが対象としている「保健医療福祉を取り巻く環境」におきましても、少子高齢化、人口・生産人口の減少、逼迫する医療費や社会保障制度の持続継続性の確保等、ひとつひとつの課題をクリアしていかなければなりません。我が国でも骨太方針2022の中で、医療・介護分野でのDXを含む技術革新を通じたサービスの効率化、質の向上を図るとされ、大きな流れができました。この中では、行政と関係業界が一丸となって進めるとともに、医療情報の利活用についても、国をあげて推進していく方針が打ち出されました。情報システム基盤の整備や、情報システム技術の強化、イノベーションの必要性は益々高まっております。そして、それらを支える標準化の推進等、JAHIS活動への期待も、益々高くなってきております。

これらの動きは、JAHISが掲げる「データ循環型社会の実現」を後押ししていると言ってよいでしょう。JAHISとして、付加価値の高いシステム、サービスをどのように提供していくのか、こういった部分で会員各社が協調しお互いを高め合い、社会に貢献できるのかを常に考えていきます。ICTだけで全て解決できるものでもありませんが、ICTが社会の課題を解決する重要な要素であることは間違いありません。産官学の各関係機関としっかりと連携し、活動を進めてまいりたいと思います。現場をよく知るJAHISだからこそ、現場に寄り添った有益なシステムやサービスを創ることができるものと思います。

今後もコンプライアンスを遵守しつつ、各省庁、学会等の関係団体と連携し、産官学の対話や関係する人材の成長機会のある場としての役割・機能を高め、その実現に向けた活動を推進してまいります。皆様の一層のご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

ご挨拶



副会長

なりゆき ふみと

成行 書史

富士フイルム(株)
メディカルシステム事業部
ITソリューション部長

JAHIS会員の皆様におかれましては、平素より、JAHISの活動にご理解ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、副会長を拝命いたしました富士フイルムの成行書史でございます。就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

さて、昨年6月に「骨太の方針2023」が閣議決定され、医療に関しては、高齢者人口の増加と人口減少に対応し、限りある資源を有効に活用しながら質の高い医療サービスを必要に応じて受けることのできる体制を確保するための「医療提供体制の改革」、また、医師の働き方改革を実践しながら増大する医療ニーズに効率的に対応し、医療サービスの質を上げていくための「医療DXの推進」に関する方針が明示されました。また、医療DX推進本部において策定された「医療DXの推進に関する工程表」に基づき、政府を挙げて確実に実現することが確認されました。2024年度診療報酬改定でも多くの医療DX項目が評価され、「全国医療情報プラットフォーム」の一環で2025年度からの運用開始が進められている「電子カルテ情報共有サービス（仮称）」について「医療DX推進体制整備加算」のもと要件化される等、業務の効率化に向けた簡素化・デジタル化を推進・評価する施策が今後も加速していくと思われます。

一方、AI技術の進歩も著しく、LLM（大規模言語モデル）、LMM（大規模マルチモーダルモデル）などの「生成AI」技術が急速に進展しており、まだ一部ではありますが、医療現場での実用化の取り組みもすでに始まっています。医師の働き方改革が進む中で、医療の質と患者の安全を確保しつつ、新たな技術を取り入れながら、持続可能な医療提供に貢献していくという観点からも、JAHISはますます重要な役割を果たしていくと期待されます。

私は、画像診断および医療情報の統合ソリューションに関わるソフトウェア、サービスの企画・開発に従事している身ではありますが、これまでの経験を活かして、微力ではございますが、JAHISの取組みに貢献して参りたいと思います。今後ともご支援の程を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶



理事

は せ が わ ひ ろ あ き

長谷川 裕明

(株)ファインデックス

取締役・コンサルティング部 部長

一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会会員の皆様、また関係各位の皆様、本年度より理事に就任しましたファインデックスの長谷川でございます。会員の皆様におかれましては平素よりJAHISの活動へのご理解とご支援を賜り誠に有難うございます。感謝申し上げます。JAHISの活動に関しましては、私自身新参者でございますが、誠心誠意我が国の医療福祉政策の推進の一助を担い、国民一人一人の幸福度向上並びに工業会の皆様の共同の利益になるための活動に、しっかりと取り組んでまいりたいと存じます。

さて、現在の我が国の状況を鑑みると「少子高齢化」、「人口減少」、「経済活動の衰退」等々の景気の悪いキーワードが並んでおりますが、私としましては、逆にこれはチャンスであると考えたいと思っております。我が国が行う政策・行動に関しまして、少子高齢化社会の最先進国である我が国がどのように運営するのか、またその結果としてどのような社会が実現できるのかという点で世界中から注目されており、より良い活動を行うことで世界も注目するモデル（例えば昭和36年に実現した今の国民皆保険のような）が再び誕生し、世界の規範となることが可能なのではと考えます。

現在の少子高齢化社会を考えますと急性期医療の提供量の拡大よりも、よりQOLの高い地域における医療、介護、福祉の提供の増加が望まれる時代になりつつあることは皆様ご承知のことかと存じます。そのキーとなる考え方は、医療、介護、福祉を提供する様々な事業者間の情報共有でありそのためのIT戦略が重要になってくるということかと思っております。一説によりますと近い将来、日本の就業者の6から7名のうち1名が医療、介護、福祉に従事することになるとの予想がございます。これは国民一人一人の情報を医療、介護、福祉に従事する就業者が適切に管理し、適切な医療、介護、福祉を提供することが肝要になるということの裏付けになっていると考えます。ランサムウェアをばらまくような犯罪者にデータを侵害されることなく、個人の尊厳の観点から個人情報を守りかつ最適な医療、介護、福祉を提供するために必要な情報共有をどのように行うかは世界が注目する重要な指針になると考えており、我が国はそのトップランナーとしての役割を果たさなければいけないと考えます。

また、昨今のDX化の流れやAIの活用、テクノロジーの利用は勿論のこと、データが持つ価値からより良い医療、介護、福祉の在り方を探求する活動も非常に大事になってきており、国民的な議論を高めていかなければなりません。その上であるべき医療、介護、福祉の在り方を工業会も一緒になって本格的に考えていく必要があるかと思えます。

そのためにできるだけ短期的にかつ活発に活動を進める必要があると考えますが、我が国で始まった医療のコンピュータ化の歴史は半世紀以上にもなり、JAHIS会員の皆様も地道に活動をされてきた医療、介護、福祉に関するシステム化の経験知は、莫大なものであると考えております。それを遺憾なく発揮できれば、これからの時代も十分に乗り切っていけるのではと考えております。

世界を見渡すと凄まじいテクノロジーの進化と巨大なデータを扱うサービスが現代のデータ社会を席卷する時代になってきている感があります。ただ、医療、介護、福祉そのものが人に寄り添うサービスである限り、データ社会で扱うデータも現場に寄り添ったものになる必要があるのではないかと私は考えます。医療、介護、福祉に従事されている方々が、人に寄り添い蓄積した莫大で貴重なデータを、我が国で蓄積された経験知と活用することで安全、安心なサービスを提供できるようになり、より良い社会を実現できるのではないかと考えております。そのためにJAHISの一員としてしっかり活動をしてまいりたいと考えます。是非共に明るい我が国の未来に向けて皆様と一緒に努力したいと考えております。何卒ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

ご挨拶



監事

むねかわ はるき

棟川 治樹

(株)医療情報システム
管理部 担当部長

JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動へのご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会の監事を務めさせていただくことになりました棟川治樹でございます。ここでひとこと、就任のご挨拶を申し上げます。

さて、2023年6月に医療DX推進本部より提示されました「医療DXの推進に関する工程表」によれば、2024年は医療DX推進に関して、転換期となるような様々な工程が実施されます。標準型電子カルテα版の着手やJAHIS会員様におかれましては既に電子処方箋の本格的な展開や「電子カルテ情報共有サービス」の基盤構築により、先行的な医療機関様にて運用着手されているかと思えます。そして最も大きな工程として健康保険証の廃止が2024年12月2日に実施されます。これらの工程は医療DXを急速に実現することになります。

また、医療DXの推進によりサイバーセキュリティ対策がこれまで以上に必要不可欠になります。病院におけるランサムウェアの被害も増加傾向にあり、3省2ガイドライン（※「医療システムの安全管理に関するガイドライン」、「医療情報を取り扱う情報システム・サービス提供事業者における安全管理ガイドライン」）の周知や支援策等について、より具体的に示していくことがJAHISの活動に期待されることのひとつと思っております。

医療DXは保健・医療・介護の各段階で発生する情報やデータをクラウドなどを通して共通化・標準化し、国民の健康寿命の延伸やより良質な医療やケアを実現することです。しかしながら医療DXによって医療格差が是正されることは事実ですが、デジタルツールを使いこなせない世代などは医療DXの恩恵を受けることができないことも事実です。このような問題点に関しても今後並行して取り組む必要があります。

JAHISの2030ビジョンで描く「データ循環型社会の実現」について、個人から得られるデータが循環し恩恵を個人に還元する世の中を実現する為に、皆様の変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶



監事

ふく だ たかし

福田 隆

三菱電機ITソリューションズ(株)
常務取締役
流通・ヘルスケア事業部長

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会（以下、JAHIS）会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動にご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、監事を務めさせていただくことになりました三菱電機ITソリューションズの福田 隆でございます。就任にあたり、一言ご挨拶をさせていただきます。

昨年6月に医療DX推進本部より提示されました「医療DXの推進に関する工程表」におきましては、全国医療情報プラットフォームの創設、電子カルテ情報の標準化、診療報酬改定DXなど、医療分野におけるデジタルトランスフォーメーションの計画が具体化され、ここにきて、我が国における医療DXの実現に向けた取り組みは急速に進んで参りました。マイナナンバーカードと健康保険証の一体化に関しましても健康保険証の廃止は本年12月2日に決定し、また、診療報酬改定DXの一環として、計画通り本年4月から6月へ施行時期の後ろ倒し等が行われた他、共通算定モジュール開発の動きも進んでおります。さらに、今年6月に内閣府が決定した「経済財政運営と改革の基本方針2024」では、全国医療情報プラットフォームの強化、電子カルテの標準化と普及、診療報酬のデジタル化、AIとビッグデータの活用など、医療DXのさらなる推進が掲げられ、マイナポータルを介して医療情報基盤、介護情報基盤、全国自治体・行政基盤が連携する全国医療情報プラットフォームの構築により、患者の診療情報の一元管理が進み、より多くの医療機関にて情報の共有と活用が期待されます。電子カルテの標準化と普及により、異なる医療機関間での情報共有がさらに円滑になり、診療の質が向上します。また、診療報酬のデジタル化により、医療機関の業務効率が一層向上し、医療従事者の負担が軽減され、AIやビッグデータの活用により、診断や治療の精度が向上し、医療の質がさらに高まることが期待されております。

私たちJAHISは、「2030ビジョン」に基づき、健康で豊かな国民生活を支える保健医療福祉情報システムの実現を目指しています。このビジョンでは、データ循環型社会の実現に向けて、保健医療福祉情報システムを通じてデータの効果的

な利活用を促進し、社会全体の情報化を推進します。また、異なるシステム間での情報連携を可能にする標準化されたシステムの提供を進めると共に、さらにAIやビッグデータなどの先端技術を活用し、医療・福祉サービスの質を向上させることを目指しています。そして、持続可能なシステム運用のために、必要な人材の育成と財源の確保を図ります。

これらの目標を達成するために、会員の皆様と協力し合い、技術革新と標準化の推進に努めてまいります。より良い医療環境の実現を目指して努力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

運営会議 議長
(富士通Japan(株))

いわつ せいじ
岩津 聖二



この度、運営会議議長を拝命いたしました富士通Japan株式会社の岩津です。

保健医療福祉情報システムの発展において、“JAHISは常に先頭を走ってきた”、その功績は計り知れないと思っています。会員各社の皆様方のご尽力に心から感謝申し上げます。そして皆様方が積み上げてきた30周年という節目の年に議長職を引き継ぐことになりましたこと、その重責に身が引き締まる思いです。

さて、近年、急速なデジタル化が進展し、医療および健康分野においてその影響がますます顕著になっています。特に医療情報のデジタル化とその利活用が注目されており、政府からは「医療DXの推進」や「Public Medical Hubの開発」、そして「プログラム医療機器への積極的な実装」など、今後の方針が示されています。このような変革には技術革新や規制改革が深く関与しており、我々もその大きな潮流に積極的に対応していく必要があります。

また、健康意識の高まりや高齢化社会の進展に伴い、健康管理や医療サービスへの需要が拡大しています。このため、デジタルヘルスケアやテレメディシンなどの新たなサービスが求められています。我々はこうした社会的課題に対応するために、保健医療福祉情報システムのトレンドに敏感に対応することが重要です。

JAHISでは、保健医療福祉情報システムを通じて健康で豊かな国民生活を支えることを目指し、「データ循環型社会の実現」をコンセプトに「2030ビジョン」を掲げています。このビジョンを実現するために、2030年までの健康・医療・介護分野の社会環境の変化を考慮し、JAHIS会員各社が提供する保健医療情報システムや保有する仕組みが、日本の将来の健康長寿社会にどのように貢献できるかを構想しています。

2030ビジョンの達成に向けて、JAHISは健康・医療・介護データの標準化と安全な運用を支えるための医療安全機能の強化に最優先で取り組むことを考えています。

具体的には、政策に対する戦略的な発信を行い、標準類や実装ガイドの整備と普及促進を行います。また、会員共通の課題に迅速に対応し、会員サービスの充実を図ります。さらに、ヘルスケアICT市場の把握や新規市場の調査・支援を行い、会員満足度の向上を図ります。最後には、業界代表として積極的に対外活動に参画し、JAHISブランドの向上に努めます。また、コンプライアンス体制の維持・

強化や運営基盤の強化、必要な人材の確保も行っていきます。

30周年にあたり、私たちはこれまでの実績を称えるだけでなく、未来に向けての新たな挑戦にも取り組んでまいります。そのためにも変化する社会環境に適応しつつ、行政や関連団体との連携を通じて、JAHISの事業運営を推進していきたいと考えています。次の30年も、JAHISが一層の成長を遂げ、健康で豊かな国民生活を支えること・医療の質の向上に貢献することを確信しています。皆様と共に、より良い未来を築くために、今後ともご支援とご協力をお願い申し上げます。

ご挨拶

標準化推進部会 部会長
(キヤノンメディカルシステムズ(株))

ゆざわ ちかよし
湯澤 史佳



会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動にご理解並びにご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年3月より標準化推進部会の部会長を務めさせていただいております。

本年も折り返しを過ぎ、これまでも医療DXの実現に向けて様々な施策が展開され、具現化、普及が待ったなしの状況です。世の中では、マイナ保険証の普及推進、電子処方箋の展開、電子カルテ情報の標準化、診療報酬改定の効率化、サーバーセキュリティ対策、医療従事者の働き方改革、人口減少・少子高齢化といったキーワードが毎日のようにメディアを賑わしてそのたびにコンテンツにくぎ付けになっています。

一方、ICT、IoT、AI等の技術の進歩がますます加速していく中で、わがヘルスケア分野も例外なくそのサービス向上のために様々な業態の会社、団体が数多く参入してきて個々にソリューションが展開されています。しかし、データ互換や相互運用性という切り口でいうとまだまだ全体最適というには程遠く、結果として利用者に対して利便性の向上、豊かなものであるという課題を克服できずにいます。

この状況を鑑み、これらの仕組みを相互に支える指針、規約、ガイドライン等の策定・周知・運用支援などの徹底した活動がますます重要となります。JAHISは其中で中核的な存在として、持続的な活動と高い倫理観に基づき今後もリーダーシップを発揮し、業界を引っ張っていけるよう力を尽くしていくべきであると思います。

標準化推進部会としましても今年度の事業方針に基づき、

- 1) 行政・学会・関連団体等と連携した標準化の推進
- 2) JAHIS標準類制定時の適正な審議と制定後の有用性の維持管理
- 3) 国際標準と日本の要件や状況との整合性の確保および国際標準化団体との調整、日本からの標準化提案
- 4) 医療情報関連標準類の普及活動の推進

を通してJAHISの役割の一翼を担い、既存の枠組みを超えて官民一体となり取り組むことを前提として、さらには会員以外の団体にも広く門戸を開いていけるよう努力していきたいと思います。

我々が安心して心身ともに健康で豊かな生活を営めるように、ぜひ皆様も数多くの方々に参画いただき、JAHIS活動、業界全体の活性化のため今後ともご支援を賜りますようよろしくお願いします。

ご挨拶にかえて

医療システム部会 部会長
(日本電気株)

ふく ま こう じ
福間 衡治



本年2024年6月より、医療システム部会 部会長を拝命いたしました福間衡治と申します。

2020年6月から2年間は事業推進部長、2022年6月からは運営部担当運営幹事としてJAHIS活動に携わってまいりました。これらの経験も踏まえご挨拶にかえて雑感を交えながら、サブタイトルとして『JAHIS活動の醍醐味』とでもして徒然なるままに書いてみたいと思います。

まずは真面目なお話から。医療DXという言葉がすっかり定着し、その実現に向けて、①全国医療情報プラットフォームの創設 ②電子カルテ情報の標準化等 ③診療報酬改定DXを3本の柱を中心に取り組みを進められています。医療DXの推進に関する工程表〔全体像〕の矢羽根が適宜アップデートされ、矢羽根に追いつけ追い越せと言わんばかりに熱い議論がなされております。その進展とともに、我々JAHISの担う役割、医療システム部会の役割は益々重要になるものとひしひしと感じている次第です。

医療システム部会は、電子カルテ委員会、部門システム委員会、セキュリティ委員会、相互運用性委員会の4つの委員会を中心にJAHISの他部会、委員会、タスクフォースや省庁、関連団体とも連携・協力して健全な運営を行い、業界の健全な発展に寄与してまいります。これまで医療システム部会を支えていただいた方々をはじめ、医療システム部会の活動にご協力をいただいておりますことを御礼申し上げるとともに、引続きご支援をお願い申し上げます。

さてここからは、サブタイトル『JAHIS活動の醍醐味』として2つ挙げさせていただきます。

1つ目は、JAHISの法人名が示している「保健医療福祉分野における情報システム」の健全な発展に直接貢献できるということです。個々人や各会社ではなかなか伝えられないことも、380社を超えるJAHISの英知が集まることで、行政にもしっかりと思いを伝えることができていると感じています。特にここ数年は、診療報酬改定DXというJAHIS（というより元医事コンピュータ部会運営幹事の森本さんネーミング）の言葉がそのまま骨太に記載され推進されていたり、医療DXの様々な施策やセキュリティに関する相談がJAHISに真っ先に来るなど、JAHISのプレゼンスは益々高まるばかりと感じています。

2つ目は、JAHISの活動を通じて、産官学のキーパーソンとお会いできるということです。私自身個社では営業セクションが長かったのですが、顧客とベンターという視座でお会いするのと、同じ課題

に向き合う仲間（いいすぎですかね?）として向き合うのとは随分違うことを経験できました。正直言ってこのマーケットっていろんな意味で厳しいと思ってやってきましたが、コンプライアンスを大前提にして、同じ厳しいマーケットに向き合っている産業界の方々と垣根を越えてマーケットの健全な発展に向き合うことは、本当に大きな財産になっています。心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

最後になりますが、この保健医療福祉分野における情報システムマーケットが健全な発展を続けることで、会員各社も成長し続ける。JAHISが掲げる2030ビジョン（健康で豊かな国民生活を支える保健医療福祉情報システムの実現を目指して）の実現に向けて取り組むことで、ひいては、自分と自分が愛する家族や将来世代が、健康で穏やかに安心して過ごせる社会に貢献できるなんて素敵だと思いませんか？ぜひ一緒に頑張ってまいりましょう！

ご挨拶

保健福祉システム部会 部会長
(株)NTTデータ

さいとう たかひろ
齋藤 貴洋



JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動にご理解・ご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、保健福祉システム部会の部会長を拝命いたしました齋藤貴洋と申します。着任にあたり、ご挨拶をさせていただきます。

先の6月に厚生労働省から発表された人口動態統計では、出生率が過去最低を更新したとの発表があり、生産年齢人口の減少および高齢化率の上昇は歯止めが利かず、現実問題の厳しさを痛感したのは皆様も記憶に新しいところかと思えます。

厚生労働省においては、従前からのデータヘルス改革や医療DX等の取り組みが益々加速し、経済産業省においても、「健康経営の推進」や「PHRの活用」、「介護・認知症等の地域課題への対応」など、経済の発展を伴ったヘルスケア政策が各種打ち出されており、これまで以上にJAHIS2030visionの実現に向けた活動の重要性が増すものと感じています。実際に、令和6年4月の次世代医療基盤法の改正により、仮名加工医療情報の利活用の仕組みが創設され、医療情報やNDBをはじめとしたリアルワールドデータの利活用が当たり前の世の中になってきたことで、高度化する様々な脅威に対するセキュリティも考慮しながら、日本の社会基盤のサービスレベルの底上げを図る活動は、非常に難易度の高いものと感じています。そのような中で今回、保健福祉システム部会長という大役を仰せつかり、身の引き締まる思いでおります。

私自身は、これまで品質要求の高い大規模システムの開発や、リアルワールドデータを使ったデータ利活用サービスの提供、健康・医療に関するサービス開発など、“しくみ”としてのシステム提供だけに限らず、幅広い形でのサービス提供を経験して参りました。その経験の中で、CloudやSaaSと言ったそれまでには無い形態の技術が次々と出てくる度に、利便性とセキュリティのトレードオフが課題となってきました。ここ数年で急速な広がりを見せる生成AIに代表されるAI関連技術や各種のセンシング技術の発達、データ循環型社会の実現には無くてはならない要素である一方、非常に高度化した技術である故に、サービスとしての安全性だけではなく、その使い方も含めた仕掛け作りが、データ循環型社会の実現に向けては一つのカギになると考えています。

保健福祉システム部会では、地域医療の「情報連携基盤」と「在宅医療」に関する検討、健康・健診に関する対応、そして自治体における福祉・介護、保険制度関連について対応を実施していることから、非常に幅広く深い知識・視野と今後の産業界の発展を見据えたバランス感が求められると考えています。

このようなJAHIS活動の重要性と、使命と理念を肝に据え、これらの推進と普及活動を通じて、医療、保健、福祉分野への貢献、および JAHIS会員の皆様への貢献に微力ながら尽力して参る所存ですので、会員の皆様、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

ご挨拶

事業推進部 部長
(富士フイルム医療ソリューションズ(株))

う え き せ い じ
植木 精司



この度、事業推進部部長を拝命いたしました植木精司と申します。会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの事業推進にご尽力・ご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。就任にあたり、この場をお借りして一言ご挨拶申し上げます。

我が国においては、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少や、育児や介護との両立などの働く方のニーズの多様化といった状況と、その対策としての生産性向上や多様な働き方の実現にはデジタル化が不可欠である、という認識はすでに社会全般に定着していると言え、メディアにおいても「DX」という言葉が一般的に利用されるようになっていきます。

また、PCやスマートフォンが日常的に利用されるようになってから数十年が経過し、COVID-19の流行がもたらした社会への影響を経て、日常におけるテクノロジーの活用は不可逆的に進んでいると感じます。特にここ数年は、生成AIに代表されるAI技術の進化と普及はめざましく、社会現象とも言える状況です。過去のAIブームとは異なり一般向けの製品への組み込みやサービスの提供も行われており、こちらももはや後戻りすることはないように思えます。

他業種に比べてデジタル化が進んでいないと言われる保健・医療・福祉の分野に関しても、政府によって「データヘルス改革・医療DX」が掲げられ、「医療DXの推進に関する工程表」を定め、医療分野でのデジタル・トランスフォーメーションを通じたサービスの効率化や質の向上に向けた具体的な取り組みを進めているところです。

このような時期に、保健・医療・福祉の情報システムにおける標準化活動や教育活動、普及の促進など、JAHISに期待される役割は一層大きなものになると考えます。

JAHISでは、2030年に目指すビジョンとして、「データ循環型社会」を掲げました。個人から発生した健康・医療・介護のデータが、健康・医療・介護サービスや、創薬・医療機器開発などの関連産業、ヘルスケア政策までの方向性を決定するエビデンスとなり、そこから発生したサービスが個人に還元される社会です。そして、この2030ビジョンの実現に向け、主にデータ利活用の提言や啓発活動、標準化の推進、人材育成のためのセミナーや勉強会の開催を行っていく予定です。

その中で事業推進部では、「工業会参加価値の追求」を基本方針とし、その推進のため各部会の横断的な協力を得て、JAHISの持つ組織・人材・知識を最大限に活用することによって、業務の健全な運営とさらなる発展を目指しております。

JAHIS会員の皆様への価値提供を通じて医療・保健・福祉分野への貢献ができればと考えておりますので、皆様のご支援のほど、よろしくお願いいたします。

2024年第14期定時社員総会 & 懇親会を開催しました

事務局 総務部長

てらさき たかひろ
寺崎 貴宏



定時社員総会

6月11日（火）10時45分より東京大手町の経団連会館4階ダイヤモンドルームにおいて、第14期定時社員総会を開催しました。

当日は会員384社中288社（委任状含む）の参加を得て、議長の森田隆之会長（日本電気㈱代表取締役社長）による進行で議案を審議しました。

会場にて参加した理事・監事、会員代表者と代理人及び委任状による議決権行使分により可決要件を満たしており、審議の結果すべての議案が承認可決されました。

当社員総会で報告及び審議した議案は以下のとおりです。

1. 報告事項	・ 2023度事業報告の件
2. 審議事項	・ 第1号議案 2023年度計算書類承認及び監事監査結果報告の件 ・ 第2号議案 2024年度事業計画承認の件 ・ 第3号議案 2024年度収支予算承認の件 ・ 第4号議案 役員選任・補欠役員選任の件 ・ 第5号議案 定款改定の件



リモートで議長を務めた森田会長と
大原運営会議議長



2024年度の事業計画を説明した
並川戦略企画部長



また、2023年度にJAHISの委員会あるいはプロジェクト等において、非常に貢献のあった方、そして幹部として長年JAHISを支えていただいた方を称える表彰式を行いました。

- ・奨励賞：3名
- ・功績賞：7名
- ・功績賞（連名）：3組6名
- ・功績賞（グループ）：4グループ68名
- ・幹部功労：1名

の合計85名が受賞されました（詳細は、「表彰受賞者紹介」をご覧ください）。

臨時理事会

社員総会終了後に臨時理事会を開催し、会長、副会長が以下のとおり選定されました。



会 長	長堀 泉	富士通Japan(株) 代表取締役社長
副会長	高橋秀明	ウィーメックス(株) 代表取締役社長
同	青木千恵	(株)NTTデータ 執行役員 第四公共事業本部長
同	柿沼良彦	キヤノンメディカルシステムズ(株) ヘルスケアIT事業統括部 ヘルスケアIT開発センター 主席
同	浅見英徳	日本電気(株) 医療ソリューション統括部長
同	先崎心智	日本アイ・ビー・エム(株) IBMコンサルティング事業本部ヘルスケア・ ライフサイエンスサービス 理事・パートナー
同	成行書史	富士フィルム(株) メディカルシステムズ事業部ITソリューション部長

副会長の順序は会社名の50音順による

懇親会

12時から、事業企画推進室長 小林俊夫の司会により、以下のプログラムで懇親会を執り行いました。
来賓29名を含めて約180名の方々にご参加いただきました。

会長挨拶	JAHIS新会長	長堀 泉
来賓ご挨拶	厚生労働省 医政局 特定医薬品開発支援・医療情報担当参事官付 医療情報室長	新畑覚也様
	経済産業省 商務情報政策局 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課長	橋本泰輔様
	(一財) 医療情報システム開発センター理事長	山本隆一様
中締め	JAHIS新運営会議議長	岩津聖二



JAHIS 新会長
長堀 泉



厚生労働省 医政局
医療情報室長
新畑覚也様



経済産業省
ヘルスケア産業課長
橋本泰輔様



(一財) 医療情報システム
開発センター理事長
山本隆一様



JAHIS 新運営会議議長
岩津 聖二



【お知らせ】

「2025年講演会&賀詞交換会」は、2025年1月22日（水）14：00から
東京會館（東京都千代田区丸の内3丁目2-1）で開催いたします。

医療DX実現に向けた標準化の推進活動

標準化推進部会
普及推進委員会 委員長
(富士通Japan(株))

たなか ひろあき
田中 宏明



1. はじめに

本年度より標準化推進部会 普及推進委員会の委員長を拝命しました、富士通Japanの田中宏明です。よろしくお願いします。

私はこの普及推進委員会が2008年12月に発足した時より委員として活動に参加している最古参でもあります。第一回の普及推進委員会に参加していたメンバーが所属している企業は、富士通、NEC、NTT-Data、日立、IBM、東芝住電、ソフトウェアサービスでした。当時も厚生労働省標準規格やJAHIS標準など多くの標準類が存在していましたが、あまり現場では使われていませんでした。そこで、「なぜ医療情報システムの世界では標準化が進まないのか」、「どうしたら、もっと標準規格が使われるようになるのか」、を徹底して議論するところから活動を始めました。そして、お客様である医療機関から標準化に準拠したシステムを要求されるのを待つだけではなく、各ベンダーの営業が積極的に標準化を提案できるようになるためのパンフレット(図1、図2)の作成や、セミナーの企画・実施をしてまいりました。



(図1) 厚生労働省標準規格や、HELICS、IHE-J、SS-MIXなどの用語解説

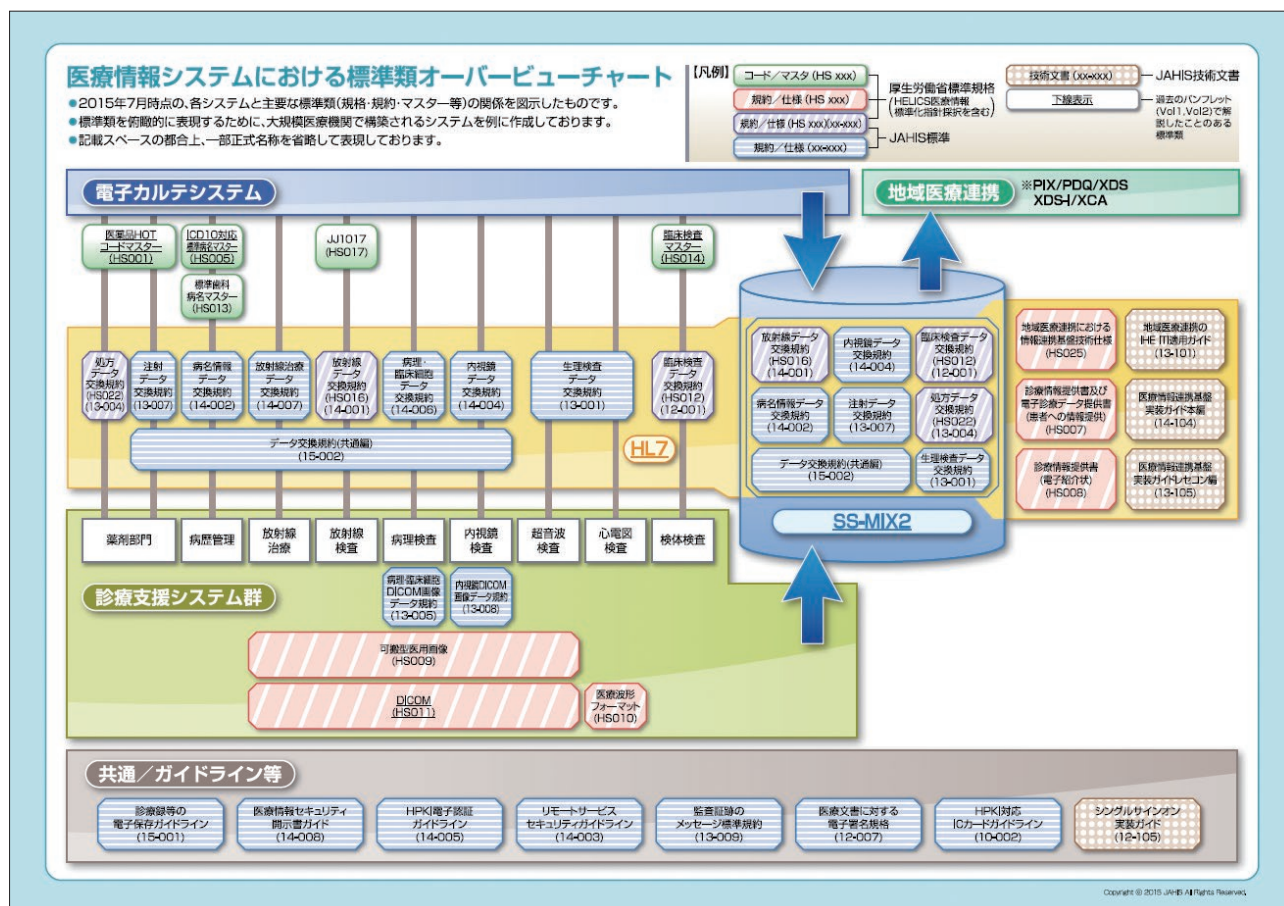


(図2) 標準規格ができるまでの活動をフローで表現、各種用語のカテゴリーも整理

2. 医療情報システムは、内から外、そして社会全体へ

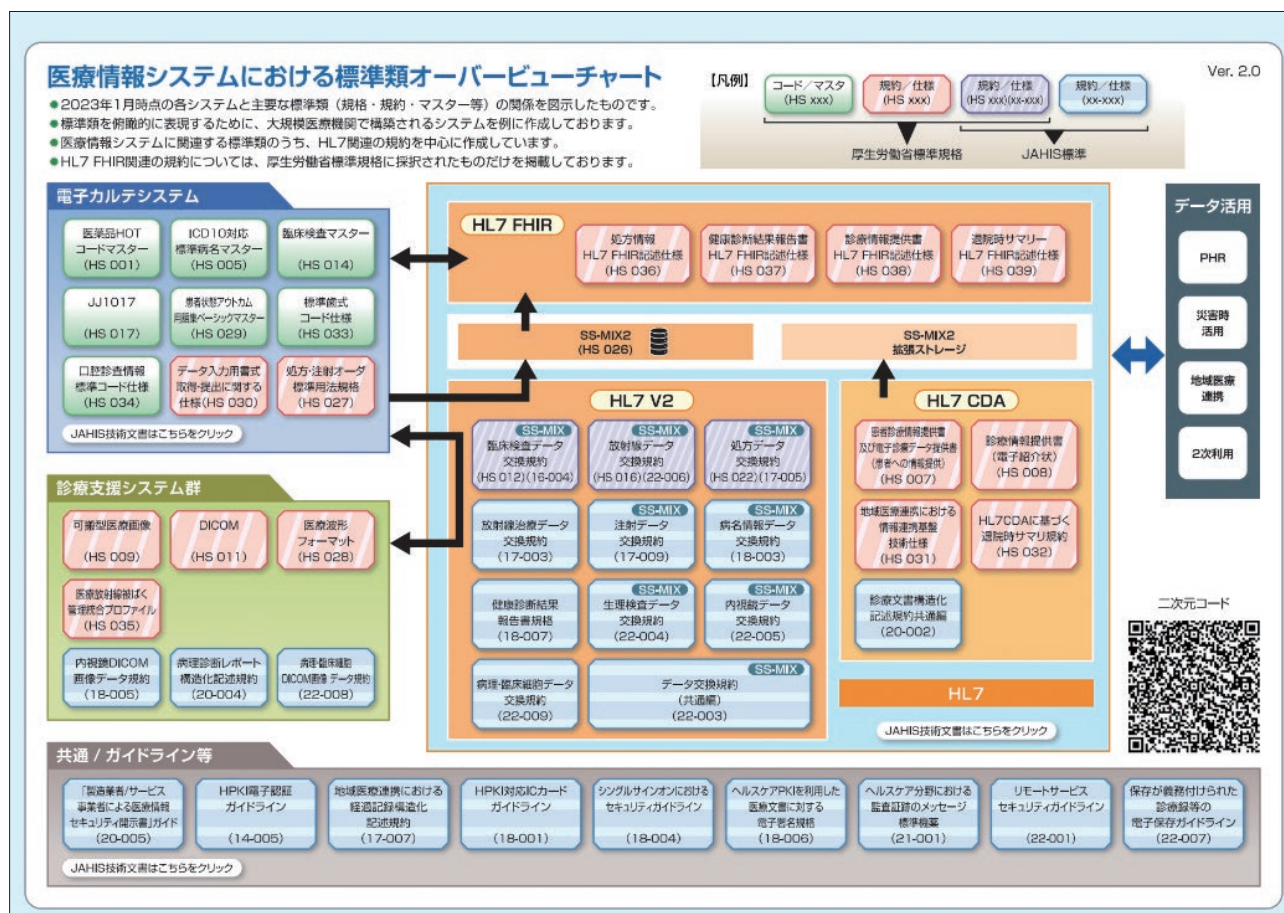
2000年代の医療情報システムは、電子カルテシステムを中心として様々な部門システムが連結していましたが、医療機関の中にクローズして構築されておりました。なので、標準類も電子カルテと各種システム間の連携に必要なデータ交換規約や、コード・マスタが中心的存在となっていました。

2010年ころから、地域医療再生計画が進められる中で、医療機関の中にクローズしていた診療情報を、施設をまたいで共有する地域医療ネットワークが広がってくると、異なる施設間での情報共有を可能にするための規約として、SS-MIX2標準化ストレージが普及し、施設間の医療情報連携基盤に活用されるIHE-ITIの統合プロファイルなどが、医療の現場で利用されるようになりました。そうした背景から、院内の電子カルテと地域医療連携との関わりの中で、どのような標準類が活用可能かを俯瞰的に理解するための、標準類オーバービューチャートを作成し、学会やイベントで配布しました。(図3)



(図3) 地域連携とのつながりまでを表現したオーバービューチャート Ver1

そして、近年は国が進める全国医療情報プラットフォームの構想により、医療情報システムは、医療機関だけでなく、ナショナルプラットフォームやその先にいる、介護施設、健診施設、行政機関、さらには個人に至る社会全体と連結していく方向にあります。国策への対応やPHRとの連携は、これからの標準化の中心となるHL7 FHIRによって推進されることが予想されるため、オーバービューチャートのレイアウトを大幅に変更しました。(図4)



(図4) HL7 FHIRを中心に作成したオーバービューチャート Ver. 2

3. これからの標準化普及推進活動

標準化の中心が、病院の中から社会全体へと広がり、ユースケース也多岐にわたるようになり、標準化の主戦領域が変わってきているため、普及推進活動もこれまでの活動形態から変革していく必要があると考えています。大規模医療機関の電子カルテだけでなく、中堅医療機関や診療所、薬局、健診施設、介護施設、行政など様々なプレーヤーをつなぐのに標準化はこれまで以上に重要になっています。

今年度は医療DX令和ビジョン2030を前提に今後整備されていく全国医療情報プラットフォームを中心に据え、標準類の役割を整理するドキュメントの作成を計画しています。

4. 最後に

こうした背景もふまえ、より効果的な活動を行っていくために、普及推進委員会では従来からの固定メンバーだけでなく、様々な立場の知見を持ったメンバーの参加を求めています。標準化の普及推進活動は、ICT業界の持続的な発展だけでなく、ウェルビーイングな社会の実現にも貢献します。より多くの会員企業の方に参画いただき、皆様の総意の元、標準化を推進したいと考えておりますので、関心をお持ちの方はぜひお声がけください。思いを持った有志の参画をお待ちしております。

令和6年度調剤報酬改定の振り返り

医事コンピュータ部会
調剤システム委員会 委員長
(三菱電機ITソリューションズ(株))

みやしま つよし
宮島 毅



1. はじめに

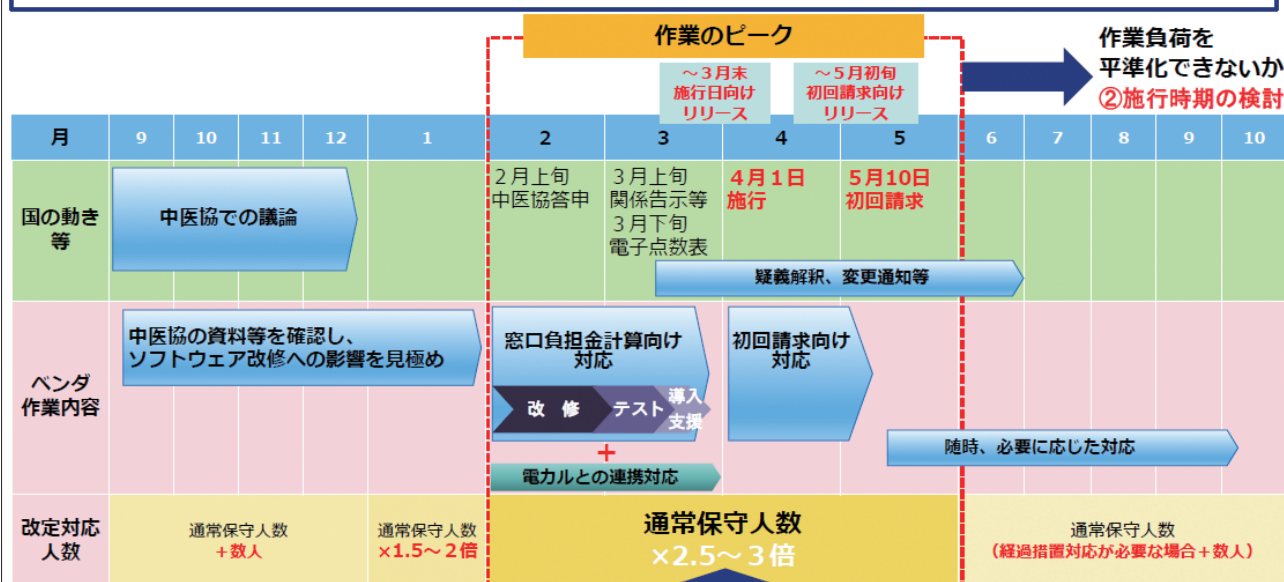
2024年は、6年に1度のタイミングで3制度（医療・介護・障害福祉）の報酬が改定される年となりました。また、「医療DXの推進に関する工程表」に示されている「診療報酬改定DX」の推進に向け、医療機関・薬局等やベンダーの集中的な業務負荷を平準化するため、中央社会保険医療協議会で議論が行われた結果、改定の施行時期が2カ月後ろ倒しされ、6月1日施行となりました。

診療報酬改定への対応状況（現状）

中医協 総-4
5. 4. 2 6

・現状、ベンダや医療機関等においては、診療報酬改定に短期間で集中的に対応するため、大きな業務負荷が生じている。

- 改定施行日（4/1）からの患者負担金の計算に間に合うように、ソフトウェアを改修する必要がある
※ 3月に支払基金から電子点数表が示されてはいるものの、その段階では既にソフトウェア改修作業の大半は終了している
- ソフトウェアのリリース後も、4月診療分レセプトの初回請求（5/10）までに、国の解釈通知等について更に対応が必要



各ベンダがそれぞれ行っている作業を1つにまとめられないか

①診療報酬算定・患者の窓口負担金計算を行うための全国統一の共通的な電子計算プログラム＝共通算定モジュールの開発

[出典] 令和5年8月2日 中医協 総-3 医療DXについて（その2）

令和6年度診療報酬改定の施行時期等

令和6年度診療報酬改定にかかる主なスケジュール

令和 5 年 12月	令和 6 年 1月	2	3	4	5	6	7	8	9
予算編成 大臣折衝 (12月20 日)	1月12日 中医協諮問	2月14日 中医協答申	3月5日 関係告示等 3月下旬 電子点数表公布	4月1日 薬価改定		6月 1日施行 (材料価格の 改定を含む)	7月上旬 初回請求	定例報告	
						届出期間 (5月 2日～6月 3日)			
	主な経過措置※								

※各診療報酬項目の具体的な経過措置は告示・通知を必ずご確認ください。

従来の改定スケジュール

前年12月	当該年 1月	2	3	4	5	6	7	8	9
予算編成 大臣折衝	1月中旬 中医協諮問	2月上旬 中医協答申	3月上旬 關係告示等 3月下旬 電子点数表公布	4月1日施行	5月上旬 初回請求		定例報告		
				 届出期間（4月1日～4月14日前後）					
主な経過措置									

[出典] 令和6年3月5日 令和6年度診療報酬改定【全体概要版】厚生労働省保険局医療課

2. 令和6年度調剤報酬改定の改定に関する大事折衝事項

まず、令和6年度診療報酬改定の改定率は、全体として+0.88%となり、薬価は-0.97%、材料価格は-0.02%になりました。また、薬価については、長期収載品目の保険給付の在り方の見直しを行う事となり、選定療養の仕組みが令和6年10月1日施行と定められています。

合わせて、診療報酬・薬価等に関する制度改革事項として、「医療DXの推進による医療情報の有効活用等」や「調剤基本料等の適正化」が示されました。

令和6年度の診療報酬改定等に関する大臣折衝事項
(令和5年12月20日)

1. 診療報酬 +0.88% (R6年6月1日施行)

- ① 看護職員、病院薬剤師その他の医療関係職種（下記※に該当する者を除く）について、R6年度にベア+2.5%、R7年度にベア+2.0%を実施していくための特例的な対応 +0.61%
- ② 入院時の食費基準額の引上げ（1食当たり30円）の対応（うち、患者負担については、原則、1食当たり30円、低所得者については、所得区分等に応じて10～20円） +0.06%
- ③ 生活習慣病を中心とした管理科、処方箋科等の再編等の効率化・適正化 ▲0.25%
- ④ ①～③以外の改定分 +0.46%（※40歳未満の勤務医師・勤務歯科医師・薬局の勤務薬剤師、事務職員、歯科技工所等で従事する者の賃上げに資する措置分（+0.28%程度）を含む）

うち各科改定率：医科+0.52%、歯科+0.57%、調剤+0.16%

2. 薬価等

- ① 薬価 ▲0.97% (R6年4月1日施行)
- ② 材料価格 ▲0.02% (R6年6月1日施行)

※ イノベーションの更なる評価等として、革新的新薬の薬価維持、有用性評価の充実等への対応を含む。

※ 急激な原材料費の高騰、後発医薬品等の安定的な供給確保への対応として、不採算品再算定に係る特例的な対応を含む（対象：約2000品目程度）

※ イノベーションの更なる評価等を行うため、長期収載品の保険給付の在り方の見直しを行う。

⇒選定療養の仕組みを導入し、後発医薬品の上市後5年以上経過したもの又は後発医薬品の置換率が50%以上となったものを対象に、後発医薬品の最高価格帯との価格差の4分の3までを保険給付の対象とする（R6年10月1日施行）

3. 診療報酬・薬価等に関する制度改革事項

良質な医療を効率的に提供する体制の整備等の観点から、次の項目について、中央社会保険医療協議会での議論も踏まえて、改革を着実に進める。

・医療DXの推進による医療情報の有効活用等

・調剤基本料等の適正化

加えて、医療現場で働く方にとって、R6年度に2.5%、R7年度に2.0%のベースアップへと確実につながるよう、配分方法の工夫を行う。あわせて、今回の改定による医療従事者の賃上げの状況、食費を含む物価の動向、経営状況等について、実態を把握する。

[出典] 令和6年3月5日 令和6年度診療報酬改定の概要【調剤】厚生労働省保険局医療課

3. 令和6年度調剤報酬改定で注目した項目

令和6年度調剤報酬改定の概要は多岐にわたりますが、今回JAHIS調剤システム委員会として、システムへの影響等を含めた点として、以下に注目してみました。

- ・医療DXの推進による医療情報の有効活用の推進（医療DX推進体制整備加算）
- ・長期収載品の保険給付の在り方の見直し
（選定療養の仕組みとそれに伴う処方箋様式の変更）
- ・施行時期の後ろ倒しによる、各種通知の発出時期・疑義解釈資料の公表について

4. 医療DXの推進による医療情報の有効活用の推進（医療DX推進体制整備加算）

今回の改定で新設された、「医療DX推進体制整備加算」により、マイナ保険証利用により得られる薬剤情報等を診察室等でも活用できる体制を整備するとともに、電子処方箋及び電子カルテ情報共有サービスの整備、マイナ保険証の利用率を要件とし、医療DXを推進する体制を評価する事になりました。但し、一部の施設基準には経過措置が設けられており、現時点で稼働していない「電子カルテ情報共有サービス」に関する内容が施設基準に含まれた事については、少し違和感を覚えました。

また、施設基準に示されている「電磁的記録による調剤録」が具体的にどのようなものか示されておらず、各ベンダーが持つシステムの対応可否について、薬局からベンダーに対し多くの問合せが発生しています。

合わせて、公害診療・調剤報酬請求における取扱いがどのようになるか、施行日になっても不明瞭のままでした。改正が行われる都度このような疑義が毎回発生しますが、各省間の連携が取れていれば、解釈に対する薬局からベンダーへの問合せも削減できるのではないかと思います次第です。

○医療DX推進体制整備加算の主な施設基準

- (1) 療養の給付及び公費負担医療に関する費用の請求に関する命令（昭和51年厚生省令第36号）第1条に規定する電子情報処理組織の使用による請求を行っていること。
- (2) 健康保険法第3条第13項に規定する電子資格確認を行う体制を有していること。
- (3) 保険薬剤師が、オンライン資格確認を通じて取得した薬剤情報、特定健診情報等を閲覧又は活用し、調剤、服薬指導等を行う体制を有していること。
- (4) 電子処方箋を受け付ける体制を有していること。
（紙の処方箋を受け付け、調剤した場合を含めて、調剤結果を電子処方箋管理サービスに登録する。）
- (5) 電磁的記録による調剤録及び薬剤服用歴の管理の体制を有していること。
（オンライン資格確認、薬剤服用歴等の管理、レセプト請求業務等を担う当該薬局内の医療情報システム間で情報の連携が取られていることが望ましい。）
- (6) 電子カルテ情報共有サービスにより取得される診療情報等を活用する体制を有していること。
- (7) マイナンバーカードの健康保険証利用の使用について、実績を一定程度有していること。

- (8) 医療DX推進の体制に関する事項及び質の高い調剤を実施するための十分な情報を取得し、及び活用して調剤を行うことについて、当該保険薬局の見やすい場所及びウェブサイト等に掲示していること。

【経過措置】

- (1) 令和7年3月31日までの間に限り、(4) に該当するものと見なす。
- (2) 令和7年9月30日までの間に限り、(6) に該当するものと見なす。
- (3) (7) については、令和6年10月1日から適用する。

当加算については、7月17日に開催された中央社会保険医療協議会総会（以下、中医協という）において、評価の取り扱いについて諮問、即日答申されました。2024年10月からマイナンバーカードの保険証利用（マイナ保険証）の利用実績が要件となる医療DX推進体制整備加算については、利用率に応じて3段階に細分化される事になります。

マイナ保険証の利用実績とは、電子資格確認に十分な実績として、(1) 算定する月の3カ月前のレセプト件数ベースマイナ保険証利用率（同月におけるマイナ保険証利用者数を、同月の患者数で除した割合で、社会保険診療報酬支払基金から報告されるもの）を確認する必要があります。なお、レセプト件数ベースマイナ保険証利用率は、3カ月前のものの代わりに、前月または前々月のデータを用いることができるようになっています。

こうした利用実績の他に、医療DX推進体制整備加算1と2についてはマイナポータルの医療情報に基づく患者からの健康管理に係る相談に応じることが、10月以降新たな施設基準となります。詳細については告示を待つことになります。

5. 長期収載品の保険給付の在り方の見直し（選定療養の仕組みとそれに伴う処方箋様式の変更）

当制度の施行は令和6年10月1日となっていますが、保険薬局において選定療養の対象となる長期収載品を選択しようとする患者へ説明を行った場合の調剤報酬の評価として、特定薬剤管理指導加算3の「口」が新設されました。しかしながら、選定療養に係る取り扱いに関しては、制度に関する詳細な説明や計算方法などについて、6月1日時点で示されていない中、調剤報酬点数上の取扱いに関して、薬局からベンダーに対し、算定可否などの問合せが多く寄せられています。当件に関しては、厚生労働省から「疑義解釈資料の送付（その8）」（6月18日付け事務連絡）で考え方が示されましたが、このような解釈についても、施行日前に情報公開されていれば、解釈に対する薬局からベンダーへの問合せも削減できるのではないかと思った次第です。

また、選定療養の制度が施行される事に伴い、処方箋様式の変更が行われますが、JAHISでは院外処方箋の情報を電子化するための規定を整理した「院外処方箋2次元シンボル記録条件規約」を技術文書として公表しています。今回、選定療養の施行に伴う処方箋様式変更に対し、「院外処方箋2次元シンボル記録条件規約」の改版作業を進め、6月半ばには、処方箋様式変更に対応した改訂版として「Ver1.9」を公表しました。制度としては10月1日施行であっても、各ベンダーがシステム改修を行い、現場に提供できるようにする為に、調剤システム委員会調剤標準化分科会が取りまとめを行い、医科システム委員会、歯科システム委員会や医療システム部会・電子カルテ委員会の確認を経て改訂作業

を進め、早期に技術文書を公表しています。

公表した技術文書については、厚生労働省や社会保険診療報酬支払基金にも情報共有を行い、電子処方箋における選定療養対応に向けた協力を行っています。

6. 施行時期の後ろ倒しによる、各種通知の発出時期・疑義解釈資料の公表について

令和6年度診療報酬改定は、「診療報酬改定DX」の推進に向け、医療機関・薬局等やベンダーの集中的な業務負荷を平準化するため、これまでの施行時期から2カ月後ろ倒しされ6月1日施行となりました。施行時期は2カ月後ろ倒しされる事になりましたが、各種通知はこれまでの改定とほぼ同タイミングで発出されています。各種通知の発出時期がこれまで通りであったことから、ベンダーはシステム改修に伴う要件定義作業に今まで以上の時間をかける事が出来たと思います。しかしながら、施行日までに全ての疑義がクリアにはならず、結果として緊急対応等を行う内容もあったかと思います。診療報酬改定DXへの取組みにおいては、共通算定モジュールの提供も含まれており、疑義解釈に関しては施行日前にゼロクリアする必要があると思われます。

また、先日の中医協で示された10月改正のような話が急遽出てくると、システムを開発するベンダーは短期間でシステム対応を行う必要があります。今回の診療報酬改定は、施行時期を2カ月後ろ倒しにしていますが、施行後半年も経たないうちに新たな点数改定が行われるようでは、政府が掲げている「診療報酬改定DX」の推進を実現する事は難しくなってくるのではないかと思います。

7. まとめ

JAHISとして「診療報酬改定DX」の取組みを行政と関係業界が一丸となって進めていくためにも、積極的に情報収集や意見具申、会員への情報発信を進めていきたいと考えています。今後とも会員皆様のご協力、宜しく願いいたします。

「JAHISヘルスケアPKIを利用した医療文書に対する電子署名規格 Ver.3.0」の策定について

医療システム部会
セキュリティ委員会 HPKI電子署名規格作成WG リーダー
(株)NTTデータ

ありま くにはる
有馬 一閣



1. はじめに

JAHISセキュリティ委員会HPKI電子署名規格作成WGでは、ヘルスケアPKI（以下、HPKI）に関するJAHIS標準等を策定しています。HPKIによる電子署名については、厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第6版」の“法令で定められた記名・押印のための電子署名”の中で挙げられている方式の一つとなっています。

「JAHISヘルスケアPKIを利用した医療文書に対する電子署名規格」は、HPKIで電子署名を行う際に、相互運用性と署名検証の継続性を確保することを目的として策定されたJAHIS標準で、国際標準であるISO17090-4に対して日本から提案を行っており、整合性を確保したものとなっています。電子処方箋の仕組みでは、HPKIによる電子署名に対して長期的な署名検証を継続可能とするため本JAHIS標準を参照し、長期署名方式を実現した形で記録条件仕様が策定されています。

今般、ETSI（欧州電気通信標準化機構）で、新たにJSON形式に対する電子署名の長期署名規格であるJAdESが策定されたことを受け、ヘルスケア分野におけるJAdESプロファイルに対して、相互運用性を考慮した制約の検討を行うと共に、これまで策定してきたCMS（Cryptographic Message Syntax）形式に対する長期署名規格であるCAdES、XML形式に対する長期署名規格であるXAdES、PDF形式に対する長期署名規格であるPAdESに関しても、国際規格の最新動向を踏まえた検討を行い、2024年4月に「JAHISヘルスケアPKIを利用した医療文書に対する電子署名規格Ver.3.0」として改定を行いました。本稿では、本JAHIS標準に関わる技術のご紹介と「JAHISヘルスケアPKIを利用した医療文書に対する電子署名規格Ver.3.0」での改定内容の概要についてご紹介します。

2. HPKIによる電子署名について

HPKIは、医師・薬剤師・看護師など保健医療福祉分野の27種類の国家資格と、院長・管理薬剤師など5種類の管理者資格が、hcRoleという属性として公開鍵証明書の中に含まれているため、PKIとしての特性だけでなく、適切な資格を持った者による行為であることを電子的に確認することができる、厚生労働省が認めた公開鍵認証基盤となります。

HPKIによる電子署名を行うことで、電子記録に対する否認防止、非改ざん性の証明が可能になると

共に、作成者の属性を確認できることになります。

図1は署名と署名検証の概要を示したものです。署名者によって行われた電子文書に対する署名を、検証者は受け取った電子文書、署名、公開鍵証明書を用いて、下記の点を確認します。

- ・署名に用いた公開鍵証明書が正当な認証局から発行されたものであること
- ・署名を実施した時点で、公開鍵証明書の有効期間外でないこと
- ・失効していない有効な公開鍵証明書を用いて署名していたこと

HPKIでは、これらの点の確認に加えてhcRoleを確認し、適切な資格を持った者による行為かを確認することになります。

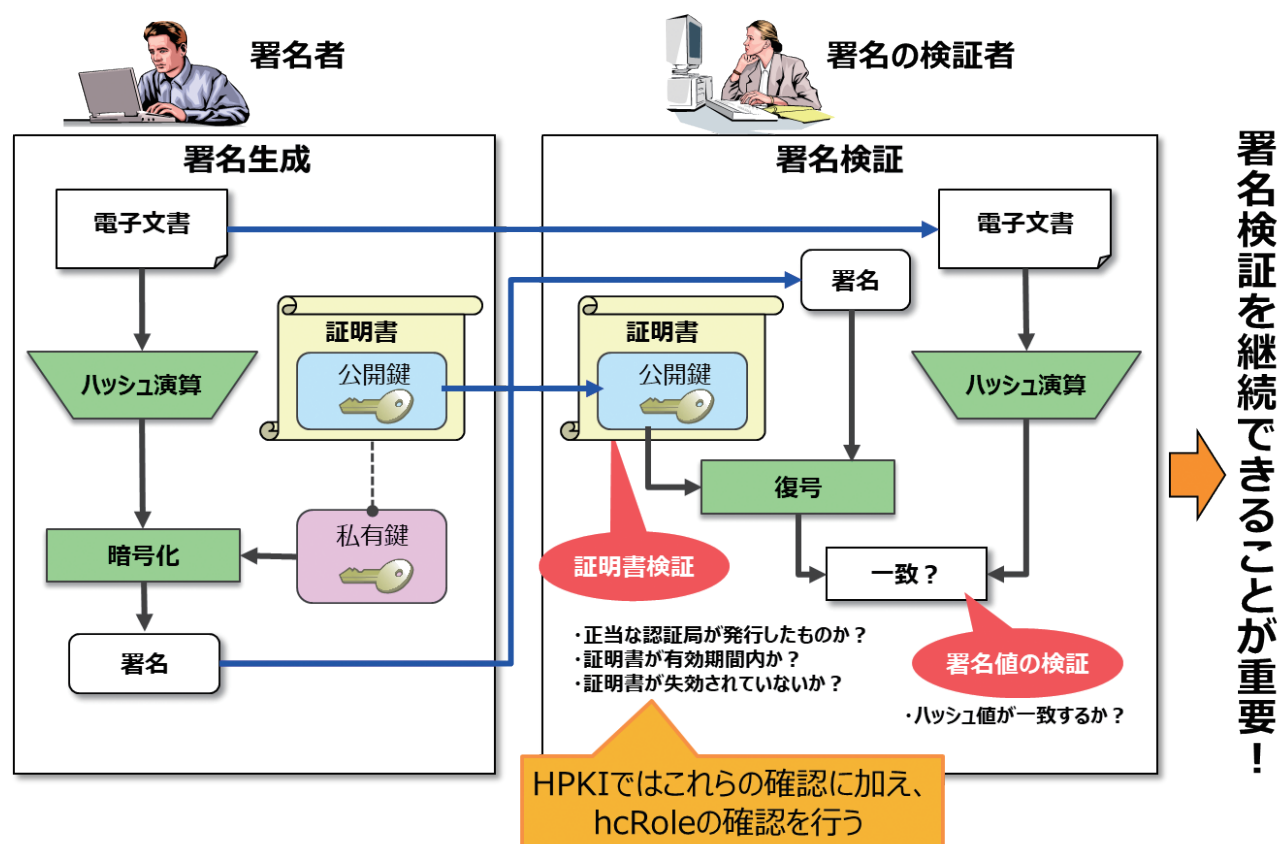


図1 署名と署名検証

保健医療福祉分野では法廷保存期間が定められた文書があり、将来にわたって必要な期間、署名対象文章に対する電子署名の検証を、継続して実施できることが重要になります。

そのため、電子署名した時刻が何時であったのかを客観的に示せることが必要となり、その時点での有効性を示すための失効情報についても保管することが必要になります。これらを満たす技術として、本標準が参照するCAdES、XAdES、PAdES、JAdESが国際規格として策定されている。これらの標準は、証明書検証に必要な失効情報等のデータを署名対象と合わせて保存し、タイムスタンプを付与することで有効性を担保しています。この標準によって作成される電子署名形式の種類における概念図を図2に示し、電子署名形式の種類に対する説明について、表1で説明します。

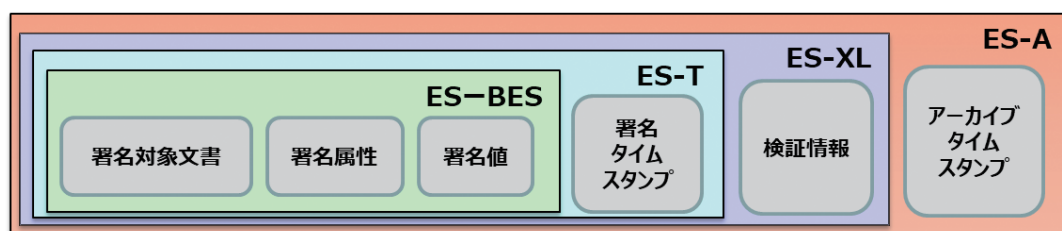


図2 電子署名形式の種類における概念図

表1 電子署名形式の種類に対する説明

電子署名の形式	説明
ES-BES	- 署名対象文書に対して、署名者に関する情報と署名データを格納した形式 - 署名時刻が確定できず署名付き文書を保存する用途には適さないため本標準の対象外 - 旧版では“ES”としていたが、国際動向を鑑み“ES-BES”とした
ES-T	“ES-BES”に対して、署名時刻を担保する署名タイムスタンプ^(※1)を付与した形式
ES-XL	“ES-T”に対して署名検証のために必要になる一連の証明書とその失効情報を格納した形式 “ES-A”を生成する過程の中間フォーマットとして定義されており、通常、単体での運用は想定外 “ES-XL”単独で流通させる場合、署名検証を行う際に注意点として、中間フォーマットであるが故の検証時間の考え方、検証時の警告の仕方について、“ES-XL”単独で利用するコミュニティ内でルールを作成し、適切に運用する必要がある
ES-A	署名データ及び署名タイムスタンプ、検証情報などを保護するためにアーカイブタイムスタンプ^(※2)を付与した形式

(※1) 電子署名時刻の信頼性を確保する役割を持つ

(※2) 署名文書と失効情報をタイムスタンプの暗号アルゴリズムにより保護し、長期に亘り電子署名の真正性を継続する役割を持つ

これらの電子署名の形式を用いて、長期的な署名検証を継続可能にする手順の概要は下記となり、そのフローイメージについて図3に示します。

- ①署名対象データ全体に対して、電子署名を付与し、“ES-BES”を生成する
- ②署名後、すみやかに「署名タイムスタンプ」を付与し、その時刻に署名が存在していたことを証明できるようにする“ES-T”を生成する
- ③証明書検証に必要となる、以下の検証情報を収集し格納する
 - ・タイムスタンプ局の証明書
 - ・署名者の証明書
 - ・認証パス上の認証局の証明書
 - ・上記のすべての認証局の失効情報（CRL）

- ④上記の署名対象文書及び署名値、検証情報全体に対して「アーカイブタイムスタンプ」を付与し
“ES-A”を生成する
- ⑤一世代前の「アーカイブタイムスタンプ」の有効期間が過ぎる前に、「アーカイブタイムスタンプ」を追加付与することで、“ES-A”の有効性を延長し、署名検証の継続性を確保する

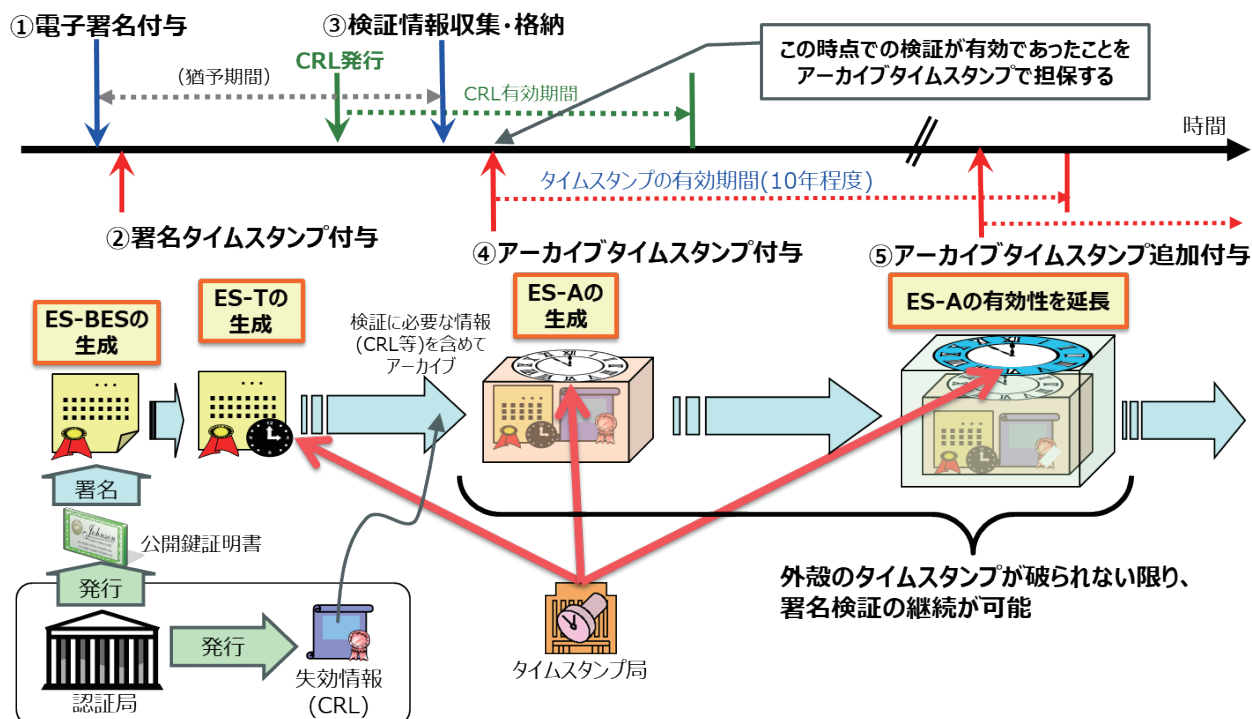


図3 長期署名フォーマットによる署名延長のフローイメージ

保健医療福祉分野において相互運用性と署名検証の継続性を確保するために、CAdES、XAdES、PAdES、JAdESの署名プロファイル、データ構造、各要素に対する要求レベルを定めたものが、本JAHIS標準となり、国際標準であるISO17090-4に対して日本から提案を行い、国際的にも整合性を確保しています。

本JAHIS標準を適用した実例としては、電子処方箋が挙げられます。電子処方箋における署名の概要図について図4に示します。電子処方箋では、処方箋情報に対して医師が署名することで電子処方箋となり、電子処方箋管理サービスに送付されます。電子処方箋管理サービスでは送付された電子処方箋に対して、署名タイムスタンプ、署名検証のために必要になる一連の証明書とその失効情報を格納し“ES-XL”とします。この“ES-XL”形式の電子処方箋を調剤薬局で受け取り、薬剤師は調剤を行うことになります。調剤結果情報を付与したものに薬剤師の署名を行い、調剤済み電子処方箋として電子処方箋管理サービスに送付します。電子処方箋管理サービスでは送付された調剤済み電子処方箋に対して、署名タイムスタンプ、署名検証のために必要になる一連の証明書とその失効情報を格納し、アーカイブタイムスタンプを付与した上でアーカイブすることになります。

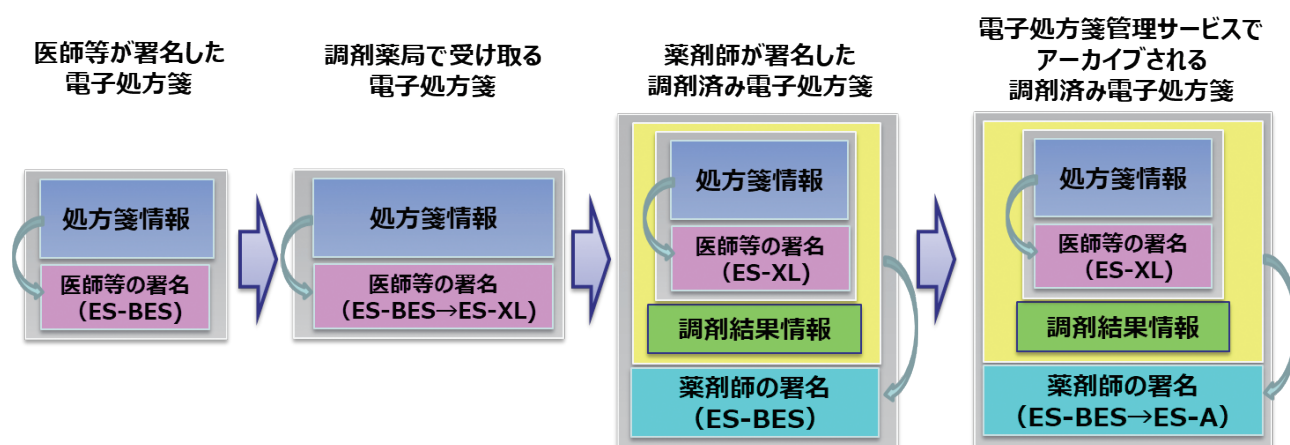


図4 電子処方箋における署名の概要図

3. 本JAHIS標準でのVer.3.0に対する改定内容の概要

今回の改版では、JSONへの電子署名の長期プロファイル(JAdES)の追加と、外部規格及び外部環境の変化に対して整合性を保つための改定を行いました。

JAdESの追加については、ETSIでも策定されたばかりであり、ISO14533シリーズで規定されていないため、暫定的にETSI規格(ETSI/TS 119 182-1 V1.1.1)を参照した形で規定しており、JAdESがISO14533シリーズに規定されるまで参考標準の扱いとしています。

外部規格及び外部環境の変化に伴う改定で、変化の大きい主なものを紹介します。XAdESに関する国際規格の参照先をISO14533-2:2021にしたことに伴い、旧版のVer.2.0と要素名が異なる箇所があるため、互換性を維持するために付録にVer.2.0における要件を記載しています。CADESに関する事項として、ISO14533-1:2022のCADES-Aでは、ArchiveTimestampV3も併記する形で策定されていますが、日本においてはArchiveTimestampV2による継続的な検証を維持するためにオプション扱いとし、付録にArchiveTimestampV3を利用する場合の要件を記載しています。また、Ver.2.0で記載を行っていた「付録2：HL7 CDA文書に対するXML電子署名の付与」については、HL7でIHEのDSGに基づく実装が主流になりつつあるため削除を行いました。

4. おわりに

医療DX等、国の施策の推進が行われていくことで、今後ますます医療情報の流通が進み、データに対する真正性の確保及びデータの出所として誰が実施したか等の証明を行うことの重要性が増してくるものと考えられます。今回の改版では、国際的な動向としてETSIで策定されたJAdESの追加を実施し、ヘルスケア分野で必要となる際に提供できるよう検討しました。今後も国際標準との整合性を確保しながら、検討を行って参りますので、「JAHISヘルスケアPKIを利用した医療文書に対する電子署名規格Ver.3.0」を積極的に活用して頂ければ幸いです。また、HPKI電子署名規格作成WGへの参加についてもお待ちしております。最後になりますが、本JAHIS標準の改定にあたってご協力をくださったWG参加者の皆様に、この場をお借りし改めてお礼を申し上げます。

「JAHIS看護データセット適用ガイド 看護行為編Ver.1.1」 制定にあたって



医療システム部会
電子カルテ委員会
看護情報WG リーダー
(日本電気株)
しおざき ひろこ
汐崎 弘子



医療システム部会
電子カルテ委員会
看護情報WG 委員
(キヤノンメディカルシステムズ株)
きど すみこ
木戸 須美子

1. はじめに

看護に関わる情報は、診療情報において重要な構成要素であるにもかかわらず、システム実装を前提とした標準化は他の医療情報と比べて進んでおらず、相互運用性が低い状態でした。「看護情報」にどのような情報があるのかが曖昧で、ケア情報・患者状態・看護計画・看護データベースなど用語としては共通認識があるものの、その詳細を確認すると施設間や各ベンダで内容や範囲などに違いがありました。その要因は、多方面にわたる看護業務の特性に加え、施設間での情報の捉え方の差が大きかったと考えられます。そこで、看護情報の施設間でのスムーズな情報連携やデータ移行を目指し、「看護情報WG」を立ち上げ、まずは看護情報の一つである「ケア情報」を対象を絞り検討を実施して、2022年1月「JAHIS看護データセット適用ガイド看護行為編Ver.1.0」を公開いたしました。

Ver.1.0公開の後、次の検討対象として、ケアの計画作成・実施判断などで必要とされる情報である「患者状態」を採り上げました。「患者状態」を表す情報群を対象として検討・整理をおこない、2024年4月「JAHIS看護データセット適用ガイド看護行為編Ver.1.1」を公開いたしました。

2. 検討方法について

WGでの検討はVer.1.0のメンバで継続するとともに、MEDIS-DCの看護マスタ担当者の協力も得て、臨床視点でのアドバイスをいただきました。

「患者状態」とされる情報は、入院患者では継続的にモニタリングされ、また、外来においても継続受診する透析患者などでは同様にモニタリングされ記録されます。このような情報について、項目例を収集して特性の整理をおこない、主に施設間での情報連携を目的に、データセットの定義をおこないました。

しかし、看護情報については情報の種類を定義したものが臨床サイドにも無く、「患者状態」の対象情報も不明瞭な状態でした。まずは本ガイドで扱う「患者状態情報」についてWGメンバーの中で共通認識をつくることから開始しました。「患者状態」は用語としては馴染みがあり、参加メンバーそれぞれがイメージを持っているものの、患者プロフィール・看護プロフィール・看護指示情報などと重なる部分もあり、またベンダのシステムによっては「患者状態情報」のデータ種別が無いものもあります。その為、時間をかけて定義と特性を確認し、認識のすり合わせをおこない、「患者状態情報の定義と特性」としてまとめました。

また、データセット定義の作成・検証をおこなう上で項目例が必要ですが、患者状態のマスタは、公的に定義したものは存在しておらず、公的以外でも公開されて広く知られているマスタはありません。そこで本ガイドでは、項目例として、施設間連携を目的に公開されている情報である令和4年度診療報酬改定で示された「別紙様式50」と、MEDISホームページで公開されている「回復期等移行チェックリスト」から項目を抽出し、そこに各ベンダの導入実績からも項目を追加してまとめました。

「別紙様式50」	「回復期等移行チェックリスト」
日常生活自立度	障害高齢者の日常生活自立度
認知症自立度	認知症高齢者の日常生活自立度
清潔：入浴・口腔ケア・更衣	
活動：座位・移乗・移動・移動方法	移動・移動自立度
排泄：排泄・排泄方法	排泄方法・排泄自立度
食事：介助方法	食事
睡眠	
	FIM：入院時・退院時
精神状態	認知症診断の有無、せん妄の有無
運動機能障害：麻痺・言語障害・視力障害・聴力障害	麻痺・麻痺の部位、視力障害、聴力障害
呼吸管理：吸引	
創傷処置：褥瘡	褥瘡
ストーマ処置	
	医療処置

図1 「別紙様式50」「回復期等移行チェックリスト」からの項目例

情報連携の際には、各ベンダのシステムの仕様によってデータの保有状況や格納値の考え方が異なることが想定されますが、基本的に、エクスポート側は加工や不足情報の補完は行わずシステムで保有しているデータをそのまま出力し、インポート側で自システムの仕様にあわせて解釈・補完等をおこなうこととしています。検討の際に、ベンダ間で議論となった内容については、事例・パターン例なども収載しました。下記はその一例です。

No.	システムで保有しているデータ	エクスポート時の格納値		
		開始日時	終了日時	確認日時
1	開始日時のみ	日時	「N/A」(*1)	「N/A」(*1)
2	開始日時・終了日時	日時	日時もしくは「NULL」(*2)	「N/A」(*1)
3	開始日時と確認日時	日時	「N/A」(*1)	日時
4	開始日時・終了日時と確認日時	日時	日時もしくは「NULL」(*2)	日時
5	確認日時のみ	「N/A」(*1)	「N/A」(*1)	日時

注記:

- (*1) 該当する日時情報をシステム上で管理・保有していない場合、「N/A」を使用する。
- (*2) システム上で終了日の値が未定(継続中)を意味する(例:「2999/12/31」等)場合、終了日時は「NULL」を使用する。

各パターンの開始日時・終了日時・確認日時の例

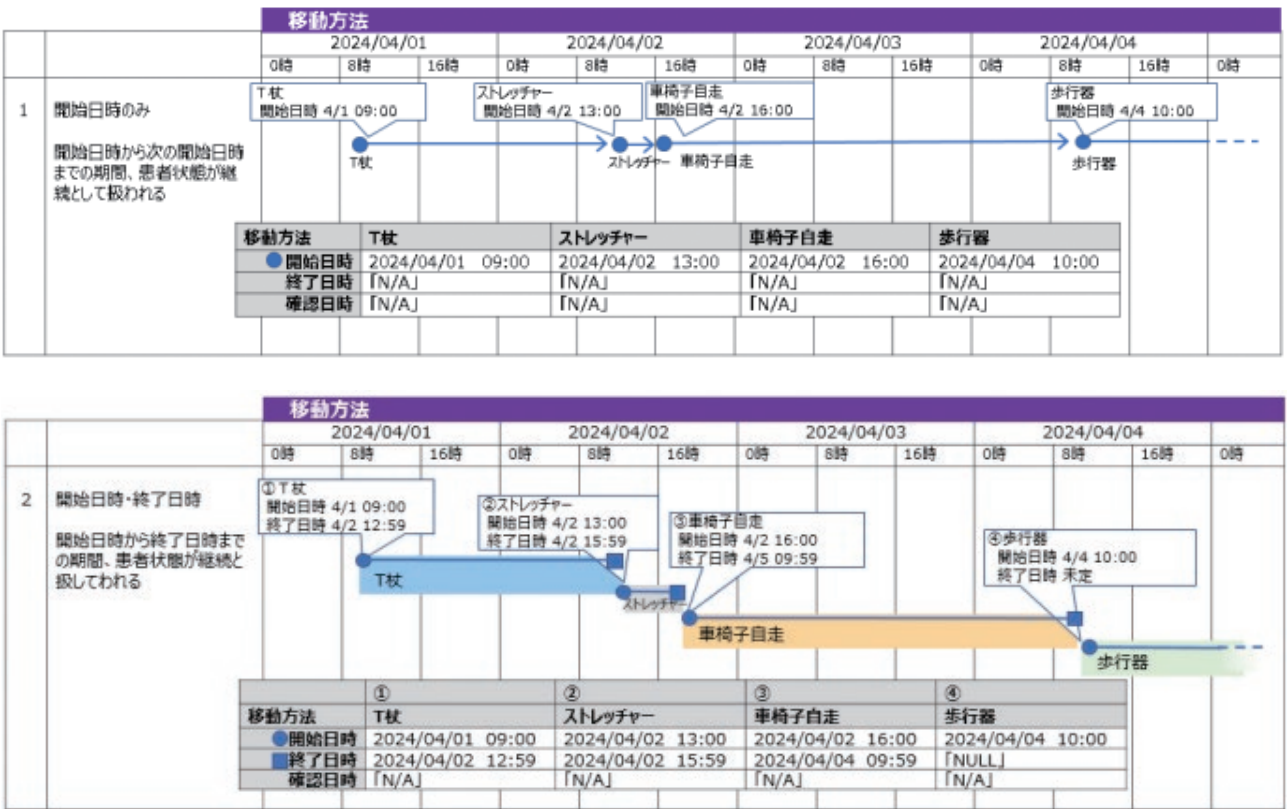


図2 患者状態日時情報のパターンとその例

3. 今後の課題

公的な看護のマスタとしてはMEDIS看護実践用語標準マスターがあり、「JAHIS看護データセット適用ガイド看護行為編Ver.1.0」で整理した「ケア情報」ではMEDISのマスタの利用を前提としました。Ver.1.0では情報連携やデータ移行で利用する際の課題を取り上げ、MEDIS-DCの看護マスタータスクフォースにJAHISとして参加し、課題の解決に取り組んでいます。

今回のVer.1.1で整理した「患者状態情報」とする項目のいくつかは、MEDISのマスタに含まれていますが、一部でしかありません。施設間でのデータ連携には、データ定義とあわせて整備されたマスタが必要ですが、現段階では「患者状態情報」を扱うに足る公的マスタはまだ存在していません。マスタ整備は臨床的な検証が必要となるため、JAHIS としては必要性を提案することに留め、今後の課題と捉えています。

4. おわりに

「JAHIS看護データセット適用ガイド 看護行為編Ver.1.1」の制定においては、メンバ各社の担当者が、自身の経験と知見を出し合い、自社システムと他社システムとのデータ連携を目指して議論・検討をおこなってきました。今後も看護情報の検討を継続するとともに、実装検証を踏まえて見直しをおこない、改めて“JAHIS標準”化を進めていきます。

IHE-PaLM 会議に参加して

医療システム部会
部門システム委員会 臨床検査システム専門委員会 委員
(株)エイアンドティー

ふかがわ かずなり
深川 一成



1. はじめに

部門システム委員会（※派遣当時は検査システム委員会）からの派遣として2024年度のIHE PaLM国際会議に参加して参りました、臨床検査システム専門委員会委員の深川と申します。私のJAHIS参画は2023年からでJAHIS内での経験はまだ浅いですが、今回貴重な機会をいただけて大変感謝しております。

今回、会誌にてご報告の機会を頂きましたので、当会議参加についてご報告させていただきます。

2. IHEとPaLMドメインについて

初めに少しIHEとPaLMについて説明させていただきます。

IHE (Integrating the Healthcare Enterprise) は、1999年に米国で医療情報・管理システム学会 HIMSS (Healthcare Information and Management Systems Society) と北米放射線学会 (RSNA Radiological Society of North America) が中心となって設立された団体になります。その後、各地域に広がり、日本でも2001年にIHE-Japanが設立されております。IHE の目的は標準運用ワークフローの定義と、運用ワークフローを実装するための各標準の扱い方の定義を行うことになります。

PaLMはIHEの中で病理と臨床検査について扱う部門になります。2016年より臨床検査ドメインと病理ドメインが統合されPaLM (Pathology and Laboratory Medicine) となっています。毎月1回、定期的にWEB上でPaLMの部門会議が行われています。

部門システム委員会（※旧検査システム委員会）では国際標準化活動への参画と情報収集・展開を目的として、毎回のPaLM会議に参加者を出しております。2023年12月より私が臨床検査システム専門委員会からのメンバーとしてWEB会議に参加しています。WEB会議上で展開された内容については、臨床検査システム専門委員会にて報告を行っております。

PaLMのF2F (face-to-face : 対面会議) はコロナが世界的に流行する以前は半年に1度の開催でしたが、現在は1年に1回のペースで対面のミーティングが行われています。今年の開催地はポルト (ポルトガル) でした。

3. 会議について

4月17日から19日までの3日間、ポルト（ポルトガル）のSECTRA社のポルトオフィス会議室で開催されました。PaLMのメンバーでもあるRuben Fernandes氏の勤務先でもあります。

参加者はCAP（College of American Pathologists：米国病理医協会）やLeica Biosystems社など病理をメインとするメンバー、Clinisys社のような臨床検査部門をメインとする方々など、アメリカ・欧州・そして私が日本から、世界の各地域から様々なメンバーが集まっています。

現地参加は11名、WEB上からの参加が10名、計21名で会議が行われました。



IHE-PaLMのメンバー。右端が私。

4. 会議の内容

開催3日間で初日は臨床検査中心、2日目は病理中心、3日目は半日で各地域の活動報告の予定で会議が行われました。

4/17 各自自己紹介の後にはLaboratory Medicine（臨床検査）中心に会議が行われました。

- **Alessandro Sulis氏（CRS4）中心にSET（Specimen Event Tracker）の検証ケースレビュー**

検体の追跡を行うためのプロファイルになります。検証ケースにおいて最初はシンプルなケースから始めるべきとのAlessandro Sulis氏の提案から始まり議論が行われました。

- **Jim Harrison氏（University of Virginia）よりPT（Proficiency Testing）についての説明と議論**

検査ラボ間での検査能力に差が発生しないように担保するための内容になります。日本においては各総合病院に検査室があるので論点になりにくい部分かもしれませんが、病院独自に検査室を持たず複数の地域ラボで運用している国・地域にとっては重要な論点かと思われます。

4/18 デジタル病理関連（DPIA,DPIO,DPEC）についての討議が行われました。

- **DPIA（Digital Pathology Image Acquisition）レビューと最終版へのまとめ**

- **DPIO（Digital Pathology Internal Ordering）のドラフト版レビュー**

- **DPEC（Digital Pathology Evidence Creator）のドラフト版レビュー**

検体検査が私の主な業務分野で病理検査分野に知見が無く詳しいことは申し上げられないのですが、病理分野でコンピューターの画面上で診断を行うデジタル病理化が進んでおり、規格策定が急務という空気を活発な議論と迅速なドラフト作成の流れから感じました。CAP（College of American Pathologists：米国病理医協会）メンバー主体で議論が行われ、今回一番議論が活発な論点でした。

4/19 各地域の活動報告など

- 各地域ごとのIHE PaLM活動状況報告

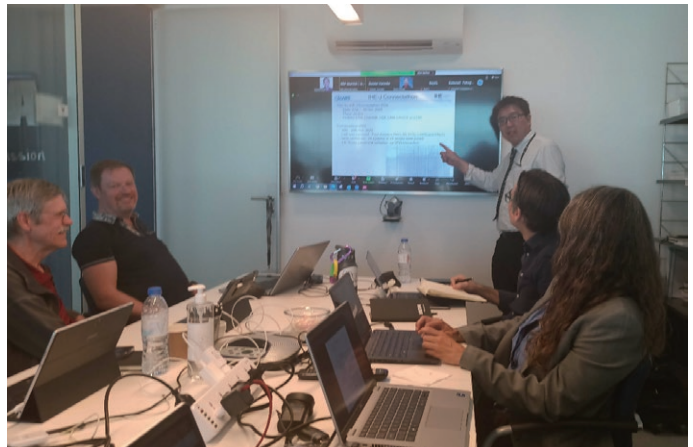
私からIHE-Jの活動報告をPaLM各メンバーに行いました。

- IHE-Jの組織変更について

- 活動について（JAMT・JACLaSでのブース出展。JSDP会合でのIHE PaLMとDPIA・DPIO紹介）

- JAHIS臨床データ交換規約の改訂についての報告

- 2024年IHE-Jコネクタソンの結果報告



私が各メンバーにIHE-Jの活動報告をする様子。

5. 最後に（ポルトの景色を添えて）

最後に少し会議の開催されたポルトのお話をしたいと思います。ポルトガルは日本からの直行便がありません（2024年現在）。そのため、どこかを経由する必要があります。欧州内に入ればポルト行きの飛行機は多いのですが深夜着が多く、夕方にはポルトへ到着できるパリ経由を選びました。往路は国際情勢の関係でロシア上空を通過できず欧州行きの航空機は北回りルート、思わぬルートで欧州に向かうことになりました。



ポルトへの到着はトータル30時間弱を要しました。空港から市街地へはメトロがあり、SECTRA社への訪問もメトロに乗りました。



SECTRA社は旧市街地から離れたオフィスなどが集まっている、ビーチそばの地域になります。オフィスからもビーチが眺められる景色の良い場所でした。



PaLMメンバーとはランチ・夕食を共にしました。写真はポルトガル名物のフランセジーニャです。スライスしたパンにハム・ベーコンなどが挟まれ、上から多量のチーズがかけられた料理になります。（「勇敢な人だけがこの爆弾のようなサンドイッチを食せる」とも言われているようです。）



こちらは旧市街地です。PaLM会議の行われた場所からはメトロでそれほど時間がかからず行くことができます。



IHE PaLM会議に添える形でポルトの紹介をさせていただきました。歴史を感じる大変美しい街でした。気候が良い土地のためヨーロッパ中から観光でポルトを訪れる人も多く賑わっていました。

今回JAHISより国際的な会議に参加する機会をいただけて大変感謝しております。会議に参加するために様々なフォローを、また各方面から多大なご協力をいただきました。この機会を与えていただいたJAHISとサポートしていただいた皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

今後もIHE PaLM会議を通して、JAHISと日本の標準化推進に対して微力ながら貢献していきたいと思っています。

自治体情報システムの標準化・共通化への対応について

保健福祉システム部会
福祉システム委員会 副委員長
(株)日立製作所

かわさき ひで き
川崎 英樹



1. はじめに

現在、日本は急激な人口減少と高齢化の時代を迎えています。総務省の自治体戦略2040構想研究会第二次報告（2018年7月）では、半分の職員数でも担うべき機能が発揮される自治体をめざすことや、自治体ごとに開発し部分最適を追求することで生じる重複投資をやめる枠組みとして地方公共団体情報システム（以下、自治体情報システム）の標準化・共通化が提言されています。また、自治体情報システムの仕様が統一されていないことにより、特別定額給付金（新型コロナウイルス感染症緊急経済対策関連）でのデジタルを活用した迅速な給付に支障が出たケースも発生しました。

このような状況を踏まえ、政府は情報通信技術を活用し、住民の利便性の向上及び自治体の行政運営の効率化に資するよう、自治体情報システムの標準化・共通化を法整備のもとに義務化することを決定し、2021年9月1日に「地方公共団体情報システムの標準化に関する法律」を施行しました。

地方公共団体情報システムの標準化に関する法律（令和3年法律第40号）の概要	
趣旨	
国民が行政手続において情報通信技術の便益を享受できる環境を整備するとともに、情報通信技術の効果的な活用により持続可能な行政運営を確立することが国及び地方公共団体の喫緊の課題であることに鑑み、地方公共団体情報システムの標準化について、基本方針及び地方公共団体情報システムに必要とされる機能等についての基準の策定その他の地方公共団体情報システムの標準化を推進するために必要な事項を定める。	
概要	
① 情報システムの標準化の対象範囲 - 各地方公共団体における事務の処理の内容の共通性、住民の利便性の向上及び地方公共団体の行政運営の効率化の観点から、標準化の対象となる事務を政令で特定 ※ 児童手当、子ども・子育て支援、住民基本台帳、戸籍の附票、印鑑登録、選挙人名簿管理、固定資産税、個人住民税、法人住民税、軽自動車税、戸籍、就学、健康管理、児童扶養手当、生活保護、障害者福祉、介護保険、国民健康保険、後期高齢者医療、国民年金 標準化対象事務 ② 国による基本方針の作成 - 政府は、地方公共団体の情報システムの標準化の推進について、基本方針を作成 - 内閣総理大臣、総務大臣及び所管大臣が、関係行政機関の長に協議、知事会・市長会・町村会等から意見聴取の上、方針案を作成 ③ 情報システムの基準の策定 - 所管大臣は、①の事務の処理に利用する情報システムの標準化のための基準（省令）を策定 - 内閣総理大臣及び総務大臣は、データ連携、サイバーセキュリティ、クラウド利用等各情報システムに共通の事項の基準（省令）を策定 - 策定時に地方公共団体等の意見反映のための措置を実施	④ 基準に適合した情報システムの利用 - 地方公共団体が①の事務の処理に利用する情報システムは、③の省令で定める期間内に基準に適合することが必要 ①の事務と一体的に処理することが効率的である場合に、基準に適合する情報システムの機能等について、①の事務以外の事務を処理するために必要な最小限度の追加等が可能 ⑤ その他の措置 - 地方公共団体は、国による全国的なクラウド活用環境整備の状況を踏まえつつ、当該環境においてクラウドを活用して情報システムを利用するよう努める - 国は、標準化のために必要な財政措置を講ずるよう努めるとともに、地方公共団体における標準化の状況の把握や地方公共団体が基準への適合を判断するための支援等を実施 ガバメントクラウド利用の推進 ⑥ 施行期日等 - 令和3年9月1日 - 法律の施行後5年を経過した場合において、法律の施行の状況について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずる

図1 地方公共団体情報システムの標準化に関する法律の法律概要（朱書きは寄稿用追記）

出典元：総務省HP https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/chiho/jichitaijoho_system/index.html

2. 自治体情報システムの標準化・共通化の現状

2021年度から法令に基づき開始された自治体情報システムの標準化・共通化は以下の状況です。

【標準準拠システムへの移行期限】

- ・2025年度末までに標準準拠システムへ移行することをめざす（2022年の標準化基本方針通り）
- ・デジタル庁と総務省にて2025年度末までに移行困難の申し出があった自治体をヒアリングした結果、現行システムが個別開発システムであることや現行ベンダーが標準準拠システムの開発を行わない等の理由により、2024年3月時点で171団体・702システムが移行困難システムに該当する見込みです。（標準準拠システムへの移行対象は、全国1,788団体・34,592システム）

【政府共通のクラウドサービス環境（ガバメントクラウド）の利用】

- ・現時点で採択されているガバメントクラウド対象クラウドサービスは、Amazon Web Services¹、Google Cloud²、Microsoft Azure³、Oracle Cloud Infrastructure⁴、さくらのクラウド⁵、6
- ・ガバメントクラウド関連資料が公開され、デジタル庁、自治体、CSP⁷、ガバメントクラウド運用管理補助者、ASP⁸、回線運用管理補助者及び通信回線事業者の責任分担等が整理されています。

【業務パッケージシステムが標準準拠システムとして適合する条件と開発状況】

- ・機能標準化基準（各業務システムの標準仕様書）及び共通標準化基準（データ要件・連携要件、セキュリティ、ガバメントクラウドの利用、共通機能、文字要件）が策定済みであり、各ベンダーが標準準拠システムの開発中です。（概ね2024年度末までに完成し、2025年度に導入する予定）

【自治体への財政支援】

デジタル基盤改革支援補助金（累計6,988億円）による財政支援が行われています。

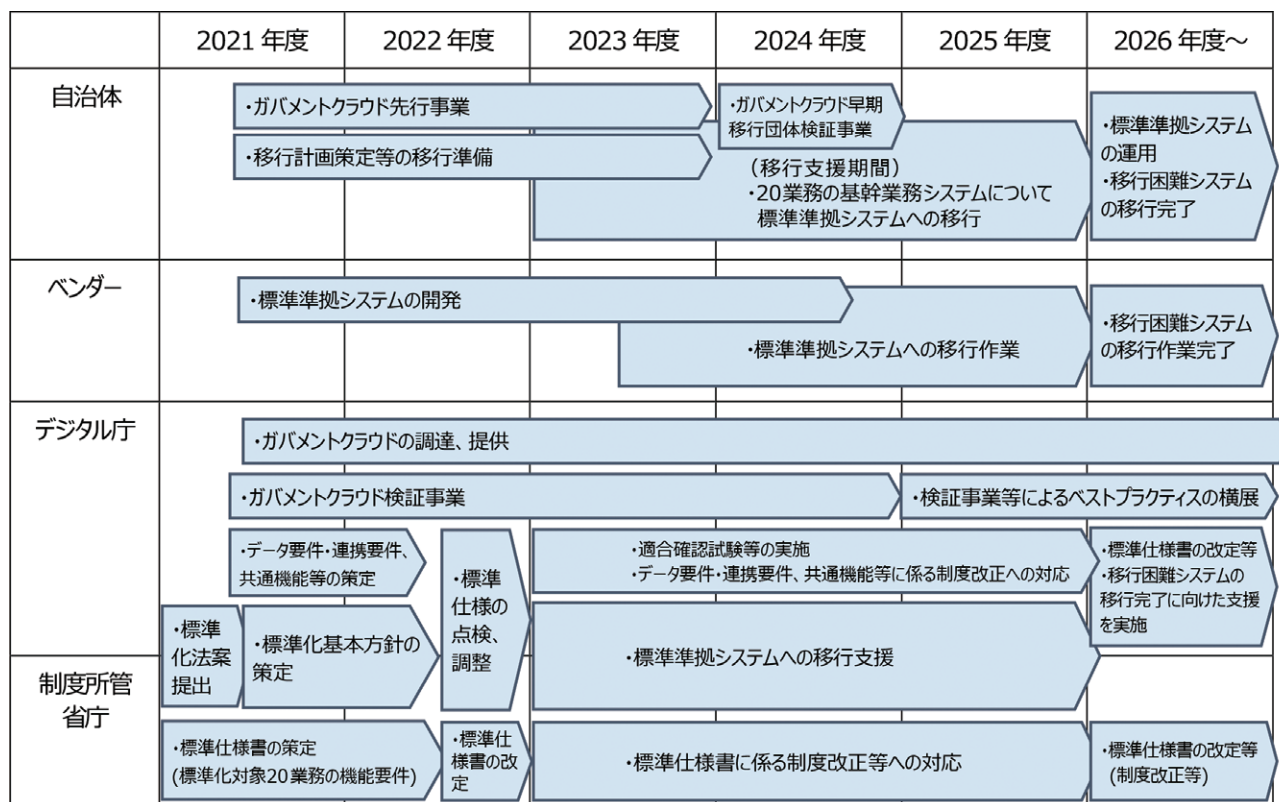


図2 自治体情報システムの標準化・共通化の全体スケジュール

（デジタル庁の各種公開ドキュメントをもとに作成）

3. 自治体情報システムの標準化・共通化のポイント

2025年度末まで標準準拠システムへ移行するためのポイントは、自治体とASPとの間で作業スケジュールを早期に合意・決定することとされています。標準仕様に指定都市（政令市）要件等が追加され現行システムとのFit&Gapを継続している自治体が多い中、システム運用テスト完了（2025年9月末までを目安）までにFit&Gapの結果を反映できるように作業することがポイントとなります。（図3）

また、図4に示す移行支援体制が整えられており、総務省・デジタル庁・自治体の連携により各種課題解決やガバメントクラウド等に係る技術的・継続的な支援によって移行が完了すると考えられます。

移行段階	作業内容	作業完了の目安
フェーズ0（未着手）	未着手の自治体を0にする	2023（R5）年5月末
フェーズ1（計画立案）	Fit&Gap分析による課題の洗い出し	2023（R5）年9月末
フェーズ2（システム選定）	予算要求・財政部局等との調整	2023（R5）年12月末
	ベンダーの選定・決定	2024（R6）年3月末
	システム移行に係る詳細スケジュールの確定	2024（R6）年5月末
フェーズ3（移行）	システム移行時の設定	2024（R6）年11月末
	データクレンジングの実施	2025（R7）年3月末
	システム運用テストの実施	2025（R7）年9月末
フェーズ4（移行完了）	運用開始ステータス	2026（R8）年3月末

図3 自治体情報システムの標準化・共通化の移行推進マイルストーン

引用元：総務省 自治体情報システムの標準化・共通化に係る手順書 第3.0版

総務省HP https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/chiho/jichitaijoho_system/index.html

移行支援体制について

- 自治体との連絡調整窓口は、引き続き総務省が担当する。
- 標準化リエゾンとは、都道府県連絡会議等により、自治体と「顔の見える関係」を構築し、都道府県連絡会議等により得た情報に基づき、技術的観点からの移行困難支援についての橋渡しを担う。

【関係図】

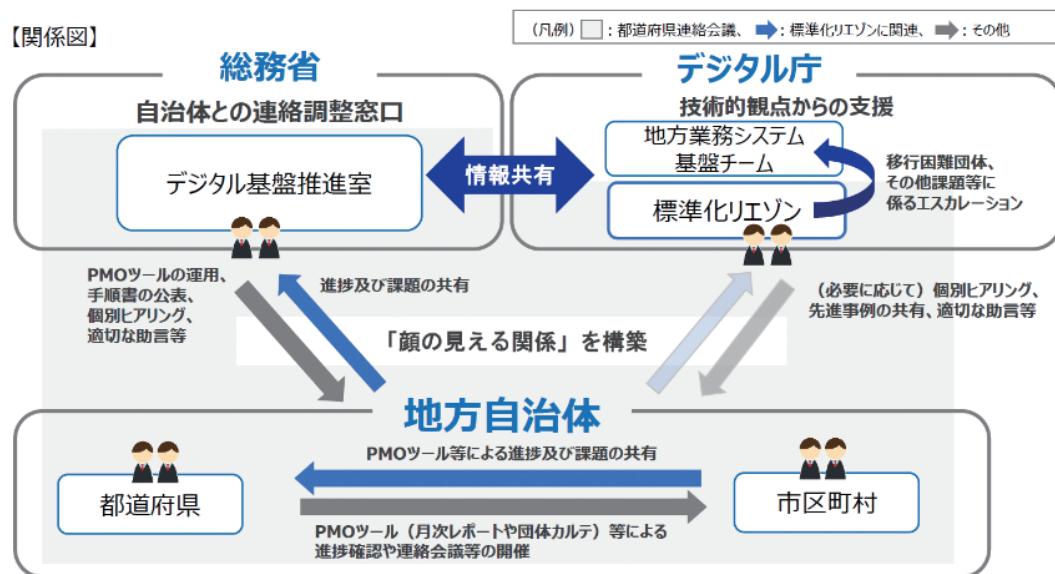


図4 移行支援体制

出典元：デジタル庁 地方公共団体の基幹業務システムの統一・標準化における移行支援体制について

デジタル庁HP https://www.digital.go.jp/policies/local_governments

4. 福祉システム委員会としての取組み

福祉システム委員会では標準化対象事務20業務のうち、8業務（児童手当、子ども・子育て支援、児童扶養手当、健康管理、障害者福祉、介護保険、国民健康保険、後期高齢者医療）に対しWG活動を行っており、制度所管省庁へ制度改正に伴う標準仕様書等の影響や課題解決に向けた提言を行っています。

また、デジタル庁は前述の移行支援体制の一環として、図5に示す事業者協議会を設置しており、JAHIS（福祉システム委員会代表者）もオブザーバーとして、標準準拠システム又は標準化対象20業務に係る現行システムの開発又は販売・導入を行う事業者とともに構成員として参加し、標準準拠システムへの移行に係る課題等について協議を行っています。

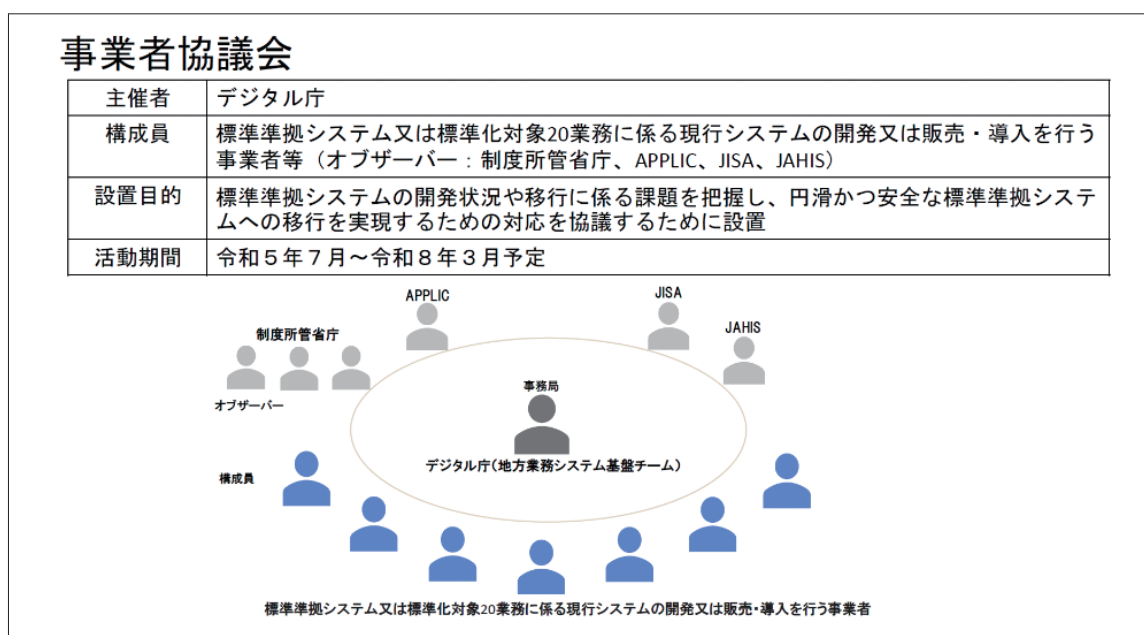


図5 事業者協議会概要

出典元：デジタル庁 地方公共団体の基幹業務システムの統一・標準化における移行支援体制について
デジタル庁HP https://www.digital.go.jp/policies/local_governments

5. おわりに

自治体情報システムの標準化・共通化により、システム運用経費を抑えると共に、自治体内の住民データを全国統一仕様で業務・システム横断的に抽出・加工し、給付支援サービス等の国民向けフロントサービスと円滑に連携することで、国民にとって身近なデジタル・ガバメントサービスも成長していくと考えられます。

福祉システム委員会は、今後も社会保障分野における行政事務に対してJAHIS会員各社の意見をフィードバックしながら、"デジタル"面で後方支援（業界標準化支援）を進めていきます。

1. Amazon Web Servicesは、米国その他の諸国における、Amazon.com,Inc.またはその関連会社の商標です。
2. Google Cloud は、Google LLC の商標です。
3. Microsoft、Azureは、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。
4. Oracleは、Oracle Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。
5. さくらのクラウドは、さくらインターネット株式会社の登録商標です。
6. さくらのクラウドは、2025年度末までに全ての要件を満たす条件付きでガバメントクラウドに採択されています。
7. CSP：政府情報システムのためのセキュリティ評価制度（ISMAP）のクラウドサービスリストに登録されたクラウドサービスから一定の規定する要件を満たすものを提供する事業者
8. ASP：自治体が標準準拠システム等を利用するために、業務アプリケーション等の構築、提供、運用保守等の提供を受ける一切の事業者（ガバメントクラウド運用管理補助者を除く。）

JAHIS 教育コース オンデマンド化への取り組み

事業推進部 教育事業委員会

委員長

(株NTTデータ)

み た む ら か ず は る
三田村 一治



JAHIS会員の皆様には、平素より事業推進部教育事業委員会が企画運営しております教育事業に大変ご協力いただき厚くお礼を申し上げます。事業推進部教育事業委員会の委員長を務めておりますNTTデータの三田村と申します。2024年度より新たにJAHIS教育コースのオンデマンド化を進めております。その新たな取り組みについてご報告させていただきます。

JAHIS教育コースのオンデマンド化については、以前より受講生の方々や各会員会社の教育を担当されている方々からご要望として上がっておりました。特に医療情報システム入門コースについては、好きな時に聞ける何度でも聞けるということから、オンデマンド化を実現してほしい旨のアンケートを数多くいただいております。教育事業委員会としては2020年度には集合研修をオンライン研修に切り替え、更なるサービス向上のために2022年度にオンデマンド化への検討を開始させていただきました。

2022年9月頃より、事業推進部事業企画委員会を中心に、まずはオンデマンド化検討の進め方を委員会内にて合意を図り、オンデマンドのサービスはどのようなものがあるのか、オンデマンドサービス提供を行っている会社はどのようなところがあるのか市場の調査から始めました。その中でJAHISの特性上、専任で運用していくことが非常に難しいことから、運用支援を行ってくれるオンデマンドサービス提供会社として3社に絞りました。その3社に対し、委員会委員がヒアリングを実施し、概算見積もりの提示を依頼しております。また、11月には委員会委員にデモおよび説明会を実施しております。業者選定のポイントとして、費用面、運用面、機能面、セキュリティ面等の観点を考慮し、12月には最終的にイーコミュニケーションズ社「SAKU-SAKU Testing」を第一候補として選定しております。

第一候補としたものの、イーコミュニケーションズ社「SAKU-SAKU Testing」がJAHIS教育コースをオンデマンドとして実際に運用していけるのかを検討するために、2023年2月には事業推進部事業企画委員会、教育事業委員会の委員による内部評価を実施することとしました。「SAKU-SAKU Testing」に医療情報システム入門コースのサンプル動画を登録し、受講生と同じような環境下で操作性や音声、画質等の確認を行いました。画面構成や画面遷移等にて、いくつかの改善点はあるものの概ね運用可能であることが確認できたことで、イーコミュニケーションズ社「SAKU-SAKU Testing」を正式に採用することを事業推進部本委員会、事業企画委員会、教育事業委員会にて決定いたしました。

イーコミュニケーションズ社とは短期的な契約を締結する準備を進めながら、事業推進部事業企画委員会、教育事業委員会の委員以外の方（JAHIS会員の方で希望者を募集）で外部評価を行うことを計

画しました。イーコミュニケーションズ社とは2023年6月に契約締結に至り、7月より人数を絞った状態で試験運用可能な状況となり、外部評価できる準備が整いました。外部評価として、事業推進部に所属する委員の所属会社から社員の方々に希望者を募り、2023年9月から10月にかけて約1か月間実施しております。様々な職種や経験年数の違う35名の方々が、受講生になったつもりで試験的に視聴していただき、アンケートに回答することで評価していただきました。二段階認証によるログインの仕方、ページ切替の操作性や視聴時の機能の使い勝手、動画再生時の画質の状況や音声の質等について評価していただきましたが、概ね8割以上で問題ないことが確認できました。改善点としては、受講生への案内にて講義テキストのダウンロード場所を明確にすることや、アンケートの回答方法の検討などがあげられましたが、2023年11月には、事業部推進部本委員会及び教育事業委員会にて、医療情報システム入門コースを皮切りに2024年度の教育コースでは、オンデマンド配信にて実施していくことで合意いたしました。

教育コースオンデマンド配信の運用の仕方については、講師の方々の負担を極力少なくするために、2023年度にて実施したテキスト作成、録画データ作成のやり方と全く同じやり方で作成いただくこととし、講師の方々が作成いただいた録画データをオンデマンド配信用として活用することとしました。またオンデマンド配信の期間は約1か月間とし、開催時期はオンライン配信の2023年度教育コース開催時期に合わせております。配信の仕方をオンデマンド化するだけで、運用の仕方は2023年度のオンライン配信時とほとんど同じとさせていただいております。講師の方々には、2023年12月に行った2023年度の医療情報システム入門コース意見交換会にて、2024年度の教育コースはオンデマンド配信で実施することを申し伝え、運用の仕方を簡単に説明させていただきました。

2024年度教育コースのパンフレットやJAHISホームページの教育コースの案内等にては、オンデマンド開催であることを記載し、2024年4月には教育コースの募集を開始しております。

2024年度教育コースは以下のように開催いたします。

■JAHIS教育コース（オンデマンド開催）のご案内

第一回医療情報システム入門コース

開催日 7/22（月）～8/23（金） 募集人員：200名

第二回医療情報システム入門コース

開催日 11/11（月）～12/13（金） 募集人員：100名

第一回、第二回医療情報システム入門コース（オンデマンド開催）のカリキュラム

- | | |
|---------------------------------|------------------|
| ①医療をめぐる動向ガイダンス | ⑦電子カルテシステム |
| ②医療機関における医療情報システム | （オーダエントリシステムも含む） |
| ③医療情報システムの標準化について | ⑧部門システム |
| ④医療情報システムの患者安全に関するリスク
マネジメント | ⑨物流システム |
| ⑤プライバシーとセキュリティ | ⑩検査システム |
| ⑥医事会計システム | ⑪地域医療システム |
| | ⑫医用画像システム |

介護請求システム入門コース

開催日 9／9（月）～10／11（金） 募集人員：60名

介護請求システム入門コース（オンデマンド開催）のカリキュラム

- | | |
|----------------|--------------------------|
| ①介護保険制度の概要 | ⑤インタフェース仕様の概要 |
| ②介護関連制度の今後の方向性 | ⑥事例演習 |
| ③介護報酬の概要 | ⑦制度改正、報酬改定時等の国からの提供情報の内容 |
| ④介護報酬請求事務の概要 | |

最後に

多数の方々のご協力、ご支援をいただきオンデマンド化に向けた検討を進めさせていただき、2024年度も無事、教育コースを開催する運びとなりました。皆様の多大なご協力に感謝いたします。ありがとうございました。教育コースのオンデマンド配信については、受講生向けのアンケート結果等によって評価されるかと思いますが、まだ1年目ですので課題はまだまだあるかと思いますが、更なる改善をしていき、よりよい教育コースにしていきたいと思っています。

JAHIS会員の方のサービス向上のために、教育事業委員会は活動しております。教育という立場で、少しでも会員の方の役に立つ情報を提供できるように努力して参りますので今後ともご協力の程、よろしく願いいたします。

表彰受賞者の紹介



2023年度にJAHISの委員会あるいはプロジェクト等の活動において、以下の方々が受賞されました。

奨励賞 戦略企画部 調査委員会

売上高調査システム刷新対応への貢献

調査委員会 委員
(日本電気㈱)

うえしん まい
上新 真衣



受賞理由：

調査委員会がJAHIS創立以来より毎年実施している、当業界の市場規模を示す売上高調査のシステム刷新開発を2023年度に実施した。上新委員は2023年2月より調査委員会に参画し、同年4月より売上高システム刷新対応のタスクフォースメンバーとして、要件定義から受入試験まで一連の工程に参画した。

システム要件定義では、新規参画者ながら利用者目線で操作性等の意見提言を行い、要件定義の策定に貢献した。受入試験時は、年度末で自社業務が繁忙の中、各委員が仮想会社として模擬的に登録した売上高データと新システムから出力される各種調査結果データの突合検証を担当し、システム結果が正しく出力されることを確認し、委員会で報告を行った。また、操作性に関する受入試験においても不具合、改善案を積極的に提示し、年度内のシステム更改完了に貢献した。

上新真衣さんのコメント：

戦略企画部 調査委員会のNEC上新です。

この度は、2024年定時社員総会におきまして表彰をいただき、誠にありがとうございます。対象の

活動にあたりご指導いただいた調査委員会の皆様、ならびに、賞選考に関わった皆様に厚く御礼申し上げます。

調査委員会では、当業界動向の把握に大きく貢献している「売上高調査」及び、「システム導入調査」を中心とした企画推進と活動を行っております。

2023年度は、売上高調査の回答結果の質の向上と、会員の皆様の業務効率化を目的に、売上高調査システム刷新開発を行いました。

具体的には、売上高調査システム刷新タスクフォースにて、要件定義から受入試験までの一連の工程に参画させていただき、特に受け入れ試験でのテストデータによる入力結果と出力結果の突合及び、妥当性の検証を担いました。

JAHIS委員会活動への参画も2023年2月からの新規参画者であったこともあり、本タスクフォースでの活動を通して、日々業務で活用している業界データが調査委員会での創意工夫のもとに広く収集され、精度高くまとめられていることを改めて学ばせていただきました。

今年度より調査委員会2年目となりますが、今後も業界で必要とされるデータの発信に寄与できるような活動を続けてまいります。引き続きご指導・ご支援くださいますようお願い申し上げます。

奨励賞 医療システム部会	検査システム委員会 臨床検査システム専門委員会 委員 (株)エイアンドティー ふかがわ かずなり 深川 一成	
IHE-PaLM国際会議への積極的なキャッチアップ		

受賞理由：

臨床検査システム専門委員会の年度計画活動の一環である、「海外活動強化とJAHIS活動との連携（IHE-PaLM 国際会議の参加）」において委員登録から間もない中、IHE-PaLM国際会議の参加メンバーへ新たに加わり、当専門委員会内へ情報共有を行った。

深川一成さんのコメント：

臨床検査システム専門委員会に参加しておりますエイアンドティーの深川です。この度は定時社員総会におきまして表彰していただき、誠にありがとうございます。JAHIS参加初年度ではありましたが、IHE PaLM定期WEB会議参加及び、ポルトガルで開催された国際会議へ参加させていただきました。今回光栄なことに奨励賞を頂きましたが、JAHISのIHE PaLM会議への継続参加の礎があってこそその受賞と思っております。標準化の国際的な動向を把握するだけでなく、日本側から国際標準へアプローチしていけるかを考えつつ、今後も活動を継続していきたいと思っております。

奨励賞 事業推進部	事業企画委員会 副委員長 (富士フイルム株) さいとう ひで お 齋藤 英夫	
オンデマンドセミナー用ツールの評価および導入推進		

受賞理由：

2023年6月より事業企画委員会に参画し、長年にわたり会員から要望があったオンデマンド形式でのセミナー開催に向けたツールの検討を前任者より引継ぎ、ツールの評価、運用組立、実行部隊への引継ぎを終了させた。

ツールの評価においては、実際の運用を想定した運用を組み立てた。また評価者として、委員会内部のメンバーに加え、会員会社の社員を募ることにより、40名を超える人員を集め、多角的な評価データの収集を実現した。収集データの分析とツール特性を総合的に判断して採用を決定した。

採用に向けては運用のための資料を作成する傍ら、ツール提供会社との折衝も担当し、2024年度の教育コース（医療情報システム入門、介護請求システム入門）での採用に繋げた。

功績賞 医療システム部会	部門システム委員会 物流システム専門委員会 専門委員長 (富士通Japan株) おかもと しげとし 岡本 重敏	
HIS向け医療材料マスタの提供ガイド Ver.1.2の制定		

受賞理由：

JAHIS技術文書「HIS向け医療材料マスタの提供ガイド」の改定にあたり、作成に携わる会員各社との意見調整や、制定にあたりポイントとなるGS1 Japan（一般財団法人流通システム開発センター）との連携や調整等において、中心的な役割を担って活動を牽引し、2024年3月「HIS向け医療材料マスタの提供ガイドVer.1.2」を制定した。

岡本重敏さんのコメント：

医療システム部会 物流システム専門委員会の富士通Japan株式会社の岡本です。

この度は2024年度社員総会において功績賞で表彰いただき誠にありがとうございます。

今回は物流システム専門委員会の活動で「HIS向け医療材料マスタの提供ガイド」の改定を行いました。

今回の改定では、最新の標準内容など現状に則した状況に合わせた修正を行い、医療機関内における標準コード（GS1バーコードなど）の利活用を更に促進し、医療安全や業務改善などへの寄与を期待するものとなります。

今後も引き続き、保健医療福祉情報システム工業会を通じて、日本の医療に貢献できるよう皆様のご指導とご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

功績賞 医療システム部会 JAHIS「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイドVer.4.1（MDS/SDS）の制定等	セキュリティ委員会 JAHIS-JIRA合同開示説明書 WGリーダー (株)グッドマン しものかねき 下野 兼揮 
--	---

受賞理由：

JAHIS-JIRA合同開示説明書WGリーダーとして改定作業をリードし、JAHIS標準「JAHIS『製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書』ガイドVer.4.1（MDS/SDS）」の制定作業を完遂し出版した。

また、WGリーダーとしてチェックリスト改定、安全管理ガイドライン第6.0版対応マッピングシート作成などの作業をとりまとめ、適切なタイミングで公開を実施した。

医療法改正に基づくチェックリストにMDS/SDSが掲載されたことにより、JAHIS会員や会員外から関連質問が大量に来るようになったが、戦略企画部と協力して適切に対処を実施した。

下野兼揮さんのコメント：

セキュリティ委員会JAHIS-JIRA合同開示説明書WGのリーダーを2024年3月まで務めさせていただいた下野です。この度は第14期定時社員総会におきまして表彰していただき、ありがとうございます。

2022年9月に「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイドがHELICS指針として採択され、2023年には、厚生労働省から発行された「医療機関におけるサイバーセキュリティ対策チェックリスト」の中で、「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書（MDS/SDS）」の提出がチェック項目として掲載されたことによりMDS/SDSの普及が一気に進みました。WG発足時からのメンバーとして、ようやく普及したことに喜びを感じるとともに、その重責を感じています。

現在は最新の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第6.0版」に対応した「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイドVer.5.0を発行するための最終段階の作業を行っています。今後も医療情報システム/サービスのセキュリティ向上の一助となるべく、MDS/SDSの普及推進に努めていきたいと思っています。

功績賞 医療システム部会	セキュリティ委員会 セキュアトークンWGリーダー (株)リコー やちだますよし 谷内田 益義 
セキュアトークン関連のJAHIS技術文書およびJAHIS標準の改定等	

受賞理由：

セキュアトークンWGリーダーとして改定作業をリードし、JAHIS技術文書「JAHISセキュアトークン実装ガイド・機器認証編Ver.1.1」、「JAHISセキュアトークン実装ガイド・ノード認証編 Ver.1.2」の制定作業を完遂し出版した。また、JAHIS標準「JAHIS HPKI対応ICカードガイドラインVer.3.1a」の制定作業を進め、原案審査、パブリックコメント対応は終了し、2023年3月の医療システム部会で最終原案が承認された。2024年度に制定予定である。

また、WGリーダーとして3つのJAHIS標準類の改定にあたり、適切なWG運営を行い、円滑に改定作業を実施した。

JAHIS技術文書「JAHISセキュアトークン実装ガイド・機器認証編Ver.1.1」の付属文書として実装例を作成した。

谷内田益義さんのコメント：

この度は第14期定時社員総会において功績賞にて表彰いただきまして、誠にありがとうございます。今回の表彰は、セキュリティ委員会・セキュアトークンWGの活動として行った2つのセキュアトークン実装ガイド及びHPKI対応ICカードガイドラインの改定版の発行によるものです。これら3件のJAHIS標準類の改定は、厚労省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」が第6.0版へ改定されたこと及び技術の進展に合わせて旧版の内容を見直したものです。情報セキュリティに関する意識は年々高まってきております。今回改定した標準類が医療情報システムの安全性向上、特に認証基盤の普及・推進に寄与できれば幸いです。

これらの標準類の改定作業におきましては、WGメンバーの皆様に多大なご協力をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

功績賞 医療システム部会	相互運用性委員会 注射処置標準化WGリーダー (日本電気株) にしおか たろう 西岡 太郎 
JAHIS注射データ交換規約Ver.2.2Cの制定	

受賞理由：

注射処置標準化WGリーダーとして改定作業をリードし、2024年1月にJAHIS標準「JAHIS注射データ交換規約Ver.2.2C」を制定した。

功績賞 医療システム部会	相互運用性委員会 次世代データ交換技術WG リーダー (株)ファインデックス) みやかわ りき 宮川 力 
次世代データ交換技術WGの立ち上げおよび 学会講演	

受賞理由：

新設された次世代データ交換技術WGリーダーとして、第43回医療情報学連合大会のチュートリアルA-6（第87回HL7セミナー）において、本WGの活動内容をまとめて講演を行い、この新しい技術標準に対するJAHISの取り組みを学会参加者にアピールすることができた。

本WGは次世代のデータ交換技術であり、医療DXでも採用されているHL7 FHIRなどの新しい技術標準について、卓越した知識とスキルを発揮して情報共有と意見交換をリードした。

宮川力さんのコメント：

この度は、JAHIS次世代データ交換技術WGの活動に対し、功績賞という栄誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。WGメンバーと共に活動してきた成果が認められ、大変嬉しく、誇りに思います。

次世代データ交換技術WGは、医療DXにて積極的に採用されているHL7 FHIR（以下、FHIR）を中心に情報交換・知識共有・勉強会を通して会員企業のスキルアップを目的として活動しています。FHIRは、技術者にとって明確で理解しやすい仕様が用いられており、データ交換に用いるにはとても優れた技術です。また、利用のための環境も整備されています。

しかしながら、この技術を身に付けようとしても、体系的に勉強するための情報は少なく、技術習得のための環境整備は十分ではありませんでした。どこから調べたらよいか分からないなど、多くのWGメンバーが情報収集に苦労していた状況です。

そこで本WGでは、すでに学んできたメンバーに、どのように技術を身に付けることができたのかを情報提供してもらったり、WGメンバーにわからない点や困っている点をヒアリングするなどしてきました。また初学者に向けてFHIRの基礎を解説する勉強会を定期的に開催しました。これらの活動を通して、参加者にとって学ぶためのよいきっかけを提供できたと自負しています。

今後は、WGメンバーが初学者を脱し、具体的に製品やサービスにこれらの技術を安心して載せられるまで成長してもらうことを目標としています。また、「HL7 FHIR」の正しい解釈を身に付けてもらい、教える立場になってもらうことも目指しています。

データ交換は、多くの企業が参加することで、医療DX全体の利便性がより一層高まります。未経験の企業だけでなく、すでに技術を習得している企業も、ぜひWGにご参加ください。

引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

功績賞 医療システム部会	相互運用性委員会 データ互換性専門委員会 専門委員長 (富士通Japan(株)) くぼた なるしげ 窪田 成重 
診療情報提供書FHIR記述仕様の マルチベンダでの国内初の実装検証	

受賞理由：

データ互換性専門委員会専門委員長として、今年度のデータ互換性実証実験を2/19～2/22にかけて開催した。厚生労働省標準であり医療DXでも採用されている診療情報提供書HL7 FHIR記述仕様に沿ってシナリオを作成し、診療情報提供書の実装検証を行った。この実装検証は、HL7 FHIRによるマルチベンダでの診療情報提供書の検証としては国内初で、電子カルテベンダ3社が参加し、全社参加シナリオすべて合格となった。実験を通してHL7 FHIRや記述仕様に関して様々な知見が得られ、今後の医療DXの実装に向けて有益な実験となった。

実証実験の成果として、報告書および実験で使用したHL7関係のツールを一般向けに修正した「HL7メッセージ作成支援ツールVer.1.11」を作成した。

功績賞 標準化推進部会	国際標準化委員会 委員 (キヤノンメディカルシステムズ(株)) しおかわ やすなり 塩川 康成 
JAHIS国際活動活性化への貢献 (10回の国際会議への対面参加と情報共有)	

受賞理由：

コロナ禍明けまもなくで海外渡航が困難な年度初頭から、下記10の国際会議に対面参加し、会議の内容等を報告書にまとめ情報共有を行うとともに、JAHIS国際活動の活性化に大いに貢献した。

- ①HIMSS23シカゴ大会（2023年4月）、②HIMSS23 EU リスボン大会（6月）、③RSNA2023（11月）、④IHE Radiology Planning & Technical Joint Committee（11月）、⑤IHE International Board（11月）、⑥DICOM DSC（11月）、⑦IHE Radiology Technical Committee（2024年2月）、⑧HIMSS24オランダ大会（3月）、⑨IHE Global Deployment Committee（3月）、⑩IHE International Board（3月）上記対面参加の他にも、DICOM DSC（2023年8月、2024年3月）等に、オンラインで参加した。

※なお、上記国際会議の中での以下のような活動によって、日本およびJAHISのプレゼンス向上に貢献した。

- ①11月のIHE Radiology Technical Committeeでは、日本IHE協会と協力して、日本コネクタソンにおけるCAM（Contrast Administration Management）プロファイルの試行検証の報告を行った。このことによって造影剤情報の重要性への議論に発展し、来年度のEUコネクタソンで募集をかけたい、との声があがった。
- ②2月のIHE Radiology Technical CommitteeにおいてIDR（Imaging Diagnostic Report）プロファイル TI（Trial Implementation）原案文書レビューの際に、FHIRでの実装要件の中で日本側の解釈と相容れない課題箇所について指摘を行い、審議を喚起させることができた。

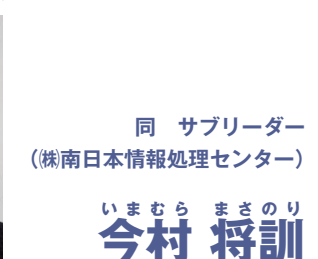
塩川康成さんのコメント：

国際標準化委員会にて、IHE、DICOM、RSNA、HIMSSエキスパートを拝命しております塩川です。米国ではTEFCA*、欧州ではEHDS**をはじめ、国際の間ではIPS***も含めクロスボーダーでの医療情報共有網の整備が進行しております。その相互運用性を担保するキーワードとして、HL7、DICOM、そしてIHEが挙げられます。特に医療ワークフローにおける国際標準規格の使い方を規定し、ガイドラインとして整備しているIHEは、1998年にHIMSSとRSNAの出資により誕生しました。20年を超える国際活動の結果、実際の医療現場への実装を支援できるノウハウを持つ国際組織として大きなプレゼンスを発揮しています。日本においては日本IHE協会様がIHEの身内としてのDeployment Committeeの位置づけで活動されていますが、Membershipではないため、一部ドメインでのIHE要件定義に対する投票権を持ってない、などの制約がございました。そこで筆者提案の上、JAHISは2021年にIHEのMembershipとして登録をいたしました。IHEに対する日本としての意思表示やプレゼンスの発揮をより強化すべく、日本IHE協会様ともさらに協調して、IHEへの関与を続けていきたいと思っております。筆者は2023年に国際標準化委員会の委員に着任する以前より、エキスパートとして国際イベントや会議への出席の場をJAHISより与えていただき、たいへん感謝をしております。その場で得た情報をJAHIS内にて共有するのは当然のことと考えておりましたが、この度、思いがけず功績賞まで賜り、重ねての感謝の念を申し上げますと共に、JAHISを通じた日本の医療DXの推進に益々の貢献ができればと存じます。有難うございました。

* Trusted Exchange Framework and Common Agreement：米国における各地の地域医療情報連携網を同一の思想で相互共有するためのガバナンスを米ONCが規定

** European Health Data Space：欧州における医療情報の1次、2次利用を推進すべく、各国の医療情報共有網より、欧州統一の要件に従い相互情報共有を行うためのEU規定

*** International Patient Summary：国際間での医療情報を診療の観点から、最低限必要な情報を中心に共通情報項目要件を定義した。ISO 27269国際標準。

功績賞(連名) 医事コンピュータ部会	介護システム委員会 医療訪問看護報酬改定対応 WGリーダー (株)日立システムズ たかはし かずひこ 高橋 和彦	
トリプル報酬改定と並行しての訪問看護レセプトの オンライン請求対応、オンライン資格確認対応の遂行	同 サブリーダー (株)南日本情報処理センター いまむら まさのり 今村 将訓	
同 サブリーダー (株)カナミックネットワーク いしかわ りゅうた 石川 竜太		

受賞理由：

かつてない介護システム環境の激変のさなか、訪問看護の診療報酬改定対応、オンライン請求、及びオンライン資格確認対応において、関係機関との連携・調整・意見具申、要望や疑義照会とりまとめ、対外活動などにおいて、中心的な役割を担い、WG運営と会員様サービス向上に大きく寄与した。

1. 厚生労働省の「訪問看護療養費のレセプト電子化及びオンライン請求の促進事業に関する調査事

業検討会」の対外活動

⇒対外活動で得られた情報を適時適切に会員へ共有することで対応の円滑化が図られた。

2. 事業者団体（公益財団法人 日本訪問看護財団様）との連絡調整ルートの新規確立

⇒事業者側の状況把握が行いやすくなり、現場の実態に即した対応や会員への情報提供ができるようになった。

3. 会員からの疑義照会を収集し、複数の疑義照会ルートを駆使して回答をとりまとめ、ファイル共有サービスで会員にレスポンス良く情報発信し、新運用となるオンライン請求、オンライン資格確認の準備のスムーズな推進に貢献した。

令和6年度報酬改定：厚生労働省 18件中、5件回答

オンライン請求：クニエ（事務局窓口）38件中、37件回答

オンライン資格確認：支払基金 263件中、227件回答

4. 多数の情報入手ルートからの情報を適時、適切に整理し、情報提供資料にまとめて委員会、医療訪問看護報酬改定対応WGの場で説明を実施したり、ファイル共有サービスで会員にレスポンス良く情報発信することで、会員のスムーズな対応に貢献した⇒58回（3月末まで 説明会等を含む）

功績賞(連名) 医療システム部会	セキュリティ委員会 HPKI電子署名規格作成WG リーダー (株)NTTデータ ありま ぐにはる 有馬 一閣 	
JAHISヘルスケアPKIを利用した医療文書に対する電子署名規格の改定等	同 メンバー (三菱電機インフォメーションシステムズ(株)) さかまき かずのり 酒巻 一紀 	
	同 メンバー (三菱電機(株)) みやざき かずや 宮崎 一哉 	

受賞理由：

JAHISヘルスケアPKIを利用した医療文書に対する電子署名規格Ver.3.0の制定において主導的な役割を果たし、新規性の高いJAdESフォーマットの組み込みを実施した。また、ISO/TC215におけるフィードバックをJAHIS標準原案に反映し、国際標準との整合性を確保する作業を実施し、2023年3月制定した。

上記の成果をISO/TC215WG4にて改定中のISO17090-4（HPKIを用いた電子署名）に対するINPUTとして作成し、JAHIS標準とISO17090-4の整合性確保について貢献した。（ISO17090-4は現在CD投票の直前まで来ており、JAHIS標準との整合性を確保した状態となっている）

電子カルテ情報共有サービスの検討において電子署名の必要性や形式について検討を実施し、JAHISと厚生労働省、支払基金等との検討会議にて意見具申を行い、電子署名フォーマット策定に対する貢献を行った。

代表の有馬一閣さんのコメント：

セキュリティ委員会HPKI電子署名規格作成WGでリーダーを務めております有馬です。この度は、第14期定時社員総会で表彰頂き、誠にありがとうございます。WGメンバーの多大なご協力があったからこそ、今回の表彰を頂けたと思いますので、WGメンバー並びに関係者に深く感謝申し上げます。

JAHISヘルスケアPKIを利用した医療文書に対する電子署名規格は、HPKIを用いた電子署名に対して、継続的に検証可能とするための要件を定めたJAHIS標準です。今回の改定は、Webアプリケーション等で使われるJSON形式のデータに対して行う電子署名に対して、署名検証を継続的に進めるためのJAdESフォーマットの組込みを行うと共に、ISO14533シリーズ（電子署名の長期署名プロファイル）等の国際標準における動向を基に改定を行っています。

今後は、ISO17090-4（HPKIを用いた電子署名）との整合性の確保を行っていくと共に、本規格を含めた、JAHIS標準、技術文書の策定及び普及を図っていくことで、ヘルスケア分野のセキュリティ確保に対して貢献できれば幸いに存じます。

引き続き皆様からのご支援、ご協力を頂くと共に、「JAHISヘルスケアPKIを利用した医療文書に対する電子署名規格Ver.3.0」の活用についても、よろしくお願い申し上げます。

功績賞(グループ) 医事コンピュータ部会		電子レセプト委員会 記載要領 電子化WGサブリーダー (株)NTTデータ しみず ちから 清水 力	
調査研究事業「医療DXの基礎となるシステム施策とその発展に向けた考察」の完遂			
同 委員 (日本電気株) にしぐち たえ こ 西口 妙子	同 委員 (キヤノンメディカルシステムズ株) に かいどう まこと 二階堂 誠	同 委員 (ウィーメックス株) みやわき しん じ 宮脇 伸次	同 委員 (株)NTTデータ ふるかわ なりみち 古川 成道
同 委員 (富士通Japan株) いしかわ こう じ 石川 幸司	同 委員 (日本電気株) しば た まなぶ 柴田 学		

受賞理由：

一般財団法人医療保険業務研究協会・令和5年度受託事業（調査研究事業）「医療DXの基礎となるシステム施策とその発展に向けた考察」において、各社での日常業務とともに、医事コン・各委員会活動として厚生労働省・審査支払機関等への各種政策/施策の検討協力を行う中で培われた専門性を発揮し、各メンバーが本調査研究に主体的に取り組んだ。各自分担した調査研究内容を持ち寄り、延べ18回に及ぶ全体ディスカッション、論文原案作成、論文レビューにて、その成果として約70頁に及ぶ論文をまとめた。

本調査研究は、医療機関現場の視点／ベンダ視点での現状分析・課題整理・改善提案で構成されており、各メンバーのその高い専門性を持って、時節に応じた高いテーマ性に対して、深い見識を示し価値のある研究成果（論文）となっている。

本調査研究成果（論文）は、医療保険業務研究協会より、厚生労働省はじめ関係機関及び一般に公開

されることになっており、JAHISのプレゼンス向上への貢献はもちろんのこと、JAHIS会員が効率的に診療報酬業務の対応ができる環境作りにも十分に貢献するものとなっている。

代表の清水力さんのコメント：

記載要領電子化WGの清水です。

この度は功績賞を授与いただき、ありがとうございました。

一緒に受賞したメンバーのみなさん、おめでとうございます。2023年度の1年間を通して、共に活動し論文を書き上げたメンバーと喜びを分かち合いたいと思います。

論文「医療DXの基礎となるシステム施策とその発展に向けた考察」ですが、目は通して頂けていますでしょうか。論文は、最初に医療DXについて、我々の土俵である診療報酬請求システムに論点を絞りました。その上で、「診療報酬改定DX」を包含した「診療報酬DX」という定義を定め、診療報酬請求システムの現状を振り返ると共に未来像を描いています。もしまだ目を通していない方がいらっしゃれば、一度、目を通して頂けると嬉しいです。

2023年度は年度末に診療報酬改定対応が控えていたため、最後の文章取り纏めはドタバタしましたが、今回の受賞メンバーだけでなく、(株)社会保険研究所の高橋さん、井口さんそして、JAHIS事務局の前田部長にご助力を賜り、無事に論文を書き上げることができました。ありがとうございます。

記載要領電子化WGの活動は新たなメンバーを迎え、2024年度も継続します。

診療報酬改定の施行日が6月になり、論文作成に向けた各メンバーへの影響は少なからず生じると覚悟していますが、2023年度の論文を超えた評価を頂けるように、新たな論文の編纂に取り組んでいきたいと思っています。

功績賞(グループ)		医事コンピュータ部会		調剤システム委員会 調剤標準化分科会 リーダー (三菱電機ITソリューションズ(株))		
電子処方箋運用における薬局レセコンと電子薬歴システムの連携仕様書Ver.1.0 の制定				もり や かずあき 守屋 和昭		
同 サブリーダー (ウィーメックスヘルスケアシステムズ(株)) なか こ とよあき 中湖 豊明		同 サブリーダー (東日本メディコム(株)) の もと ただし 野本 禎		同 委員 (株)EMシステムズ) さ とう かなえ 佐藤 夏苗		同 委員 (ウィーメックス(株)) い で しん じ 井出 真司
同 委員 (ウィーメックス(株)) しお の よしなお 塩野 芳直		同 委員 (ウィーメックス(株)) たけなか ゆうぞう 竹中 裕三		同 委員 (株)カケハシ) かね だ めぐみ 金田 恵		同 委員 (株)カケハシ) しば た まさひろ 柴田 征宏
同 委員 (株)カケハシ) なか お ゆたか 中尾 豊		同 委員 (株)くすりの窓口) しもひら こういち 下平 宏一		同 委員 (株)くすりの窓口) やまぐち ゆ う 山口 遊生		同 委員 (株)グッドサイクルシステム) ほし の つねゆき 星野 恒行
同 委員 (株)ズー) こ いけ ひろ こ 小池 裕子		同 委員 (株)ズー) せき あきひろ 関 晃広		同 委員 (株)ズー) もり まさのり 森 昌典		同 委員 (株)ソラミチシステム) いずたに おさむ 泉谷 理
同 委員 (株)ソラミチシステム) おか だ たつ や 岡田 辰也		同 委員 (株)ソラミチシステム) こんない まこと 近内 誠		同 委員 (株)ソラミチシステム) たか だ いっこう 高田 一功		同 委員 (株)DB Studio) あ べ ほろ き 安部 紘希
同 委員 (株)DB Studio) いのうえ つばさ 井上 翼		同 委員 (株)DB Studio) やす だ ともあき 安田 智暁		同 委員 (株)ネグジット総研) かつ た のぶ や 勝田 暢也		同 委員 (株)ネグジット総研) たかはし としゆき 高橋 載征
同 委員 (東日本メディコム(株)) たけ い しんさい 武井 心彩		同 委員 (株)ファルモ) ひろ い か えい 広井 嘉栄		同 委員 (ウィーメックスヘルスケアシステムズ(株)) し みず かつひこ 清水 克彦		同 委員 (ウィーメックスヘルスケアシステムズ(株)) はま だ さとる 濱田 悟
同 委員 (ウィーメックスヘルスケアシステムズ(株)) まつおか とも よ 松岡 智世		同 委員 (ホワイトヘルスケア(株)) ほん だ たく や 本田 卓也		同 委員 (三菱電機ITソリューションズ(株)) あゆかわ みのる 鮎川 稔		同 委員 (三菱電機ITソリューションズ(株)) や ざわ ひろし 矢澤 浩
同 委員 (三菱電機ITソリューションズ(株)) みやじま つよし 宮島 毅		同 委員 (株)メディカルフロント) や ぎ 八木 さとし		同 委員 (株)ユニケソフトウェアリサーチ) おお く ぼ きみひろ 大久保 公寛		同 委員 (株)ユニケソフトウェアリサーチ) か とう あきら 加藤 明
同 委員 (株)ユニケソフトウェアリサーチ) たかはし ゆういち 高橋 雄一		同 委員 (株)ユニケソフトウェアリサーチ) た なか ゆたか 田中 裕				

受賞理由：

2023年1月から電子処方箋の本格運用が開始された中、薬局における電子処方箋運用において、薬局内システム間（薬局レセコンと電子薬歴システム）におけるインターフェース仕様は定義されておらず、各ベンダにて独自インターフェース仕様が構築されることにより、薬局内のシステム連携が煩雑になり薬局業務に支障が出る可能性があった。これを解決するため、電子処方箋運用における薬局内システム間の共通的な連携仕様の構築することを目的とし、調剤システム委員会 調剤標準化分科会が連携方法やデータセット項目の検討を行い、2023年9月に技術文書として公表した。

技術文書策定にあたっては、厚生労働省や日本薬剤師会など他団体との意見交換会を実施する等、関係者との調整に苦心しながら作業を進めた。

本技術文書は、薬局における電子処方箋普及に向け、JAHISのプレゼンス向上への貢献はもちろんのこと、会員ベンダが効率的にシステム連携できる環境作りに貢献するものとなっていく事を期待されている。

功績賞(グループ) 医療システム部会		電子カルテ委員会 ePath実装ガイド WGリーダー (株)ソフトウェア・サービス ねごろ りょうすけ 根来 亮介	
同 サブリーダー (富士通Japan(株)) おおた さとし 太田 聡司	同 委員 (株)SBS情報システム) たかやま ひであき 高山 秀昭	同 委員 (亀田医療情報(株)) つかだ さとし 塚田 智	同 委員 (株)シーエスアイ) なかむら ともや 中村 友哉
同 委員 (株)シーエスアイ) ながた ゆうき 永田 有希	同 委員 (株)ソフトウェア・サービス) にいばやし たくま 新林 拓磨	同 委員 (株)ソフトウェア・サービス) まつもと たかし 松本 崇志	同 委員 (日本電気(株)) おかだ やすし 岡田 靖士
同 委員 (日本電気(株)) こまい としひろ 駒井 理弘	同 委員 (日本電気(株)) すぎはら しほ 杉原 志穂	同 委員 (日本電気(株)) たかせ ひろゆき 高瀬 博之	同 委員 (日本アイ・ビー・エム(株)) きむら まさひこ 木村 雅彦
同 委員 (富士通Japan(株)) いのうえ たかひろ 井上 貴宏	同 委員 (富士通Japan(株)) どうけ なおゆき 道家 直之	同 委員 (富士フイルム(株)) こしじま こうすけ 越島 康介	同 委員 (株)両備システムズ) なかむら みちのり 中村 道範

受賞理由：

JAHIS ePath実装ガイドは電子カルテシステムベンダーが「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」(Ver.1.0.1)に準拠したパスシステムの開発を進める上で、仕様書を齟齬なく理解するための補助的な役割を担うことを目指した。

これによりePathの普及が進み電子カルテシステムベンダーの間での相互運用性のある電子クリニカルパスシステムの構築、標準化されたパスのデータの蓄積と解析によるクリニカルパスの最適化、更には医療安全の向上と医療の効率化に寄与することを目指して策定を開始した。

その策定にあたり、まずはePathプロジェクト参加メンバーと不参加メンバーの知識レベルの差を埋めるため、知識の底上げと共有から始め、次に各社分担しドキュメントを1から作成し、それをメンバー全員でレビューを繰り返し行うことで精度の向上と記載レベルの均一化を図っていった。

日本医療情報学会およびクリニカルパス学会と緊密に連携を取り、随時確認を取りながら進めることで内容の精度の向上と充実を図り、2023年10月に無事制定した。

代表の根来亮介さんのコメント：

ePath実装ガイド策定WGでリーダーを務めさせていただいているソフトウェア・サービスの根来です。この度は、功績賞グループ表彰をいただきまして誠にありがとうございます。WGメンバーの皆様におかれましては、お忙しいなかでもWG活動に多くのご協力を賜りましたことあらためて感謝、お礼申し上げます。皆様と共に賞をいただけたことを大変うれしく思っています。

ePath実装ガイドは、JAMI標準の「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」を読み進める際に補助的に活用することで仕様書への理解を深め、実装における疑問の解消に役立つことを目的にして構成、作成いたしました。またクリニカルパスやePathに関しても簡単ではありますが、概要を記載していますので、最初から順を追っていただくことで一体的な理解につながるのではないかと思います。

ePathとそれに対応したクリニカルパスシステムがより一層普及することで、データの標準化および活用が進んでいくことが期待されています。ePathへの対応やパスシステム開発などを行われる際には本ガイドもぜひ参考にさせていただけると幸いです。

WGとしましては、「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」の改版にともなう見直しなどを行っていく予定ですので引き続き皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

功績賞(グループ) 医療システム部会	検査システム委員会 内視鏡部門システム専門委員会 委員 (オリンパスメディカルシステムズ(株)) おさき たかし 尾崎 孝史 		
JAHIS内視鏡DICOM画像データ規約 Ver.3.0の制定			
同 専門委員長 (富士フイルム(株)) たつ た たけいち 龍田 岳一	同 委員 (オリンパスメディカルシステムズ(株)) おおもり しんいち 大森 真一	同 委員 (富士フイルム(株)) みうら ごろう 三浦 悟朗	同 委員 (日本光電工業(株)) えち ご よういち 越後 洋一

受賞理由：

JAHIS標準「JAHIS内視鏡DICOM画像データ規約Ver.2.0」を改定し「同Ver.3.0」を公開した(2023.8)。本JAHIS標準は、DICOM Standard（以下DICOM規格）2018e版を参照していた前版から23回分のDICOM規格の改定差分に対応し、Ver.3.0発行時最新であったDICOM規格 2023c版に対応したものである。内視鏡検査では、まだDICOMが広く普及しているとは言えないが、PACSでの画像管理が徐々に増えてきており、内視鏡検査のDICOMによる取扱いが注目されている。このため、本JAHIS標準を最新のDICOM規格に整合させる作業は重要であった。

本改定は、定期見直しにて「要改定」と判断したのが改定の端緒だが、「改定A」の作業承認時（2022.8）に設定した原案納期（2024.1）より大幅に前倒しし、2023.5に原案承認、2023.8に最終原案承認・発行できたが、359ページの大著にもかかわらず、短期かつ少人数（5人）で改定を完了させた。DICOM規格本体の改定のペースが速いため、作業期間が長引けば長引くほど改定工数が増加して完成が危ぶまれる可能性があるという危機感を持ち、効率よく作業を進めることに注力したことは、特筆すべきことである。

※同じメンバーにて、JAHIS標準「JAHIS内視鏡検査レポート構造化記述規約Ver.1.0」で引用される日本消化器内視鏡学会JEDプロジェクト（Japan Endoscopy Database）用語集の国際コード（LOINCコード）取得活動や、標準の普及推進活動として日本IHE協会のコネクタソンの内視鏡部門の審査活動への協力、日本医療情報学会 NeXEHRs研究会 HL7 FHIR日本実装検討WGで策定作業が進められたHL7 FHIR JP Core実装ガイドVer.1.1.2にて追加された内視鏡関係のプロファイル（JP Core Diagnostic Report Endoscopy, JP Core Imaging Study Endoscopy）の技術的検討に、内視鏡部門システムの業界側知見者として協力するなど、内視鏡部門システム分野の標準化に継続的に貢献している。

代表の尾崎孝史さんのコメント：

この度は第14期定時社員総会におきまして、2023年度の「功績賞（グループ表彰）」をいただき、誠にありがとうございました。今回「JAHIS内視鏡DICOM画像データ規約Ver.3.0」の制定にご協力頂きました内視鏡部門システム専門委員会のメンバーの皆様に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

DICOMは放射線分野を中心に世界的に広く普及している医用画像標準です。内視鏡分野においてもPACSでの画像管理が徐々に増えつつあり、内視鏡検査のDICOMによる取扱いが注目されています。今回制定した規約は、参照するDICOM規格を最新（制定時）の2023c版とし、内視鏡検査装置ならびにPACSに、上部・下部消化管内視鏡検査のDICOM画像保存の実装を実現しやすくするために取り纏めたものです。内視鏡分野においてこれからDICOMの実装をご検討されるベンダの皆様の一助になれば、本規約の制定に携わったメンバー一同、大変うれしく思います。

今後も、JAHISの委員会・WGの皆様、臨床の先生方のご指導ご支援を頂きながら、内視鏡分野における標準化の普及・拡大に貢献できるよう活動に取り組んでゆく所存です。引き続き皆様のご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



運営状況報告

運営会議状況報告

2023年度 第10回運営会議議事要約

＜日時＞：2024年1月23日（火）9:30～11:30

＜場所＞：ハイブリッド会議

1. 対外活動申請

（1）日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2024への講師派遣の件

戦略企画部 事業企画推進室 副室長 新垣淑仁氏の表題カンファレンスへの講師派遣が承認された。

（2）厚生労働科学研究「各国の電子処方箋の制度及び医療DXの実態の把握のための研究」

公開シンポジウムでの講演およびシンポジスト対応

医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村雅彦氏を本シンポジウムでの講演およびシンポジスト対応することについて承認された。

2. 標準化推進部会 部会長交代の件

西山喜重氏の辞任に伴い、湯澤史佳氏を後任とすることについて承認された。

また、役職連動による日本HL7協会理事就任についても、同理事会での承認をもって交代予定。

3. 国際標準化団体（HIMSS）への派遣者変更の件

国際標準化委員会において中野直樹氏の退任、および、田口剛氏から永瀬和哉氏への交代に伴う同団体への派遣者の変更について承認された。

4. 医療システム部会 副部会長交代の件

湯澤史佳氏の辞任に伴い、天海宏昭氏を後任とすることについて確認し、承認された。

5. 部門規則見直しの件

下記指針に基づき、関連する現行規則の変更案について確認し、承認された。

- ・一部規則において上位規則と下位規則に不整合がみられるため是正する
- ・部門間での揺らぎを極小化する
- ・会員ランクのポリシーは変えずに実際の運用に則した形とし、運用の煩雑さを解消し、機敏な対応が可能になるように見直す

2023年度 第11回運営会議議事要約

＜日時＞：2024年2月20日（火）15:00～17:39

＜場所＞：ハイブリッド会議

1. 電子投票結果

（1）2023年度第2回定例理事会議案審議の件

2月5日に実施された電子投票において、2023年度第2回定例理事会への議案・資料について承認されたことが報告された。

2. 対外活動申請

（1）HELICS協議会「透析情報標準規格HL7 FHIR記述仕様」審査委員会への委員派遣の件

標準化推進部会 副部会長、国内標準化委員会 副委員長 光城元博氏の委員派遣について、承認された。

（2）標準クリニカルパスを用いた医師の働き方改革シンポジウムでのパネリスト対応

医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長 岡田靖士氏を本シンポジウムにおいてパネリスト対応することについて承認された。

（3）日本福祉介護情報学会 シンポジウム演者派遣の件

保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本昭彦氏を本シンポジウムへの演者対応に派遣することについて承認された。

3. 2024年度 特別委員委嘱

以下の各部会からの特別委員委嘱願いについて承認された。

（1）戦略企画部会

長谷川英重氏（保健医療福祉情報基盤検討委員会）

西原栄太郎氏（保健医療福祉情報基盤検討委員会）

岩井俊介氏（GHS対応）

（2）標準化推進部会

佐々木文夫氏（国内標準化委員会）

喜多紘一氏（安全性・品質企画委員会）

橋詰明英氏（安全性・品質企画委員会）

長谷川英重氏（国際標準化委員会）

松元恒一郎氏（国際標準化委員会および安全性・品質企画委員会）

平井正明氏（国際標準化委員会および安全性・品質企画委員会）

（3）医療システム部会

藤咲喜丈氏（検査システム委員会）

香坂浩之氏（検査システム委員会）

鈴木一洋氏（検査システム委員会）

喜多紘一氏（セキュリティ委員会）

長谷川英重氏（セキュリティ委員会）

平田泰三氏（セキュリティ委員会）

(4) 保健福祉システム部会

西原栄太郎氏（健康支援システム委員会）

4. 2024年度外部学識経験者への国際標準化活動参加依頼の件

以下の外部学識経験者3名に国際標準化活動への参加を依頼することについて承認された。

- ・木村通男先生（川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療情報学科 特任教授）
- ・澤智博先生（帝京大学 医療情報システム研究センター 教授）
- ・岡田美保子先生（一般社団法人 医療データ活用基盤整備機構 理事長）

5. 定款改定に向けた検討

JAHIS活動のデジタル化を推進するため、定款内の「書面により」、「書面をもって」等の条文の変更案について、今後5月の定例理事会および6月の定時社員総会に向けて検討を進めることとした。

6. 2024年度国際標準化団体への派遣者リストの件

2025年度の「国際標準化団体への派遣者リスト」についての記載内容（変更点）について承認された。

2023年度 第12回運営会議議事要約

＜日時＞：2024年3月19日（火） 15:00～17:31

＜場所＞：ハイブリッド会議

1. 電子投票結果

(1) 日経ヘルスケア社 診療報酬改定の医療DXに関する取材の件

3月6日に実施された電子投票において、表題の取材対応について承認されたことが報告された。

2. 対外活動申請

(1) HELICS協議会標準化委員会へ委員派遣の件

国内標準化委員会 副委員長 光城元博氏を同協議会標準化委員会に委員派遣することについて説明がされ承認された。

(2) IHE PaLM国際会議への派遣メンバー登録追加の件

現在、IHE PaLMへの派遣者として登録されている医療システム部会 検査システム委員会 副委員長 近藤恵美氏、および同委員 高橋賢一氏の両名とも4月開催の同国際会議への参加が困難であるため同委員会 臨床検査システム専門委員会 委員 深川一成氏を代理派遣することが承認された。

(3) HELICS協議会「個別医薬品コード（YJコード）リスト」審査委員会への委員派遣の件

医事コンピュータ部会 調剤システム委員会 委員長 宮島毅氏を本審査委員会の審査委員として、また、同部会 マスタ委員会 副委員長 中嶋美和氏をオブザーバとして派遣することについて承認された。

(4) 厚生労働省「歯科情報の利活用推進事業（歯科診療情報による身元確認のためのデータベースに関する検証等）に係る検証事業等」への委員派遣の件

医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 副委員長 佐藤孝昭氏を本検証事業等に対して委員派遣することについて承認された。

- (5) 厚労科研「『薬剤師の対人業務の評価指標の開発のための研究』における薬局薬剤師業務の質評価（QI）を検討する研究班」への委員派遣の件
医事コンピュータ部会 調剤システム委員会 委員長 宮島毅氏を本研究班に対して委員派遣が承認された。
- (6) 日本医療情報学会・日本クリニカルパス学会合同委員会へのオブザーバ参加
医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長 岡田靖士氏、副委員長 太田聡司氏、副委員長 根来亮介氏、委員 道家直之氏をオブザーバ派遣することについて承認された。
- (7) 第72回輸血細胞治療学会総会サテライトセミナーでの講演
医療システム部会 電子カルテ委員会 患者安全ガイド専門委員会 委員 天満一宏氏を本セミナーに講演者として派遣することについて承認された。
- (8) 日本医業経営コンサルタント協会 2024年度「医療DX 研究会」への参加
医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原秀幸氏を本研究会に外部有識者として派遣することについて承認された。
- (9) 「口腔診査情報標準コード仕様メンテナンス委員会」への委員派遣
医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村雅彦氏を本委員会に委員派遣することについて承認された。
3. 2024年度事業計画・予算計画 暫定承認の件
2024年度事業計画・予算計画について説明がされ暫定承認した。5月20日開催予定の定例理事会での議案等については第13回運営会議（4月23日開催予定）において審議することとなった。
4. Action1、2 WGへの会社ランクC会員以下の参加の件
Action1、Action2の各WGが普及フェーズに入っていることから幅広い情報共有が必要となっており、Action1、Action2 WGへのC会員、D会員、E会員、F会員の参加資格を追加する必要があることについて、関連規則の改定と併せて説明がされ承認された。
5. 医事コンピュータ部会担当運営幹事交代について
竹中裕三氏の辞任に伴い、田村勝則氏を後任とすることについて承認された。
6. 国際標準化団体への派遣者リスト様式変更の件
同リストの様式および運用の一部変更について説明がされ承認した。
7. 総務会事務局部長契約延長について
2024年3月31日で任期満了となる総務会 事務局部長の寺崎貴宏氏について、雇用期間延長（2024年4月1日～2025年3月31日）について承認された。
8. HELICS協議会事務局員契約延長について
2024年3月31日で任期満了となるHELICS協議会事務局員の谷口浩一氏について、雇用期間延長（2024年4月1日～2025年3月31日）について承認された。
9. JAHIS規定5023号「取扱いに注意を要する情報」に関する改定
同規定の改定についての背景、これまでの検討経緯、および4月1日施行開始について説明がされ承認された。
10. 医事コンピュータ部会 歯科システム委員会副委員長委嘱承認の件
歯科システム委員会の体制変更に伴い、副委員長として渡辺浩章氏を互選したが、後任候補者の所

属会社がFランク会員であるため、JAHIS規程に基づき、審議のうえ、承認された。

11. 保健福祉システム部会 PHR検討タスクフォース サブリーダー選任の件

角敏幸氏の辞任に伴う後任者として岩倉竜太氏を互選したが、後任候補者の所属会社がDランク会員であるため、JAHIS規程に基づき、本運営会議によって審議のうえ、承認された。

12. 保健福祉システム部会 健康支援システム委員会 予算修正の件

保健福祉システム部会 健康支援システム委員会の市販調査資料購入費用が当初予算を上回るため、同部会内での他費目からの予算流用を行うことについて、説明がされ承認した。

13. 事業推進部会 日薬展示委員会の委員および副委員長の選任について

亀田裕文氏の辞任に伴い、後任者として山本祐樹氏を互選したが、後任候補者の所属会社がEランク会員であるため、JAHIS規程に基づき、本運営会議によって審議のうえ、承認された。

2024年度 第1回運営会議議事要約

＜日時＞：2024年4月23日（火）15:00～17:33

＜場所＞：ハイブリッド会議

1. 電子投票結果

(1) 対外活動申請 日本訪問看護財団機関紙「ほうもん看護」対談記事対応の件

4月5日実施の電子投票において、表題の対談への対応について承認されたことが報告された。

2. 対外活動申請

(1) HEASNET運用検討WGへの参加の件

戦略企画部 事業企画推進室 副室長 齋須亨氏を本検討WGへの構成メンバーとして派遣することについて承認された。

(2) JAMI 標準用法と電子処方箋用法の仕様整理WGへのWGメンバー派遣の件

戦略企画部 Action2対応WGメンバーである新垣淑仁氏（戦略企画部 事業企画推進室 副室長）、木村雅彦氏（医療システム部会 相互運用性委員会 委員長）、中湖豊明氏（医事コンピュータ部会 調剤システム委員会 副委員長）、以上3名を本WGの構成メンバーとして派遣することについて承認された。

(3) 国際標準化団体（HIMSS）への派遣者登録追加の件

国際標準化委員会 委員 高尾友美氏をHIMSSエキスパートとして「国際標準化団体への派遣者リスト」に登録追加することについて承認された。

(4) MEDIS「口腔診査情報標準コード仕様メンテナンス委員会」の委員派遣について

医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 副委員長、歯科標準化分科会 リーダ 佐藤孝昭氏の表題委員会への派遣について、同部会本委員会での承認を得られることを前提に承認された。

(5) GS1ヘルスケアジャパン協議会「標準化研究WG」への委員派遣の件

医療システム部会 部門システム委員会 物流システム専門委員会 専門委員長 岡本重敏氏、同専門委員 大森巧氏および田村雄一郎氏の3名の本研究WGへの委員派遣について承認された。

(6) MEDIS「歯科分野の標準化委員会」への委員派遣の件

医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村雅彦氏を本委員会に委員派遣することについて承認された。

- (7) WAM NET事業推進専門委員会 委員派遣の件
保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本昭彦氏を本専門委員会に委員派遣することについて承認された。
- (8) 「歯科分野の標準化委員会」の委員派遣の継続について
医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 副委員長、歯科改正分科会 リーダ 小森 一秀氏を本委員会に委員として継続派遣することについて、医事コンピュータ部会本委員会の承認を得られることを前提として承認された。
3. 標準化推進部会 国際標準化委員会 特別委員委嘱および派遣者リスト変更の件
中里俊章氏の表題の委員会への特別委員委嘱および国際標準化団体への派遣者リストへの記載変更について承認された。
4. 定款改定について
JAHIS活動のデジタル化を推進するため、定款内の「書面により」、「書面をもって」等の条文の変更案について、今後5月の定例理事会および6月の定時社員総会に向けた検討について第11回運営会議での検討を踏まえた改定案が承認された。本案は定例理事会（5月20日）、および定時社員総会（6月11日）での議題として起案予定。
5. 2024年度第1回定例理事会議案等審議の件
表題の会議の概要とスケジュール等について説明がされ承認された。
6. 2023年度 表彰候補者選考会結果および幹部の功労表彰対象者の件
定時社員総会（6月11日）での表彰者として、奨励賞（個人）3名、功績賞（個人）7名、功績賞（連名）2組（6名）、功績賞（グループ）4グループ（68名）および幹部表彰1名が対象として承認された。
7. 女性活躍タスクフォースへの参加資格拡大枠の件
表題タスクフォースへの参加資格について総務会規則（JAHIS規則101号）第3条3項を適用し、全ての会員種別に拡大することについて承認された。
8. 厚労省「令和6年度訪問看護療養費レセプトの電子化およびレセプトオンライン請求の促進に関する調査等一式」への協力依頼の件
医事コンピュータ部会の下記6名を本調査の協力について同部会本委員会の承認を得ることを前提として承認された。
- ・介護システム委員会 委員長 畠山仁氏、副委員長 石河竜太氏、および高橋和彦氏、医療訪問看護報酬改定対応WG リーダ 今村将訓氏
 - ・医科システム委員会 医科改正分科会 リーダ 西口妙子氏
 - ・歯科システム委員会 副委員長 佐藤孝昭氏
9. 事業推進部会 副部長の交代について
山本嗣雅氏の辞任に伴い、塩川英二氏を後任とすることについて確認し、承認された。

2024年度 第2回運営会議議事要約

＜日時＞：2024年5月21日（火）14:15～15:42

＜場所＞：ハイブリッド会議

1. 電子投票結果

- (1) 対外活動申請 厚労省「HPKI中間認証局の鍵更新に関する説明会の説明要員の派遣」の件
5月20日実施の電子投票において、表題の要員派遣について承認されたことが報告された。

2. 対外活動申請

- (1) MEDIS-DC「看護実践用語標準マスタのデータ利用に関するタスクフォース」への委員派遣の件
医療システム部会 部門システム委員会 病棟業務支援システム専門委員会 専門委員長 木戸須美子氏、同専門委員会 看護情報WG リーダ 汐崎弘子氏の2名の委員派遣が承認された。
- (2) アクセンチュア(株)「電子版母子健康手帳ガイドラインに関する検討会」への委員派遣の件
保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本昭彦氏を本検討会への委員派遣することについて承認された。
- (3) 国民健康保険中央会「障害者総合支援事務処理システム検討会」への派遣委員変更の件
中山清弘氏の退任に伴い、小島剛氏を後任として委員会に派遣することについて承認された。

3. 2024年度6月以降のJAHIS運営体制の件

2024年度のJAHIS運営体制案について説明がされ、定時社員総会（6月11日）での承認を前提として承認された。

2024年度 第3回運営会議議事要約

＜日時＞：2024年6月18日（火）15:00～17:32

＜場所＞：ハイブリッド会議

1. 電子投票結果

- (1) 対外活動申請「第27回保健医療福祉分野における公開鍵基盤認証局の整備と運営に関する専門家会議へのオブザーバ要員派遣」の件
6月7日実施の電子投票において、表題の要員派遣について承認されたことが報告された。

2. 対外活動申請

- (1) 厚生労働省 令和6年度「医療機能情報提供制度・薬局機能情報提供制度の全国統一システムの運用・保守・改修に係るプロジェクト管理支援業務」検討委員会委員への委員派遣の件
保健福祉システム部会 運営幹事 中光敬氏の委員派遣について承認された。
- (2) 名古屋大学「Clinical Informatics 基盤形成教育プログラム」への講師派遣の件
表題の講義への下記5名の講師派遣について承認された。
- ・戦略企画部 部長 山内俊幸氏
 - ・戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林俊夫氏
 - ・標準化推進部会 普及推進委員会 委員長 田中宏明氏
 - ・医事コンピュータ部会 森本健一氏
 - ・医療システム部会 セキュリティ委員会委員長 茗原秀幸氏

- (3) 一般社団法人医療安全全国共同行動 患者安全行動計画部会への委員派遣の件
電子カルテ委員会 委員長 岡田靖士氏の委員派遣について承認された。
- (4) 地方公共団体情報システム「共通機能等技術要件検討会」へのオブザーバ推薦の件
福祉システム委員会 委員長 金本昭彦氏の検討会への派遣について承認された。
- (5) 国民健康保険中央会「後期高齢者医療広域連合標準システム研究会」へのオブザーバ推薦(変更)の件
山田幹太氏の退任に伴い、天野隆興氏を後任として委員会に派遣することについて承認された。
3. 2024年度6月以降の外部団体における役職の確認の件
2024年度の運用体制変更に伴う外部団体役職等の就任内容について確認し、承認された。
4. 戦略企画部 企画委員会 委員の会員ランク変更に伴う活動継続の件
国分令典氏の所属会社がCランク会員となるため、JAHIS規程に基づき、本運営会議によって活動継続について審議のうえ、承認された。
5. 部門システム委員会の委員長および副委員長の委嘱について
福重二三男氏の委員長委嘱および近藤恵美氏の副委員長委嘱について所属会社がFランク会員となるため、JAHIS規程に基づき、本運営会議によって審議のうえ、承認された。
6. 部門システム委員会の予算移管について
委員会再編に伴い、統合元の旧組織の予算を統合先の新組織への移管について承認された。
7. 検査システム委員会 臨床検査システム専門委員会 外注検査データ交換ガイド作成WGのリーダー交代について
リーダー候補である川田剛氏の所属会社がCランク会員となるため、JAHIS規程に基づき、本運営会議によって審議のうえ、委嘱が承認された。

委員派遣ならびに講演、寄稿、取材等（2024年1月～2024年6月 運営会議承認分）

【委員派遣・研究会等】役職は運営会議承認時点

(登録番号)

- 一般社団法人 医療情報標準化推進協議会 (HELICS協議会) (24-02-001)
「透析情報標準規格HL7 FHIR記述仕様」審査委員会 委員
2024年2月20日～
標準化推進部会 国内標準化委員会 副委員長 光城 元博
- 一般社団法人 医療情報標準化推進協議会 (HELICS協議会) (24-03-003)
標準化委員会 委員
2024年3月19日～未定
標準化推進部会 国内標準化委員会 副委員長 光城 元博
- 一般社団法人 医療情報標準化推進協議会 (HELICS協議会) (24-03-004)
「個別医薬品コード(YJコード) リスト」HELICS指針申請において設置する審査委員会
2024年3月19日～2025年3月31日
審査委員 医事コンピュータ部会 調剤システム委員会 委員長 宮島 毅
オブザーバ 医事コンピュータ部会 マスタ委員会 副委員長 中嶋 美和

4. 国立大学法人 東京医科歯科大学 (24-03-005)
厚生労働省「歯科情報の利活用推進事業（歯科診療情報による身元確認のためのデータベースに関する検証等）に係る検証事業等」委員
2024年3月19日～2024年3月31日
医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 副委員長 佐藤 孝昭
5. 日本医療情報学会・日本クリニカルパス学会 (24-03-006)
合同委員会 オブザーバ
2024年4月1日～期限なし
医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長 岡田 靖士
同 委員会 副委員長 太田 聡司
同 委員会 副委員長 根来 亮介
同 委員会 委員 道家 直之
6. 公益社団法人 日本医業経営コンサルタント協会 (24-03-008)
近畿地区協議会 2024年度「医療DX研究会」
2024年4月1日～2025年3月31日
医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原 秀幸
7. 一般財団法人 医療情報システム開発センター（MEDIS-DC） (24-03-009)
「口腔診査情報標準コード仕様メンテナンス委員会」委員
2024年4月1日～2025年3月31日
医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村 雅彦
8. シドニー大学 (24-03-010)
厚労科研「薬剤師の対人業務の評価指標の開発のための研究」における薬局薬剤師業務の質評価（QI）を検討する研究班 委員
2024年4月1日～2026年3月31日
医事コンピュータ部会 調剤システム委員会 委員長 宮島 毅
9. 保健・医療・福祉情報セキュアネットワーク基盤普及促進コンソーシアム（HEASNET） (24-04-002)
運用検討WG委員
2024年4月23日～
戦略企画部 事業企画推進室 副室長 齋須 亨

10. 一般社団法人日本医療情報学会 (24-4-003)

JAMI標準用法と電子処方箋用法の使用整理WG WGメンバ

2024年4月24日～期間定めず

戦略企画部	事業企画推進室	副室長	新垣 淑仁
医療システム部会	相互運用性委員会	委員長	木村 雅彦
医事コンピュータ部会	調剤システム委員会	副委員長	中湖 豊明

11. 一般財団法人 医療情報システム開発センター (MEDIS-DC) (24-4-004)

「口腔診査情報標準コード仕様メンテナンス委員会」委員

2024年4月23日～2025年3月31日

医事コンピュータ部会 歯科システム委員会 歯科標準化分科会 リーダ 佐藤 孝昭

12. 一般財団法人 医療情報システム開発センター (MEDIS-DC) (24-04-005、24-04-008)

「歯科分野の標準化委員会」委員

2024年4月23日～2025年3月31日

医事コンピュータ部会	歯科システム委員会	歯科改正分科会	リーダー	小森 一秀
医療システム部会	相互運用性委員会	委員長		木村 雅彦

13. 株式会社クニエ (24-04-006)

「令和6年度訪問看護療養費レセプトの電子化及びレセプトオンライン請求の促進に関する調査等一式」への協力

2024年4月23日～2025年3月31日

医事コンピュータ部会	介護システム委員会	委員長	畠山 仁
	介護システム委員会	副委員長	石川 竜太
	介護システム委員会	副委員長	高橋 和彦
介護システム委員会	医療訪問看護報酬改定対応WG	リーダー	今村 将訓
医科システム委員会	医科改正分科会	リーダー	西口 妙子
歯科システム委員会	副委員長		佐藤 孝昭

14. GS1ヘルスケアジャパン協議会 (24-04-007)

標準化研究WG 委員

2024年4月23日～2025年3月31日

医療システム部会	部門システム委員会	物流システム専門委員会	専門委員長	岡本 重敏
	同専門委員会	委員		大森 巧
	同専門委員会	委員		田村 雄一郎

15. 独立行政法人福祉医療機構 (24-04-009)

WAM NET事業推進専門委員会 委員

2024年4月23日～2026年3月31日

保健福祉システム部会 福祉システム委員会委員長 金本 昭彦

16. 一般財団法人 医療情報システム開発センター (MEDIS-DC) (24-05-002)
「看護実践用語標準マスターのデータ利用に関するタスクフォース」委員
2024年5月21日～2025年3月31日
医療システム部会 部門システム委員会 病棟業務支援システム専門委員会 専門委員長 木戸 須美子
同専門委員会 看護情報WG リーダ 汐崎 弘子
17. アクセンチュア株式会社 (24-05-003)
電子版母子健康手帳ガイドラインに関する検討会 委員
2024年5月21日～2025年3月31日
保健福祉システム部会 福祉システム委員会委員長 金本 昭彦
18. 公益社団法人国民健康保険中央会 (24-05-004)
「障害者総合支援事務処理システム検討会」委員
2023年4月1日～2025年3月31日
保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本 昭彦
同 委員会 委員 茶珍 啓一郎
同 委員会 委員 入江 徹
同 委員会 委員 長井 陽菜
同 委員会 委員 鴻谷 則和
同 委員会 委員 長尾 竜一郎
同 委員会 委員 山下 隆二
2024年5月21日～2025年3月31日
同 委員会 委員 小島 剛
19. 厚生労働省 医政局参事官(特定医薬品開発支援・医療情報担当) 付 医療情報室 (24-06-001)
第27回保健医療福祉分野における公開鍵基盤認証局の整備と運営に関する専門家会議 オブザーバ
2024年6月11日
戦略企画部 Acces2対応WG リーダ 新垣 淑仁
20. 厚生労働省 医政局、厚生労働医薬・生活衛生局 (24-06-002)
令和6年度「医療機能情報提供制度・薬局機能情報提供制度の全国統一システムの運用・保守・改修に係るプロジェクト管理支援業務」検討委員会委員、ワーキンググループ構成員 委員
2024年7月1日～2025年3月31日
戦略企画部 運営幹事 中光 敬
21. 一般社団法人医療安全全国共同行動 (24-06-004)
患者安全行動計画部会 委員
2024年6月18日～2025年3月31日
医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長 岡田 靖士

22. デジタル庁 (24-06-005)

地方公共団体情報システム「共通機能等技術要件検討会」オブザーバ

2024年6月18日～2026年3月31日

保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本 昭彦

23. 国民健康保険中央会 (24-06-006)

「広域連合標準システム研究会」オブザーバ

2024年6月18日～終了まで

保健福祉システム部会 福祉システム委員会 副委員長 川崎 英樹

同委員会 後期高齢WG リーダ 岩田 孝一

同委員会 後期高齢WG 委員 山田 幹太

【講演、寄稿、取材等】役職は運営会議承認時点

1. 一般財団法人日本遠隔医療学会 (24-01-001)

日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2024 講師

2024年2月10日

戦略企画部 事業企画推進室 副室長 新垣 淑仁

2. 奈良県立医科大学付属病院（池田一之先生） (24-01-002)

厚生労働科学研究「各国の電子処方箋の制度及び医療DXの実態の把握のための研究」

公開シンポジウムでの講演およびシンポジスト対応

2024年3月16日

医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村 雅彦

3. 九州大学病院 MIC (24-02-002)

標準クリニカルパスを用いた医師の働き方改革シンポジウムでのパネリスト対応

2024年3月15日

医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長 岡田 靖士

4. 日本福祉介護情報学会 (24-02-003)

日本福祉介護情報学会シンポジウム 演者

2024年3月23日

保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本 昭彦

5. 日経ヘルスケア (24-03-001) (24-03-002)

診療報酬改定の医療DXに関する取材対応

2024年3月

医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原 秀幸

医事コンピュータ部会 医科システム委員会 委員長 清水 力

医事コンピュータ部会 運営幹事 竹中 裕三

6. 一般社団法人 日本輸血・細胞治療学会 (24-03-007)
第72回輸血細胞治療学会総会サテライトセミナー 講演
2023年5月30日～2024年6月1日のいずれか1日
医療システム部会 電子カルテ委員会 患者安全ガイド専門委員会 委員 天満 一宏
7. 公益財団法人 日本訪問看護財団 (24-04-001)
日本訪問看護財団機関紙「ほうもん看護」への対談記事掲載
2024年4月上旬
医事コンピュータ部会 介護システム委員会 副委員長 石川 竜太
8. 厚生労働省 大臣官房総務課 (24-05-001)
HPKI中間認証局の鍵更新に関する説明会 説明要員
2024年5月20日
医療システム部会 セキュリティ委員会 HPKI電子署名規格作成WG リーダ 有馬 一閣
9. 名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター（白鳥センター長） (24-06-003)
Clinical Informatics 基盤形成教育プログラム (NAGOYA Clinical Informatics Program,
NCIP) 講師
2024年6月18日～2024年7月
戦略企画部 部長 山内 俊幸
戦略企画部 事業企画推進室 室長 小林 俊夫
標準化推進部会 普及推進委員会 委員長 田中 宏明
医事コンピュータ部会 委員 森本 健一
医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原 秀幸

新規会員紹介

会誌第72号（2024年2月発行）掲載以降に新たに入会された会員各社の皆様から、会社の業務概要やJAHISへの参加目的、活動する上でのJAHISに望むことなどについて、メッセージをいただきましたので、入会日順に掲載します。

株式会社エー・アンド・デイ（2024年1月4日入会）

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-23-14

TEL：03-5391-6123（代表）

<https://www.aandd.co.jp/products/medical/>

第3設計開発本部 第2部 25課 菊池 隆広

株式会社エー・アンド・デイは「はかる」ことを通じ、産業と社会の発展に貢献しています。私たちが提供している計測・計量機器と医療・健康機器はさまざまな産業の現場で、そしてご家庭で幅広くお使いいただいています。

医療・健康分野におきましては、皆様ご承知のとおり少子高齢化の進行により医療リソース不足がますます深刻な状態になり、現場業務の効率化や遠隔医療のニーズが高まっています。その課題解決として、医療DXへの取組みが必要とされています。また、健康寿命延伸のための予防医療として、誰もがスマホで手軽に健康管理を行い、バイタルデータを患者と医療機関が共有することにより病気の予防と早期発見ができる世の中が理想とされています。

このたび、弊社はJAHIS2024年度事業計画、特に2030ビジョンで描くヘルスケアICTの実現に向けた推進策に賛同し、入会させていただくことになりました。JAHISおよび会員の皆様とさまざまな情報を共有させていただくことで、JAHIS2030ビジョン実現のために微力を尽くしたいと考えています。

事業内容

電子計測器、産業用重量計、電子天びん、医療用電子機器、試験機 その他 電子応用機器の研究開発、製造、販売

株式会社 日本HP (2024年4月1日入会)

〒108-0075 東京都港区港南1丁目2番70号 品川シーズンテラス21階

TEL : 0120-830-130 (法人様お問合せ先)

<https://www.hp.com/jp-ja/> (日本HP)

<https://jp.ext.hp.com/prod/workstations/> (ワークステーションページ)

<https://jp.ext.hp.com/prod/workstations/solutions/healthcare/> (ワークステーション医療ページ)

エンタープライズ営業統括 ソリューション営業本部 ワークステーション営業部 市場開発 小俣 裕二

HPは、1939年に米国カリフォルニア州のガレージで創業したヒューレット・パッカードカンパニーを祖とし、全世界170か国以上でパソコンおよびプリンター事業を展開しています。国内においてはパソコンやワークステーションの東京生産など、日本市場に根差した事業を推進しています。

高性能、高信頼性パソコンに位置づけられるHPのワークステーション製品は、全世界の医療ビジネスパートナー様のソリューションと共に、世界中の医療現場で数多くの採用実績を誇ります。国内においても画像診断、電子カルテ等様々な医療の現場で多数のご採用をいただいております。

今回、日本の医療DXや医療情報システムについて、関係者の皆様から教えていただきながら理解と協調関係を深めることによって、微力ながら医療業界に貢献できるようになりたいと思い、会員登録をさせていただきました。何卒よろしくお願い申し上げます。



キンドリルジャパン株式会社 (2024年4月1日入会)

〒106-6143 東京都港区六本木6丁目10-1 六本木ヒルズ森タワー43階

<https://www.kyndryl.com/jp/ja>

公益・地域共創事業部 医療営業統括部長 堀本 明男

キンドリルジャパン株式会社は、2021年にIBMのITサービス事業部が独立した世界最大規模のマネージド・インフラストラクチャーサービスの会社です。世界中の大手のお客様のIT環境を設計・構築・運用してきた実績とその知見を日本のお客様にも還元し続けております。現在の医療業界で検討されている様々なデジタル変革を実現するためには、その構想や製品/テクノロジーを技術的に試行・

検討するだけでなく、現実に動くシステムとしてIT環境を設計・実装し、継続的なデータ利活用で
 ける運用、セキュリティを確実に担保する仕組みとして実現する必要があります。どのようなDX推進
 活動においても、その多くは最終的に何らかのIT環境として実現、そして効率的に運用していく必要
 がある点を再確認し、そのために必要な考慮点、取り組みに注力した提案活動をおこなっております。

株式会社シーイーシー（2024年4月1日入会）

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原1-6-1

TEL：06-6396-3456

<https://www.cec-ltd.co.jp/>

エリア統括事業本部 西日本サービス事業部 事業部長 高井 英行

弊社は創業57年目を迎える独立系システムインテグレーターとして、お客様とともにその課題解決
 に取り組みながら、事業領域、サービスを拡大し、日本のICT産業発展とともに成長してまいりました。
 特に医療機器メーカー様や医療情報メーカー様向けに製品ソフトウェアのものづくりを中心にご支援
 しております。

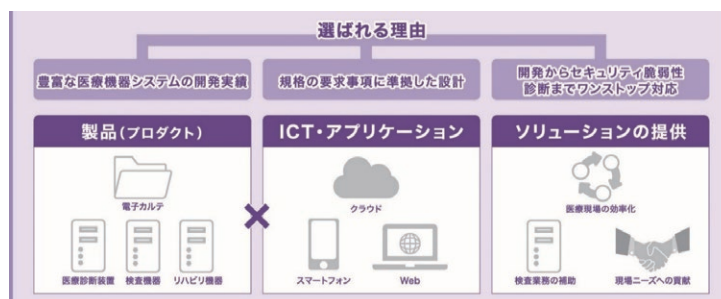
【医療機器に対する弊社の強み】

医療機器に求められる規格に準拠したソフトウェア設計・開発・テストが可能です。

医療機器や医療サービスには「IEC81001-5-1」や「3省2ガイドライン」への対応が求められておりますが、
 弊社では規格で求められる要求事項を考慮し、製品ソフトウェアの仕様や設計に
 落とし込んで開発を行います。またお客様でお持ちの標準作業手順書をベースに
 市場提供済みの製品が規格に対応できているかを調査し、不足があれば設計書な
 どのドキュメント改版やシステム開発を行うことで規格に対応した製品の提供を
 ご支援しております。

【医療情報サービスに対する弊社の強み】

国が推進する医療DXのため、データ利活用するための基盤として、オンライン資格認証/電子処方箋/マイナンバーポータルやデータ連携としてHL7FHIRの知見を活かして、電子カルテ等の情報連携基



箇条4：一般要求事項	各開発工程にサイバーセキュリティ関連のチェック項目を設計 ・システム構成（インフラ関連）のセキュリティ対策 ・二要素認証などのセキュリティ機能の検討 ・個人情報保護観点での検討
箇条5：開発プロセス	・Webシステムの場合、WAFなどの設定の必要有無の検討 ・ウイルス対策ソフトの導入有無の検討
箇条7：リスクマネジメント	・OSSを使用する場合は、脆弱性の確認・開発環境のセキュリティパッチの確認、モジュール作成環境の更新を検討 ・アプリ機能としてのセキュリティ検討（SQLインジェクション、XSS、過渡の暗号化など） ・セキュリティ観点での監査記録（ログなど）機能有無の検討
箇条6：保守プロセス	継続開発を行っている中で、開発環境などで脆弱性情報を入手し、情報展開を実施 定期的にチェックを行う仕組みを構築
箇条9：問題解決	・使用するOSSの脆弱性有無の確認 ・Microsoft Visual Studioなどの開発環境のセキュリティパッチの有無
箇条8：構成管理	・通常のソフトウェア開発と同様にソフトウェアのバージョンと対応内容の管理を実施 ・複数ツールを検証し、適切なツールの選定 ・開発対象アプリのSBOM作成 ・SBOMを活用した、OSSの脆弱性有無のチェック

お客様	プロジェクト	開発内容	期間	セキュリティ対応
医療機器メーカー	点滴管理システム	点滴の量を管理・制御するWindows系のアプリケーション開発	2年	・IEC 81001-5-1に準拠したソフトウェア開発 ・IEC 62304に準拠した開発プロセス ・Winアプリ・機器ペネトレーションテスト
検査機器メーカー	臨床検査システム	臨床検査の指示や結果を病院～センター間でつなぐクラウドWebシステム開発	6か月	・3省2ガイドラインに準拠したセキュリティ要件開発 ・IEC 62304に準拠した開発プロセス ・Webシステムの脆弱性診断
医療機器メーカー	シリンジ管理システム開発	薬剤の量を管理・制御するWindows系のアプリケーション開発	1年	・IEC 81001-5-1に準拠したソフトウェア開発 ・IEC 62304に準拠した開発プロセス ・Winアプリ・機器ペネトレーションテスト ・SBOM作成 ・OSS脆弱性検証
製造メーカー	リハビリ運動可視化システム開発	リハビリ運動の状況を可視化するクラウド・スマホアプリ開発	2年	・3省2ガイドラインに準拠したセキュリティ要件開発 ・IEC 62304に準拠した開発プロセス
医用電子機器メーカー	バイタルデータの管理システム	血圧や脈波などのヘルスケアデータを管理し、データの変化を通知するスマホアプリ開発	6か月	・3省2ガイドラインに準拠したセキュリティ要件開発 ・IEC 62304に準拠した開発プロセス ・SBOM作成 ・OSS脆弱性検証

盤等の設計・開発・テスト・脆弱性診断等をご支援差し上げております。

また、「医療DX令和ビジョン2030」の電子カルテ普及率100%に向けて動きのあるクラウド型電子カルテにおいても、マルチクラウド対応のシステム開発やオンプレミスからクラウドシフトへのマイグレーションサービス、リモートでのクラウド監視やセキュリティに特化した監視サービスなど多岐にわたる分野でご支援を行っております。

入会を機に最新の医療制度や業界動向などを素早くキャッチすることで、上流設計からの強化と標準化に向けた取り組みを行い、JAHISや医療業界の発展に寄与できればと考えております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

株式会社ヨシダデンタルシステム (2024年5月1日入会)

〒111-0056 東京都台東区小島2-6-11 ヨシダ小島ビル3階

TEL : 03-5821-1451

<https://www.yds-profit.com/>

営業部 部長 筒井 郁雄

株式会社ヨシダデンタルシステムは、歯科の総合商社、株式会社ヨシダのグループ会社で、主にシステムの開発を行っております。JAHISにはヨシダが入会しておりましたが、この度ヨシダがJAHISを退会し、変わって弊社が入会させていただき運びとなりました。

弊社は、歯科用カルテコンピュータ「profit」の開発を祖業とし、予約管理システムの「e-Apoシリーズ」や画像ビューアソフトの「action GATE」などを開発しております。

更に医院経営のサポートやDXに寄与できる商品「action GATE SYSTEM」もラインナップに加え、診療から経営のサポートまであらゆる場面でご利用頂けるシステムをワンストップでご提供しております。

JAHISから改定関連の情報や、医療DXに関わる情報をご共有いただき、今後もお客様が安心してお使い頂ける商品開発を継続して行く所存です。

また微力ながら貴会や業界発展のために尽力いたしますので、今後とも宜しくお願い致します。

NECソリューションイノベータ株式会社 (2024年5月1日入会)

〒136-8627 東京都江東区新木場1-18-7 NECソリューションイノベータ本社ビル

TEL : 03-5534-2222 (代)

<https://www.nec-solutioninnovators.co.jp/>

パブリック事業ライン 医療ソリューション事業部 理事兼事業部長 門田 充夫

当社パブリック事業ライン 医療ソリューション事業部では、北海道から沖縄まで各エリアに拠点を配し、NECグループの一員として全国約300の地域医療を支える中大規模医療機関に対して、電子カ

ルテ、医事会計システムを始めとしたHISから各種部門システムまでトータルな医療情報システムの開発、構築、運用サポートを行っています。

また、医療DXによる病院経営や医療業務の高度化、地域医療の連携による利便性向上を支援しています。更に、疾病予防や健康寿命延伸といった社会課題解決に向け、ヘルスケア領域の事業化も推進しています。



■医療ソリューション事業部ミッション

予防サービス・医療/健康情報へのアクセス・地域医療をつなぎ、途切れない医療を提供するためのITバリュープロバイダとして新しい医療バリューネットワークをITで支えます。お客様により高い価値を提供し続け、医療・ヘルスケア事業の継続的な発展を目指しています。

■組織機能（事業・サービス）

- ・電子カルテシステムなどの病院情報システムの構築・運用をサポート
- ・AIを活用した病院経営や診療支援の高度化、地域医療連携のIT化といった医療DXを推進
- ・AIを活用した疾患リスク予測によるヘルスケア領域も推進

今回、JAHISへの入会そして活動参加を通し、最新の医療業界動向を吸収し、知見を積ませて頂くことで、JAHISが掲げる医療情報システムの標準化等に取り組み、貢献していきたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

株式会社アルメックス (2024年6月1日入会)

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア

TEL：03-6820-1440

<https://www.almex.jp/>

マーケティングセールス本部 医事DX推進部 手島 哲也

株式会社アルメックスは、「テクノホスピタリティ（TECHNO-HOSPITALITY）を世界へ」を理念に掲げ、有形無形のソリューションを提供しています。

テクノホスピタリティは、最先端のテクノロジーと最善のおもてなしから生まれるホスピタリティの高度な掛け合わせにより、お客さまと、その先にいるエンドユーザーさまのニーズを満たすプロダクトやサービスを提供することを意味します。私たちの事業は、製品やサービスの企画から組織変革に至る全ての取り組みでテクノホスピタリティを根幹としています。

私たちは、病院、クリニックや薬局など医療機関に向けた自動精算機の開発と提供で、この分野において市場トップシェアを持ちます。また、現金から各種キャッシュレスにわたる精算業務を起点と

して受付や案内設備システムと、その業務に付帯する各種ソフトウェアの提供も事業領域とし、これらの連携によって業務の効率化と改善を可能とするトータルソリューションとしての価値を高めています。

医療分野では、類を見ない高齢化社会を背景として、患者さまの利用環境の向上と医療従事者さまの負担軽減に資するデジタル化やDXの推進が求められています。これらの課題の解決に貢献することも私たちの大きな役割です。私たちはすでに国内2,000の医療機関に自動精算のソリューションを提供していますが、今後は診察券のデジタル化や、マイナンバーカードでの受付にも対応する新たな製品を提案し、医療サービスのDX推進を支えて参ります。

私たちのソリューションは、人が担ってきた業務を機械に置き換えるだけでなく、人にしかできない「おもてなし」に携わる環境づくりを推進します。これはまさに私たちが目指すテクノホスピタリティの実践です。未来に向けたお客さまのサステナブルな成長を支えるために、私たちは常にお客さまとユーザーの視点に立ち、絶え間ない努力と挑戦を続けていきます。

入会を機にJAHISと医療業界の更なる発展に貢献して参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



ランクアップ会員紹介

株式会社ナイス (2024年4月1日付 C会員)

〒461-0004 愛知県名古屋市東区葵1-16-38 葵ガーデンビル2階

TEL : 052-908-2511

<https://www.naiscorp.co.jp/>

医療システム事業本部 執行役員 田辺 晃章

.....
弊社は1973年に設立し、昨年50周年を迎えました。

医療関連パッケージ「Medical Leader」シリーズである「医事会計システム ML-A Plus」と「精神科病院向け電子カルテシステム ML-R kirari」は、全国の多くの病院、診療所でトータルなシステムとして好評を頂き、お陰様で1100施設を超えるお客様にご利用頂いています。

ユーザーと緻密なノウハウの交換を図り、時代のニーズにあった、より高度なシステム開発を常にすすめ、病院経営の総合サポートを目指しております。

昨今、医療DXの推進により、業界を取り巻く環境が日々変化しているなかで、益々JAHISの役割が高まってきていると考えており、弊社の会員種別を「D会員」から「C会員」へ変更しました。

これからもお客様から選んで頂けるパートナーを目指し、そしてJAHISの活動に少しでも貢献できればと考えております。

就任のご挨拶

事務局 事業推進担当部長

さ さ き はじめ
佐々木 元



今年7月よりJAHIS事務局に着任いたしました佐々木 元です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は学生時代に医用精密工学を学び、日立製作所に入社しました。中央研究所でヘルスケアITシステムの研究に15年間従事し、携帯情報端末を用いた看護支援システムや患者情報を一覧できる電子カルテシステム、蓄積データを活用した診療プロセス分析支援システムや病院経営支援システムなどを研究しました。途中アメリカのワシントンDCへ約2年赴任し、コーポレート事務所と現地ベンチャーキャピタルファンドに駐在して医療・バイオ分野の大学やスタートアップ企業の技術動向や市場動向の調査・分析を行いました。その後日立メディコへ転籍となり、医用画像管理システム（PACS）の製品開発プロジェクトやヘルスケアIT事業の事業戦略などに従事しました。2014年からは約3年間イギリスのマンチェスターへ赴任し、現地病院との医療ビッグデータ分析の共同研究に携わりました。赴任中の事業統合により日立製作所に帰任したのち、フランスのがんセンターとのAI活用の共同研究プロジェクトをとりまとめ、2019年にリヨンへ赴任して現地ラボを立ち上げて、AIを用いた画像診断支援とバイオマーカー探索の研究プロジェクトを推進しました。赴任中の事業買収により2022年に富士フイルムヘルスケアへ帰任し、今年の7月に富士フイルムへ異動となり現在に至ります。

こうして振り返ってみますと、医療現場にITが導入され電子カルテシステムが普及し始めた黎明期から一貫してヘルスケアITにかかわる仕事をさせていただいてきたことになります。私は学生の頃から医学と工学の融合にかかわる仕事をしたいという希望を持ち続けてまいりましたので、会社や勤務地は変われどもその希望に沿った仕事を続けてこられたのはとても幸運なことだと思っています。このたびJAHIS勤務を拝命し、ちょうど私が社会人となった同じ年にJAHISが発足したことを改めて思い出して不思議なご縁を感じております。これまでの経験を活かし、少しでも会員企業の皆様のお役に立ち、ヘルスケアIT産業の発展に貢献できますよう、微力を尽くしたいと存じます。

現在は八王子の緑豊かな郊外に妻と子供二人と暮らしております。JAHISへは片道2時間近くかかりますが、早朝に自宅を発ち都心の公園や建築物や史跡を眺めながらウォーキングするのが以前からの日課となっております。新橋で勤務するのは初めてですので、日々の新しい発見を楽しみにしております。

出身は秋田で、今でも折に触れて帰郷しております。美しい大自然と美味しい食べ物やお酒も楽しみですが、親きょうだいや親戚、友人らと再会して語り合うのが何よりの喜びで、妻の実家がある信州と共に家族旅行の定番の行き先となっています。以前は車でスキー場や温泉をめぐるのが大好きで

したが、たびたび海外赴任となったり子供が大きくなったりしてからはなかなか難しく、ご無沙汰しております。

海外での生活はかれこれ通算8年近く経験しました。赴任先で暮らした街も出張や旅行で訪れた街もそれぞれ思い出深く忘れがたいですが、やはり直近のフランスでの初めての単身赴任が最も印象に残っています。2年半の滞在のうち2年以上が新型コロナウイルスのパンデミックで外出もままなりませんでしたが、リモート勤務を駆使して任務を完遂できました。せっかくフランスにいたのにカフェやレストランは閉鎖されていましたが、ネットのレシピ動画で料理を学んでかなり上達したのはよい思い出です。

実はJAHISに関わる仕事は今回が初めてで、慣れない仕事に戸惑いながら対応しております。至らぬ点も多くご不便をおかけすることがあるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。



ロックダウンで人通りの絶えたりヨン中心部



ブルゴーニュ地方のワイナリーにて



ロックダウン中に作った料理

就任のご挨拶

事業企画推進室 副室長

さい す とおる
齋須 亨



はじめまして。2023年11月より事業企画推進室の副室長として従事しております齋須と申します。JAHISでは、医療システム部会のセキュリティ委員会で目立たず、地味に活動を行っていましたが、運営部への突然の配属にはたいへん戸惑っております。何卒暖かい心で接していただけると幸いです。

さて、私の社会生活は、1990年代に株式会社東芝に入社し、栃木県大田原市（通称「那須」とも呼ばれている）にある事業所への配属からスタートしました。画像診断機器の研究開発の業務からはじまり、2000年代になると、東京の本郷にある事務所（東大附属病院のお膝元）へ転勤となり、医療情報システムを管轄する事業部へ配属になりました。これとほぼ同時に、医療部門が丸ごと分社化され東芝メディカルシステムズ株式会社となりました。2010年代になると、多くは語りませんが、ある日から社名がキヤノンメディカルシステムズ株式会社に変わりました。そして、2020年代の昨年に、JAHISへ出向となり、皆様にお世話になることになりました。医療業界での仕事は変わりませんが、10年のスパンで看板（肩書）が大きく変わる生活を送っています。

このような人生を過ごしながら、自分をリフレッシュできる事をいろいろと取り組んでいます。この中でも、自宅庭で行う野良作業は、さまざまな自然の摂理を体験でき、日々の疲れた脳には良い刺激となっています。ここでは、庭に生えている梅の木にまつわる話をいたします。



3月に梅が開花すると、何故か小鳥がたくさん集まってきます。不思議に思いグーグルで検索すると、メジロなどが花の蜜を吸いに集まるようです。受粉にも貢献しているとのことなので、「花に集まるのは昆虫だ」という固定観念が崩れました。

半夏生の頃から梅干し作りを始めます。この過程で化学反応を体験できます。塩漬けにした梅から出る薄い茶褐色の梅酢と赤シソの葉から抽出した紅色の汁を混ぜると、濁っていた2つの液体が一瞬にして鮮やかで透き通った赤紫色の液体に変わります。この液体は梅干しの赤い色を出すための着色に使いますが、梅のクエン酸等と赤シソのアントシアニンとの化学反応で生まれます。何度行ってもこの瞬間は、「ウォー！鮮やか！」と声が出るほど感動します。

梅干しの常温長期熟成にもチャレンジしています。10年ほど経過すると写真のように、白銀をまとう高貴な姿になります。ただし、甘酸っぱい古民家の香りがします。家族には反対されますが、毎年一粒ずつ食べています。今のところ、私の体に大きな変化は起きていません。

このような私は、戦略企画部／事業企画推進室の部屋では、入り口の右手前の席に座っています。183cmの大きな体を揺らしながら、キーボードを叩いて働いています。お気軽に部屋へ入っていただき、「元気ですか〜！」と声をかけてください。いつでも笑顔でお待ちしております。

編集後記

執筆者の皆様におかれましては、ご多忙の中ご寄稿いただきまして、誠にありがとうございます。お蔭様で会誌73号の発刊をおこなうことができました。

この原稿は関東地方の梅雨明け発表の直後に書いています。若い頃は暑さも湿気にも我慢できる体力と精神力もあったのですが、最近の夏の異常な高温には、本当に参ってしまいます。元々が汗っかきで、代謝が良いのだと自分を慰めているのですが、どうにもこの汗の不快感がたまりません。汗と言えば、「気持ちいい汗をかく」の代表格がスポーツの汗ですね。この記事がホームページに掲載される頃には、パリオリンピックも後半に入っていると思います。前回の東京オリンピックが無観客で開催されたのと比較して、どのくらいの盛り上がりを見せているのでしょうか。以前ほど日本代表選手への期待や想いは薄くなっていますが、本気で「相手に勝つ」「記録を更新する」ために挑戦している選手の汗は清々しく感じます。

JAHISは、本年4月に創立30周年を迎えました。この間多くの先輩方のご努力によって、会員間の調整、中央官庁や他の関係諸団体との交渉や連携を重ねて、多くの標準化に向けた成果物ができました。これら成果物を将来に向けて継承発展させ、データ利活用に活かし、利用者と国民に医療データを還元していくためには、各会員の高い倫理観と使命感、そして個人の高いモチベーションが必要になります。「気持ちいい汗」をかく場面はこれからも多くあるかと思います。会員皆様のご協力とご支援を引き続きお願いいたします。

5年前の25周年の時には、帝国ホテルで開催された「25周年記念講演&賀詞交換会」やこれまでのJAHISのあゆみや各界からいただいた多くの寄稿で構成された「25周年記念特別号」（本誌第65号）の企画がありました。今度の30周年企画は、来年1月22日に東京會館にて講演会&賀詞交換会を開催することが確定しております。次号の会誌（74号）では、過去5年間の「気持ちいい汗」のサマリを特集の一つとして取り上げる予定です。

T.T記

一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会 会誌 第73号

令和6年8月5日 発行

発行人：下山 赤城

編集委員会：編集人 寺崎 貴宏
委員 大橋 正
委員 前田 利勝
委員 佐々木 元
委員 柘植 章彦
委員 真野 誠
委員 米納 達二
委員 吉野 裕夫

発行：一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会
〒105-0004 東京都港区新橋二丁目5番5号
新橋2丁目MTビル5階
電話 03-3506-8010
FAX 03-3506-8070
URL <https://www.jahis.jp>

制作：株式会社イズアソシエイツ

